2019 年度 文部科学省

「専修学校による
地域産業中核的人材養成事業」
まちづくりファシリテーター養成講座
調査報告書

令和２(2020)年３月

一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構

目　次

第２部　調査報告

２－１　建築学科を設置している専門学校対象調査　…… ２

２－１－①　学校対象アンケート調査　…… ３
２－１－②　学校対象ヒヤリング調査　…… 10
資料１　協力教育機関（実証講座予定校）　…… 18
新潟工科専門学校
麻生建築＆デザイン専門学校
日本工学院専門学校
資料２　アンケート協力専門学校ホームページ　…… 39

２－２　専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査　…… 69

２－３　行政・企業対象調査　…… 78

２－３－①　行政対象ヒヤリング調査　…… 79
２－３－②　企業対象ヒヤリング調査　…… 87
資料　企業案内・パンフレット抜粋　……105

２－４　事例調査　…… 141

２－４－①　事例検索調査　……142
２－４－②　事例代表者ヒヤリング調査　……153

調査　2－1

建築学科を設置している
学校対象調査

2－1 ―①

2－1－①－ｉ　調査概要

（1）名　称

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する学校対象アンケート調査

（2）実施期間

令和２年１月20日～1月31日

（3）目　的

まちづくりファシリテーター養成講座について専門学校にアンケート調査を行い、そのニーズがあるかを明確にする。合わせて実践する場合、その問題点、実施に向けた方法、そこに求められる必要な知識・スキルなどを調査する。

（4）方　法：

建築士受験資格要件取得が可能な教育機関として認定を取っている専門学校に対してアンケート調査を行う。

（5）母集団と標本サイズ

対象　１６校（回収順）

浅野工学専門学校、岡山科学技術専門学校、日本工学院八王子専門学校建築学科
新潟工科専門学校、青山製図線学校、読売理工医療専門学校、岡山理科大学専門学校、
東京工学院専門学校、麻生建築＆デザイン専門学校、中央工学校、中央工学校 OSAKA、
日本建築専門学校、日本工学院専門学校、サイ・テク・カレッジ美浜、
大阪建設専門学校、日本工学院八王子専門学校建築設計科

（6）分析

アンケートの回答を元に単純集計により分析を行う

分析項目：・学校名
・設置されている学科・コース
・実施してみたいと思うか？
・実施を希望する理由
・必要な知識・スキル・力
・興味のある講義内容
・実施困難だと思う理由

※別添資料　建築系専門学校を対象とした
「まちづくりファシリテーター養成講座」に関するアンケート調査　参照

資　料

建築系専門学校を対象とした

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関するアンケート調査

2020年1月吉日

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構（JCAABE）は、良質な建築、美しい街づくりを目的に設立され、資格や教育活動、行政支援を行っております。この度、文部科学省受託事業「まちづくりファシリテーター養成講座」を専修学校を対象に実施すべく、事業をスタートさせました。まちづくりファシリテーターは、住民の声をまとめたり、行政や専門家と共に、まちづくり活動をスムーズに進める役割を担っています。これには、まちづくりの知識やコミュニケーション技能が必要であり、そのような人材を育てる講座を目指しています。つきましては、よりよい事業にすべく、下記のアンケートに、ご協力よろしくお願い致します。

□まずはあなたの学校についておこたえください。

(1)学校名をおこたえください。

（　　）

(2)貴校に設置されている学科・ｺｰｽをおこたえください。

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. ２年制　　2. ３年制　　3. ４年制

4. その他

（　　）

□上記のような資格が取得できる講座があったとしておこたえください。

(3)貴校で実施してみたいと思われますか？

1. 是非実施したい　2. 実施したい　3. 普通　4. あまり実施したくない　5. 実施したくない。

※上記質問において１もしくは２を選択した方のみ、お答えください。

(4)実施してみたいと思う理由は何ですか？複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. 将来に役立ちそうだから　　2. まちづくりに興味があるから　　3. 資格がとりたいから

4. 楽しそうだから　　5. 人と人をつなぐことに興味があるから

6. その他、自由にお書きください。

（　　）

(5) まちづくりファシリテーターに必要だと思う知識や力は何だと思いますか？

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. 建築設計力　2. コミュニケーション力　3. 法律に関する知識・力
4. 不動産に関する知識・力　5. ビジネス・マネジメントに関する知識・力
6. チームワーク力　7. 都市に関する知識・力　8. 保存・修復に関する知識・力
9. 防災に関する知識・力　10. エネルギーに関する知識・力　11. 実践力
12. その他、自由にお書きください。

（　　）

(6) 興味のある講義は次のうちどれですか？

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. 都市計画について　2. 合意形成のための知識（まちづくりについて）
3. 合意形成のための手法（実践：ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ等）　4. まちづくりのルール
5. 建築設計における利用者のかかわり　6. リノベーション（改修）
7. 耐震化・不燃化　8. 保存修復について
9. ビジネス・マネジメントについて　10. 不動産
11. 空き家について　12. 事例見学　13. まちづくりの実践
14. その他、自由にお書きください。

（　　）

(7) もし貴校で行うとする場合、難しいと思われる理由をお書きください。

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. カリキュラム上、時間に余裕がない　2. 専門の先生がいない
3. 地域とのつながりがなく実践することが困難　4. 学生に興味がなさそう
5. まちづくりファシリテーターそのものの理解　6. 受講生の募集
7. 実践授業の実施　8. サポートする先生の理解
9. まち歩き授業の実施　10. 見学会の実施
11. 合意形成ワークショップの授業実施　12. 授業での学生の理解
13. その他、自由にお書きください。

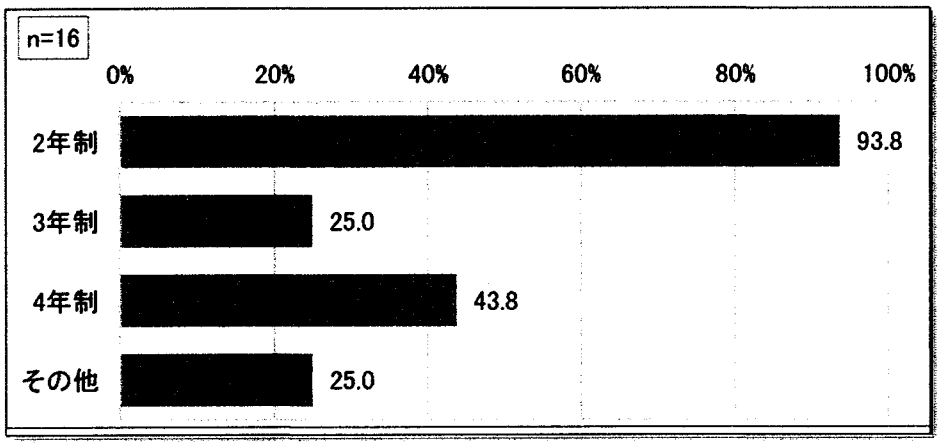
（　　）

ご協力、ありがとうございました。

2－1－①－ii アンケート結果

① 設置学科・コース

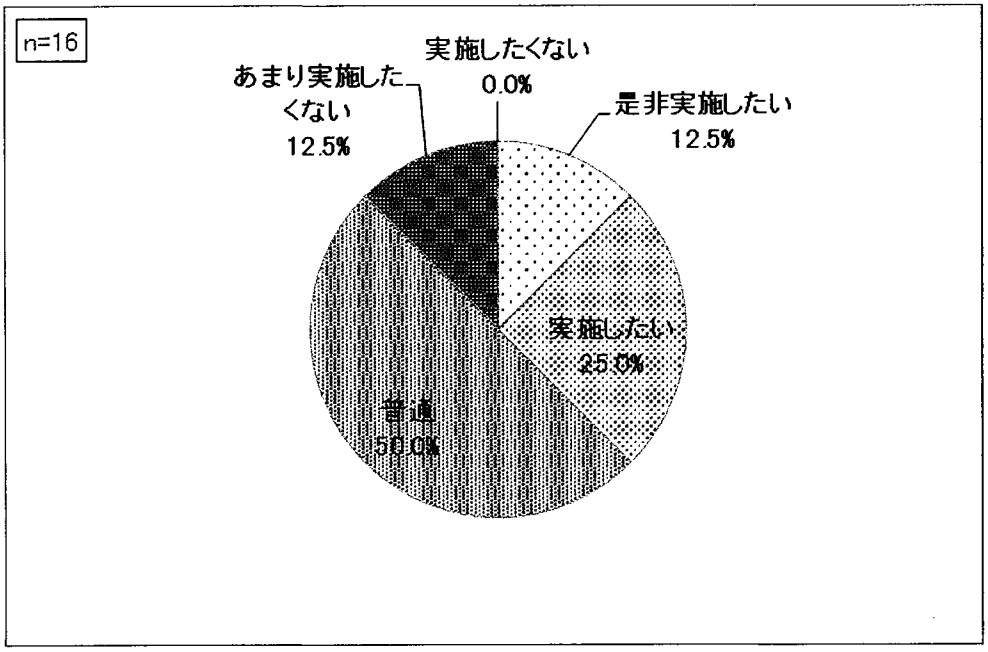
Q２_貴校に設置されている学科・ｺｰｽをおこたえください。



２年制課程の学科、コースを持っている学校は９３．５％と最も多く、ほとんどの専門学校において２年制の学科、コースを持っている。ついで４年制が４３．０％、３年制が２５．０％となっている。

② 実施希望

Q３ 貴校で実施してみたいと思われますか？

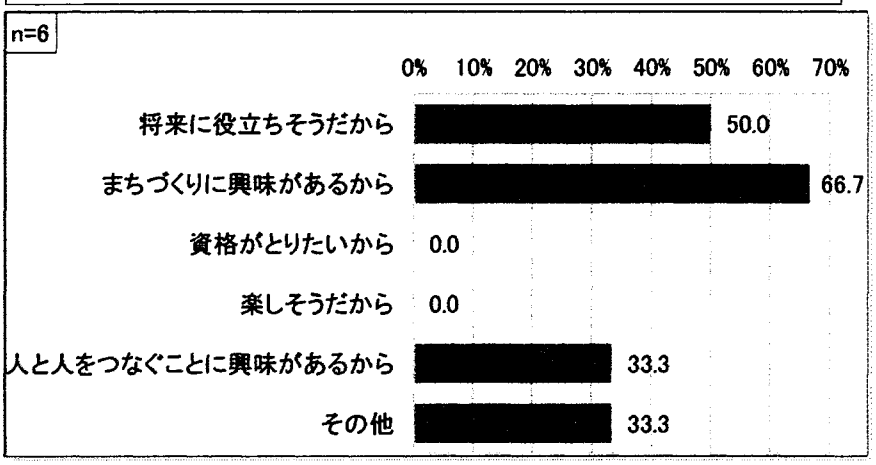


実施希望があるかという質問に関しては「普通」と回答した学校が５０％と最も多く、ついで「実施したい」と回答した学校が２５．０％、「是非実施してみたい」１２．５％、「あまり実施したくない」が１２．５％となっている。

「是非実施したい」もしくは「実施したい」という回答をした学校（実施希望層）は合計すると３７．５％となることに対して、「あまり実施したくない」もしくは「実施したくない」と回答した学校（実施躊躇層）は合計しても１２．５％と実施希望層の１／３程度となっている。また、「実施したくない」という学校は０％となっているのに対して、「是非実施したい」という積極的に実施を希望する層は実施希望層の１／３を超えている。

③ 実施希望理由

Q４ 実施してみたいと思う理由は何ですか？（複数回答）

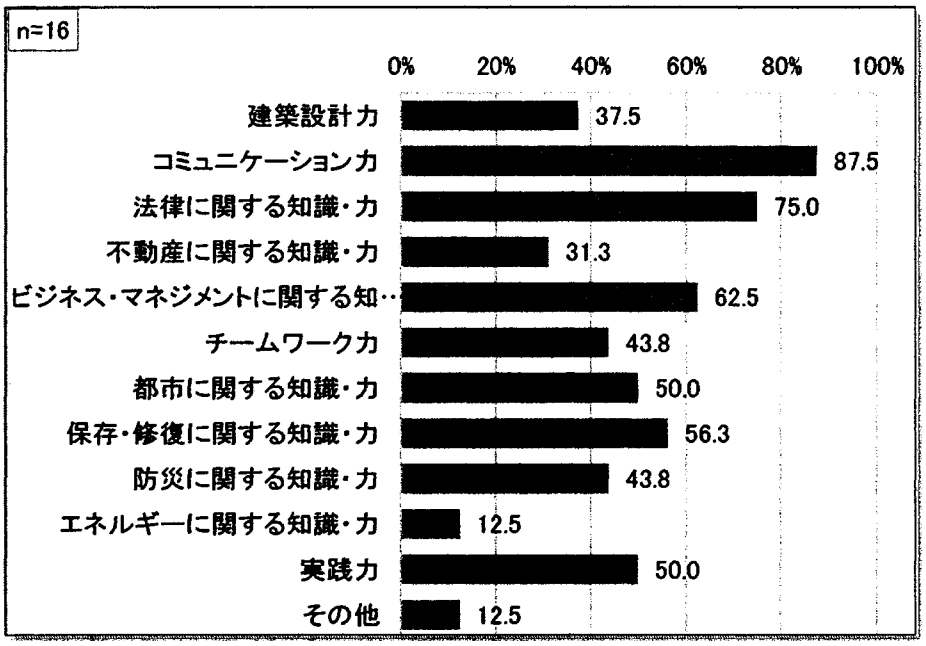


実施希望の理由に関して「まちづくりに興味がある」が６６．７％と最も多く、ついで「将来に役立ちそうだから」が５０％と、「人と人をつなぐことに興味があるから」が３３．３％、その他が３３．３％となっている。
その他についての自由記入の回答については表に示す。

Q4_6FA：実施してみたいと思う理由は何ですか？／その他
専門学校と地域がつながるためには、地域のオリジナリティを把握する必要があるため、地域を理解する人材は求められると思う
社会的ニーズがありそうだから
建築的価値評価による再生や歴史的・文化財的価値遺産を活かした「まちづくり」に貢献できる意義から

④ 必要な知識・スキル

Q５ まちづくりファシリテーターに必要だと思う知識や力は何だと思いますか？

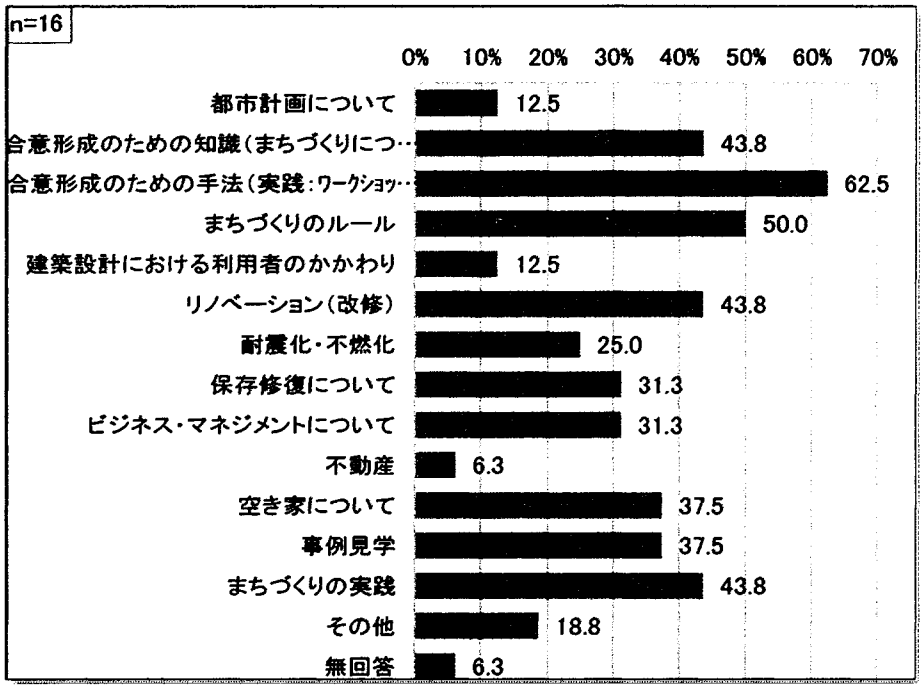


「コミュニケーション力」が最も多く８７．５％、ついで「法律に関する知識・力」７５．０％、「ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄに関する知識・力」６２．５％、「保存・修復に関する知識・力」５６．３％、「都市に関する知識・力」「実践力」５０．０％、「チームワーク力」、「防災に関する知識・力」４３．８％、「建築設計力」３７．５％、不動産に関する知識・力」３１．３％となっている。
自由記入では地域を見る力・ブランディング力が挙げられた。

Q5_12FA：まちづくりファシリテーターに必要だと思う知識や力は何だと思いますか？／その他
地域性を見つける能力、コーディネート力（ブランディング力）

⑤　興味のある講義

Q６　興味のある講義は次のうちどれですか？



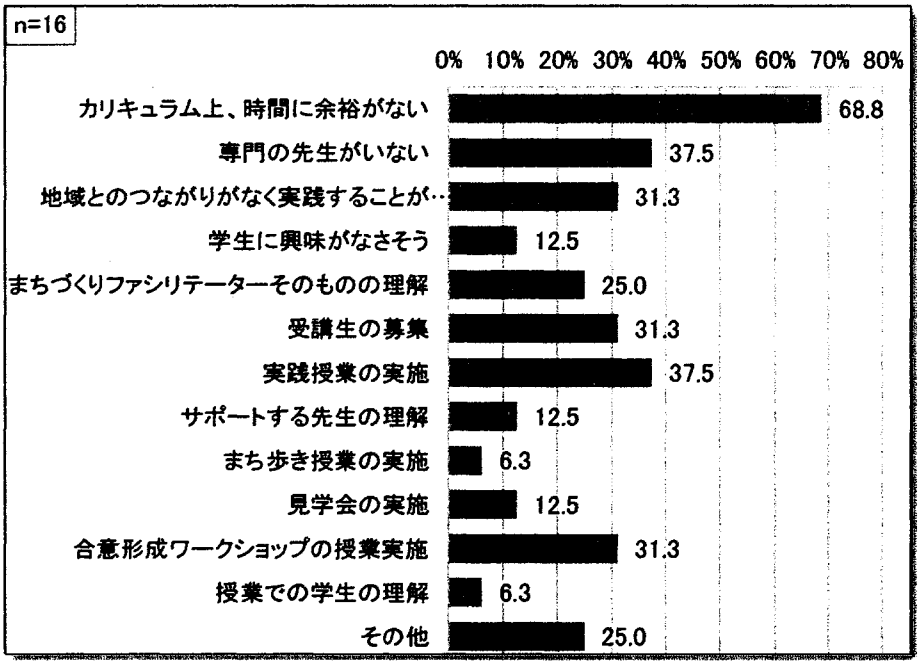
Q6_14FA：興味のある講義は次のうちどれですか？／その他

これからの都市や未来の都市のあり方に関する内容
和風建築講座（和風建築の魅力について）
歴史・文化（その他の地域）の知識

興味のある講義としては「合意形成のための手法（実践・ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ）」が最も高く、６２．５％ついで「まちづくりのルール」が５０．０％、「合意形成のための知識」、「リノベーション（改修）」「まちづくり実践」が４３．８％、「空き家について」「事例見学」が３７．５％、「保存・修復」「ﾋﾞｼﾞﾈｽ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄについて」３１．３％となっている。自由記入回答は左記に示す。

⑥　実施にあたり困難な事項

Q７　もし貴校で行うとする場合、難しいと思われる理由をお書きください。



Q7_13FA：もし貴校で行うとする場合、難しいと思われる理由をお書きください。／その他

上記に関しては実施方法等が不明のためです
3について、来年度移転するため、1から地域との関係づくりが必要です
学生の資質に不安がある
課題も多く、学生は建築・インテリアの知識・技術の習得や就職に直結しているか否かに関心が薄い点

「カリキュラム上、時間に余裕がない」が最も高く６８．８％、ついで「専門の先生がいない」「実技授業の実施」が３７．５％、「地域との繋がなく実践することが困難」「受講生の募集」「合意形成ワークショップ授業実施」３１．３％「まちづくりファシリテーターへの理解」「その他」２５．０％となっている。その他の自由記入回答は左記に示す。

2－1－①－iii　考察・まとめ

まちづくりファシリテーター養成講座に関する学校アンケート結果から、考察・まとめを以下に示す。

○専門学校は２年制課程の学科・コースを基本として設置されており、そこに３年制学科、４年制学科、１年制の専攻科があるというのが現状である。詳しく内訳を見ていると２年制と３ないしは４年制学科もしくは１年制専攻科を設置している学校が１６校中１３校、81.25%と八割を超えている。

○まちづくりファシリテーター養成講座について実施したいと考えている学校は 37.5%と実施に消極的な学校の 12.5%の３倍以上あり、全く実施したくないと考える学校は１校もないことからも専門学校として、その必要性があると考えられていることがわかる。

○一方で、実施希望について「普通」という回答でどちらとも判断がついていない学校が半数にのぼる。今後の開発を進めて行く際に、判断つかない理由としての、実施困難の理由を解消するために、授業方法や運用などについて工夫が求められると考えられる。

○必要と考えられる知識・スキルにコミュニケーション力をあげる学校が最も多く、それをつけるための実践が重要と考えられる。

○また、必要な知識・スキルにビジネスやマネジメント、法律、改修、歴史などこれまでの建築教育では行われなかった幅広い分野への教育が求められていることも特徴である。

○興味のある内容についても必要な知識・スキルの内容と関係するものが多く挙げられ、同時にその実践に興味を示していることがわかる。

○困難な項目とし一番に時間的な制約を挙げている学校が多く見られた。これは先に挙げた２年制を中心としている学科構成と符合する結果であり、建築士認定の科目を行いながら各学校で設置されている課程に対応した運用や学習方法の開発が求められる。

○また、担当教員の人材についての難しさを挙げている学校も多く見られ、スペシャリストが多くいない新しい分野であるこの科目について、時間や距離を超えて各地域で実施が対応できる方法や運用に工夫が必要であると考えられる。

○特に合意形成ワークショップや事例見学などの実践について必要性を高く感じている学校が多く、興味の高さも示されている。一方で実践の実施に困難さを示している学校多く見られ、授業方法や運用においての工夫が求められる。

○新しい職能であることもありイメージがつきにくい人材像であることから講座への学生募集に不安を覚える学校も多く見られた。わかりやすいイメージの提示など専門学校生に人材像、キャリアストーリーを伝える方法の検討も必要である。

2－1－② 学校対象ヒアリング調査

2－1－②－ｉ　調査概要

（1）名 称：

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する

学校への調査　実証予定校（**新潟工科専門学校**）教員ヒアリング調査

（2）日 時：

令和元年12月３日（火）　～令和２年１月１０日（木）

（3）目 的：

まちづくりファシリテーター養成講座について専門学校にそのニーズがあるかを明確にする。同時に実践する場合、その問題点、実施に向けた方法、そこに求められる要件などを調査する。

（4）方 法：

（実証講座実施予定校）

日本工学院専門学校、麻生建築＆デザイン専門学校、新潟工科専門学校の３校のまちづくり・設計講義担当教員に対してあらかじめ質問を用意して行う半構造化インタビューを行い、議事録を起こす形で記録し、調査を行う。

（5）対　象：

日本工学院専門学校

麻生建築＆デザイン専門学校

新潟工科専門学校

（6）分　析：

各対象のヒアリングについて議事録を作成。その上でまとめ、考察を行った。

2－1 ―②― ii　結果（調査報告書）

□調査記録 20191203

調査 2 学校への調査 実証予定校（新潟工科専門学校）教員ヒアリング

記録：松村哲志

■ 項目：調査２　学校への調査　実証予定校（新潟工科専門学校）　教員ヒアリング
■ 日時：令和元年 12 月 3 日（火）
■ 目的：実証授業を予定している協力教育機関である専門学校教員にまちづくりファシリテーター養成講座の意義と実践に向けた問題点などをヒアリング調査を行う
■ 場所：・新潟工科専門学校　会議室
■ 参加者

（調査先）	新潟工科専門学校	学校長	仁多見 透
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連	健夫
	日本工学院専門学校	松村	哲志

■ 内容（連より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後に、実証授業を来期行う予定の協力教育機関として新潟工科専門学校、仁多見透学校長にヒアリングを行った。）

①専門学校から見た本事業の有効性について
・本事業は地域のためになり、大事な事業であると考えている。
・色々な人を繋げることができるため、社会的な意義が大きい。
・ぜひ本校でも取り組んで行きたいと考えている。

②入学者層・学生層からみたまちづくりファシリテーターについて
・入学してくる学生はストレートなイメージがつきやすいものに反応する傾向にある。例えば「建築士」・「インテリア」というようなもの
・「まちづくり」という言葉で反応して入学してくる学生も可能性としてはある。例えば先日、本校に学び直し、社会人経験ありの女性の入学希望者がおり、まちづくりをしたいという希望をもっていた。
・ただ、まちづくりに興味を持つのは社会人経験がある人なのではないか？もっと分かりやすいイメージが必要。
・そういった意味で、動画が有効。まちづくりファシリテーターはかつてない存在。それを入学対象の若い方に説明するためのわかりやすいイメージ像があると嬉しい。
　→このことは講座のアピールにもなる。
・その内容は人物像のようなもの。キャリアストーリーと合わせて学生の興味をそそるようなもの　→ 情熱大陸「まちづくりファシリテーター」みたいなもの

③地域・行政と貴校との関わりについて

・行政との関わりについては繋がりがある。
・柏崎の古民家再生に関わった経験や建築士会主催のコンペに学生が入賞したなど、繋がりがある。→建築士会常務理事　渡辺 斉 氏との協力関係
・地域、行政との連携はキーパーソンを巻き込むことが大切
・柏崎の古民家再生は大工科の学生が実際に古民家を再生するプロジェクト

④貴校において実証講座を行うとしたら

・本校で講座を行うとしたら２年制卒業後１年制の専攻科後期を考えている。（2年+1年）
・今回の実証校、３校でも地域特性が違い、それに合わせた運用が求められる。

⑤代表的なまちづくり事例、街の問題事例について

・新潟市内で代表的なまちづくり事例としては「沼垂テラス」があげられる。
　別添資料「沼垂テラス商店街」冊子参照
・古町というかつての繁華街、地下街、アーケードがシャッター商店街になりつつある。
・古町は本校も興味を持っており、一部の学校施設として利用提案など、なんとかできないかと徐々であるが動いている。

■ 入手資料

・「沼垂テラス商店街」／株式会社テラスオフィス　高岡はつえ
・「外部を呼び込む商店街再生のプロセスに関する研究　新潟県沼垂テラスを対象に」
　／2018 年 7 月 5 日　横浜国立大学地域実践研究センター研究報
　／横浜国立大学　高橋亮　高見沢実　野原卓
・新潟工科専門学校　学校紹介　案内書

新潟工科専門学校（前面道路より）

ヒアリングの様子（新潟工科専門学校会議室）

□調査記録 20200110

調査２ 学校への調査 実証予定校（麻生建築＆デザイン専門学校）教員ヒアリング

記録：連健夫

■ 項目：調査２　学校への調査　実証予定校（日本工学院専門学校）　教員ヒアリング

■ 日時：令和２年１月10日（金）

■ 目的：実証授業を予定している協力教育機関である専門学校教員にまちづくりファシリテーター養成講座の意義と実践に向けた問題点などのヒアリング調査を行った。

■ 場所：日本工学院専門学校　会議室

■ 参加者

（調査先）　麻生建築＆デザイン専門学校　　今泉清太（建築士専攻科）
古賀俊光（建築工学科）

（調査委員）日本建築まちづくり適正支援機構　連　健夫

■ 内容（連より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後に、実証授業を来期行う定の協力教育機関として麻生＆デザイン専門学校教諭、今泉氏、古賀氏にヒアリングを行った。）

① 専門学校から見た本事業の有効性について

・本学校では建築サークルで地域を取り扱う課題を実施しており、この事業はなじみやすい。（課題で扱っているエリアとしては、博多駅周辺、筑紫口周り、学校と駅との間のエリア等）

・まちづくりファシリテーター養成講座は、今後の建築系学科の人材ニーズの拡がりという意味で有効と考えている。

② 入学者層・学生層からみたまちづくりファシリテーターについて

・建築のみならず、コミュニケーション能力は必要であり、企業も求めているため、大切であるが、いかに学生に理解させ習得させられるかが課題である。

③ 地域・行政と貴校との関わりについて

・建築士会や建築事務所協会とは連携をしており、学生もコンペに参加している。コンペで勝った学生は優先的に企業に就職できる仕組みを作っており、ウィンウィンの関係である。

④ 貴校において実証講座を行うとしたら…

・実証講座は、３年課程、建築士専攻科の建築サークルで考えている。

・まちづくりファシリテーター講座は実践（見学や演習、ワークショップなど）が半分とのこと、実践は教室数が確保しづらい状況においても色々工夫すれば可能と考えている。夏休み特別講座や土日をうまく利用する方法もある。
（一昨年は690名の学生数、昨年は800名と増えており、教室不足に悩まされている現状）

⑤ 代表的なまちの課題

・博多の中心市街地の活性化問題として、地下街やアーケード街における空き店舗問題。

・旧商店街の空き店舗利用の問題、再開発エリアと他の地域との繋ぎエリアの課題。

⑥ 講座に関しての意見、アドバイス

・実践事業を当事業の中でどのようにやるのか、座学とどのような連携をとるのかがポイントとなる。

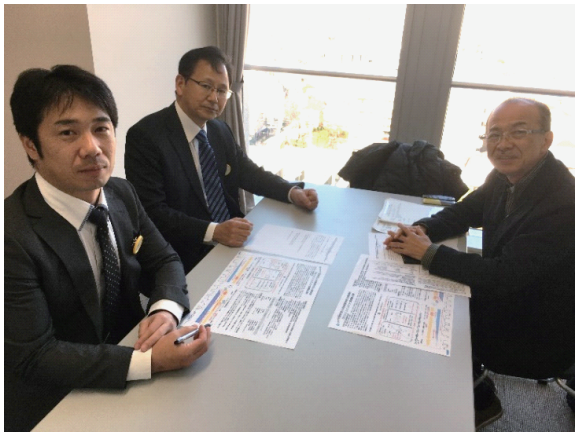
・地域課題として高齢化の問題がある。福祉や医療を含めたまちづくりの課題がある。

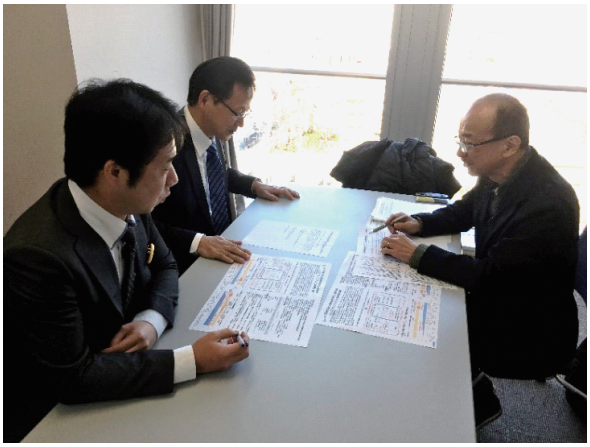
・まちづくりファシリテーター講座において、コミュニケーション力をつけることがポイントとしてあげられており、それをいかに実践も含めて実施するか、学生が興味を持って受講できるような工夫が求められる。

■ 入手資料

・麻生建築＆デザイン専門学校　学校紹介　案内書

ヒアリングの様子、今泉氏、古賀氏、連代表理事（日本工学院専門学校会議





□調査記録 20200110

調査２ 学校への調査 実証予定校（日本工学院専門学校）教員ヒアリング

記録：連健夫

■ 項目：調査２　学校への調査　実証予定校（日本工学院専門学校）　教員ヒアリング
■ 日時：令和２年１月10日（金）
■ 目的：実証授業を予定している協力教育機関である専門学校教員にまちづくりファシリテーター養成講座の意義と実践に向けた問題点などのヒアリング調査を行う
■ 場所：日本工学院専門学校　会議室
■ 参加者

（調査先）	日本工学院専門学校	学科長	山田 俊之
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連	健夫

■ 内容（連より本事業の説明と経緯、調査目的について説明した後に、実証授業を来期行う予定の協力教育機関として日本工学院専門学校、山田学科長にヒアリングを行った。）

① 専門学校から見た本事業の有効性について
・本学校はかねてより大田区との産学共同事業を実施しており、それを更に発展させることができるので良い。
・まちづくりファシリテーター養成講座は、社会からの必要性があり、今後、専門学校が取り組むべき事業ととらえている。

② 入学者層・学生層からみたまちづくりファシリテーターについて
・建築を軸に、宅建士、インテリアなど他の職能とつなげる役割を持っており、分野横断的なコミュニケーション力をつける教育的意味は大きい。
・まちづくりファシリテーターをいかに分かりやすく説明できるかがポイントである。その意味において漫画や動画を用いるのは有効と思われる。

③ 地域・行政と貴校との関わりについて
・大田区において、マスタープランの意見出しに、昨年は学生７名がワークショップに参加するなど、長く良好な関係を続けている。
・大田区と本校には信頼関係があり、当事業についても協力が得られると思われる。

④ 貴校において実証講座を行うとしたら
・実証講座は、建築学科の４年生時の後期を考えている。
・本校で講座を行う場合、２コマ／週として半年の履修講座、４コマ／週として４分の１年履修講座など、様々な形がありうる。是非、実施したいと考えている。

⑤ 代表的なまちの課題
・大田区には、木造密集市街地を抱えており、地権者の高齢化において不燃化、耐震化、建て替えなどをどのように進めるか、という課題がある。

⑥ 講座に関しての意見、アドバイス

・まちの読み取りやコミュニケーション力をいかに獲得するか、という点について実践授業が大切である。実践授業を座学と合わせてうまく組み込むことが大切である。

・学生が興味を持つような工夫が必要である。講義はどうしても受け身となってしまうので、まずはやらせて、後で講義という方法も考えられる。

・産学共同の良さは、企業が学校に来るのでリクルートの効果、プロの言葉は説得力があり、学生が真剣に聞くという良さがある。

・東急とも共同しているが、社会貢献という意味合いがあるとのこと。今後も産学共同は進めていきたいので、この講座は役に立つと思われる。

入手資料

・日本工科専門学校　学校紹介　案内書

ヒアリングの様子（日本工学院専門学校会議室）

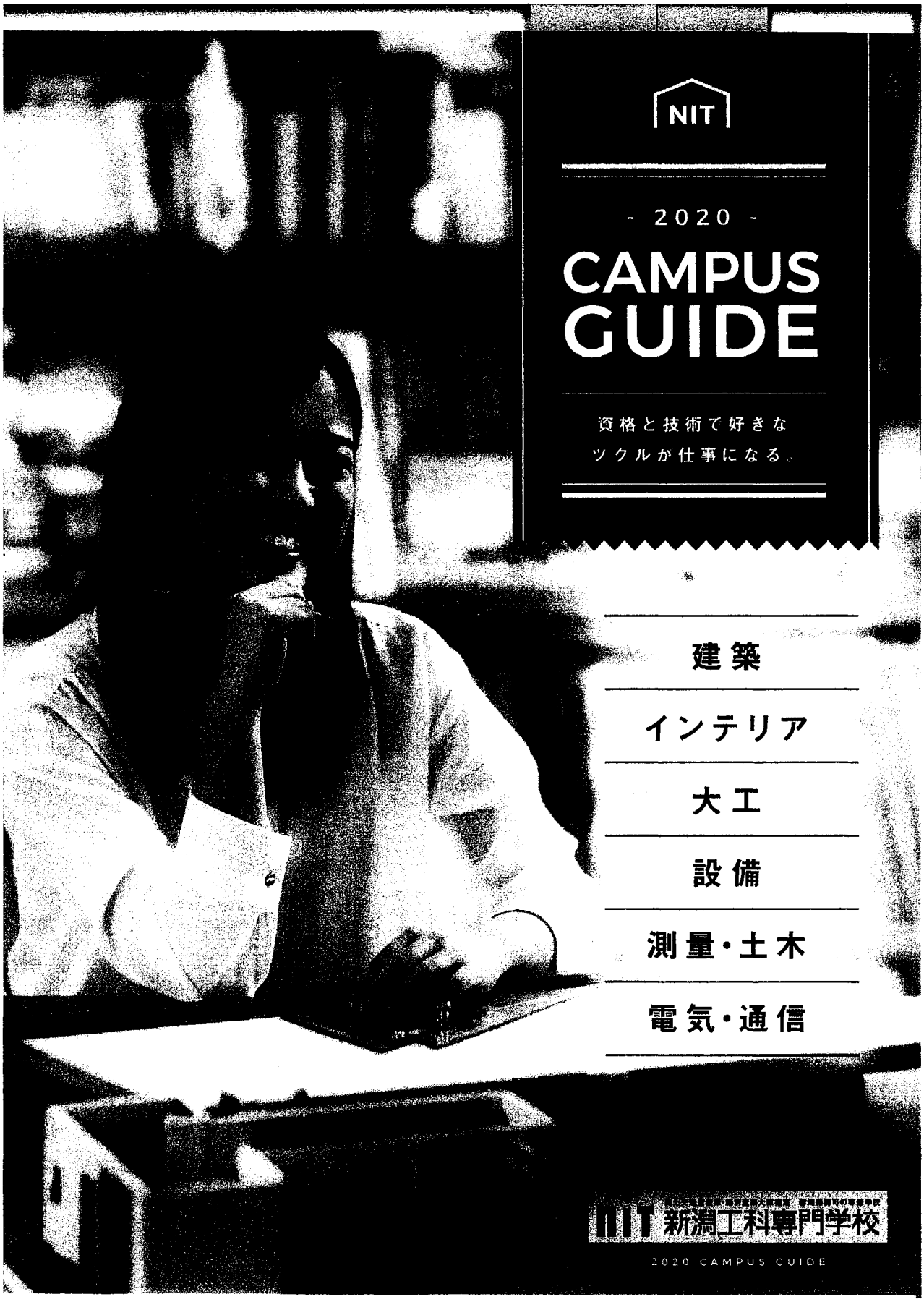
2－1－②－iii　考察・まとめ

まちづくりファシリテーター養成講座に関する実証予定校教員に対するヒアリング調査の結果から考察・まとめを行ったものを以下に示す。

○ヒアリングを行った３校全てにおいて、社会的な観点から考えて今後、専門学校にとって必要な講座であると考えている。
○地域との繋がりの強化なども見込めることも専門学校にとってのメリットになる。
○新しい職能であることもあり、いかに１８歳から２０歳前後の若い学生にその必要性、またその人材像やキャリアストーリーをいかにしてわかりやすく伝えるか？が一つの大きな課題といえる。
○講座を実施するとしたら各校とも３年次もしくは４年次である。
○時間的な制約もあり、そのための工夫が必要である。
○特にコミュニケーション力の育成については大きな期待を各学校が寄せており、就職含めて社会人として生きて行く上で重要な講座となりえる。また、大きな強みになる可能性があると考えている。
○実践が重要であると考えるがその実施には不安がある。
○学校により設置されている学科、コースの違いがあること、また地域の持つ問題点も異なるため教育方法や運用など実施に向けてはその地域に合わせた方法を模索する必要がある。工夫を行えば十分に実施可能であると考える。
○学校によっては地域とのつながりもあり、これまで地域と繋がった教育を行ってきた学校もあり、学生の意識としても馴染みやすい学校もある。

（以上）

資　料１：協力教育機関　パンフレット
○新潟工科専門学校



資格と技術で

希望者は建築士専攻科へ進学可能

2年制学科	学科名
	建築士学科
	建築デザイン科 ■住宅デザインコース　■ビル建築デザインコース
	インテリアデザイン科 ■インテリアコーディネートコース　■空間プロデュースコース
	建築大工科
	建築設備システム科
	環境測量科
	電気電子工学科

合格者数
新潟県内 **No.1!**

1年制学科

建築士専攻科

目指す資格

- ■建築士 1・2級建築士
- ■宅地建物取引士
- ■インテリアコーディネーター
- ■福祉住環境コーディネーター2級　他

業界就職を目指す！

目指す資格 ★…国家資格	職業
■★ 1・2級建築士 ■★ 1・2級建築施工管理技士 ■建築CAD検定 ■福祉住環境コーディネーター　他	■建築士 ■建築デザイナー ■建築施工管理技術者 ■構造設計者 ■宅地建物取引士 ■CADオペレーター ■住宅営業　など
■★ 1・2級建築士 ■★ 1・2級建築施工管理技士 ■建築CAD検定 ■福祉住環境コーディネーター　他	■建築士 ■建築デザイナー ■建築施工管理技術者 ■構造設計者 ■CADオペレーター ■住宅営業　など
■インテリアコーディネーター ■カラーコーディネーター ■リビングスタイリスト ■★ 商品装飾展示技能士 ■建築CAD検定 ■★ 1・2級建築士　他	■インテリアコーディネーター ■インテリアアドバイザー ■内装材・住設備ショールームアドバイザー ■インテリアデコレーター ■空間装飾制作・施工 ■内装設計 ■店舗・空間ディスプレイ　など
■★ 建築大工技能士 1・2級 ■★ 1・2級建築施工管理技士 ■★ 1・2級建築士 ■建築CAD検定 ■丸のこ等取扱作業従事者　他	■建築大工 ■現場監督（建築施工管理技術者） ■宮大工 ■建築士 ■型枠大工 ■建築デザイナー など
■★ 建築設備士 ■★ 1・2級管工事施工管理技士 ■★ 消防設備士（甲・乙種） ■★ 3級配管技能士 ■空気調和・衛生工学会設備士 ■給水装置工事主任技術者 ■排水設備工事責任技術者	■建築設備設計エンジニア ■管工事施工管理技術者 ■建築設備士 ■設備設計エンジニア ■消防設備士 ■給水・排水システム技術者　など
■★ 測量士・測量士補 ■★ 1・2級土木施工管理技士 ■★ 1・2級造園施工管理技士 ■★ 1・2級管工事施工管理技士 ■ビオトープ施工管理士 ■小型車両系建設機械特別教育　他	■測量士 ■測量士補 ■土木設計技術者 ■土木施工管理技術者 ■造園施工技術者 ■重機オペレーター ■CADオペレーター　など
■★ 第1種電気工事士 ■★ 第2種電気工事士 ■★ 工事担任者DD第1種 ■★ 1・2級電気工事施工管理技士 ■★ 消防設備士甲種第4類 ■★ 第3種電気主任技術者　他	■電気工事士 ■工事担任者 ■電気工事施工管理技術者 ■情報通信エンジニア ■電気主任技術者 ■消防設備士　など

2級建築士試験（2018年度）

合格率 **86.6%**（全国平均25.5%）

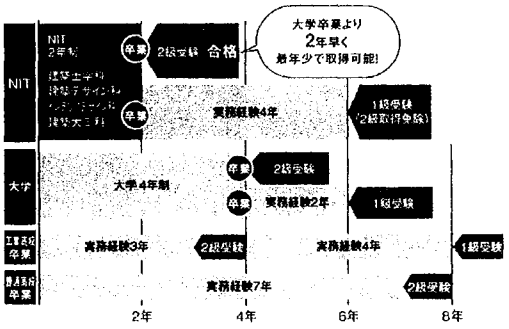
（建築士学科→建築士専攻科進学者）

建築系4学科を卒業と同時に1年制学科に進学。
NITの独自カリキュラムで在学中での「2級建築士」取得を目指します。新潟県内No.1、全国トップレベルの合格ノウハウが夢の実現をバックアップします。

国の認定校だから国家資格に強い!!

❶ 2級建築士受験資格が最短で取得可能!

建築に関わるなら必ず取っておきたい専門国家資格



❷ 受験資格の実務経験が大幅に短縮!

施工管理技術検定（建築・管工事・電気工事・土木・造園）

Archite

01 建築士学科

2年制・男女 | 1・2級建築士 受験資格認定学科 | 文部科学省認定 職業実践専門課程

2級建築士試験
＼合格者数県内No.1!／
合格率86.6%!
(全国平均25.5%)
(2018年度 建築士学科ー建築士専攻科進学者)

建築士学科 3つのPOINT

POINT 1

ゼロから学ぶ!
2級建築士対策授業

基礎から少しずつ学び、
応用力を身に付けるので初心者でも安心。

POINT 2

「建築士学科」(2年制)＋「建築士専攻科」(1年制)で合格!

2年間学んだあとに建築士専攻科へ進学し、
最年少で建築士に。

POINT 3

建築士専攻科進学時に優遇!

書類審査のみで建築士専攻科に進学可能。
一定の条件を満たした方は学費の一部も免除!

目指せる職種

目指せる資格

実習

実習の様子を動画で公開中!▶

YouTube

3D-CAD設計(BIM)

CADやBIMを使って立体的に建物の設計をします。

建築学実習(現場見学)

講義に加え、実際の建物見学や現場見学へ出掛けます。

建築法規

建築物を計画する時に、最低限守らなければいけないルールを学びます。

建築総合実習

オリジナルのプランニングから模型作り、プレゼンテーションまでを総合的に学びます。

製図実習

建物の間取りや寸法をミリ単位で図面に書いていきます。

建築模型実習

数人でチームを組み、与えられたテーマに沿って住宅の模型を制作します。

在校生に聞いた! NITのここがスゴイ

笠原 涼馬さん
(新津高校出身)

資格と、最新建築設計ソフトBIMの技術が手に入る!

大学進学と迷っていたのですが、授業内容に惹かれNITに進学。建築士学科は2級建築士資格の取得を目指しながら、NITでしか学べない最新建築設計ソフトBIMの勉強もできるので、入学して良かったと感じています!

高橋 巧実さん
(新発田南高校出身)

建築士試験で必要な勉強が1年半で学べる!

建築士学科は2級建築士試験の内容を1年半で学び、残りの半年は試験対策授業を行うので、早めに苦手科目を克服でき自信を持って本番に臨めます。将来は1級建築士を目指します!!

タイムテーブル

	月	火	水	木	金
1 9:30〜10:20	就職実務	環境工学	模型実習	構造力学	製図実習
2 10:30〜11:20	建築計画	建築設備			
3 11:30〜12:20	建築史	建築施工		建築材料	
4 13:20〜14:10	3D-CAD実習(BIM)	建築学実習	建築法規	建築CAD設計	
5 14:20〜16:10					
6 15:20〜16:10			一般構造		

※タイムテーブルは1年次の一例です。

STUDENT'S VOICE

木村 優花さん(北越高校出身)

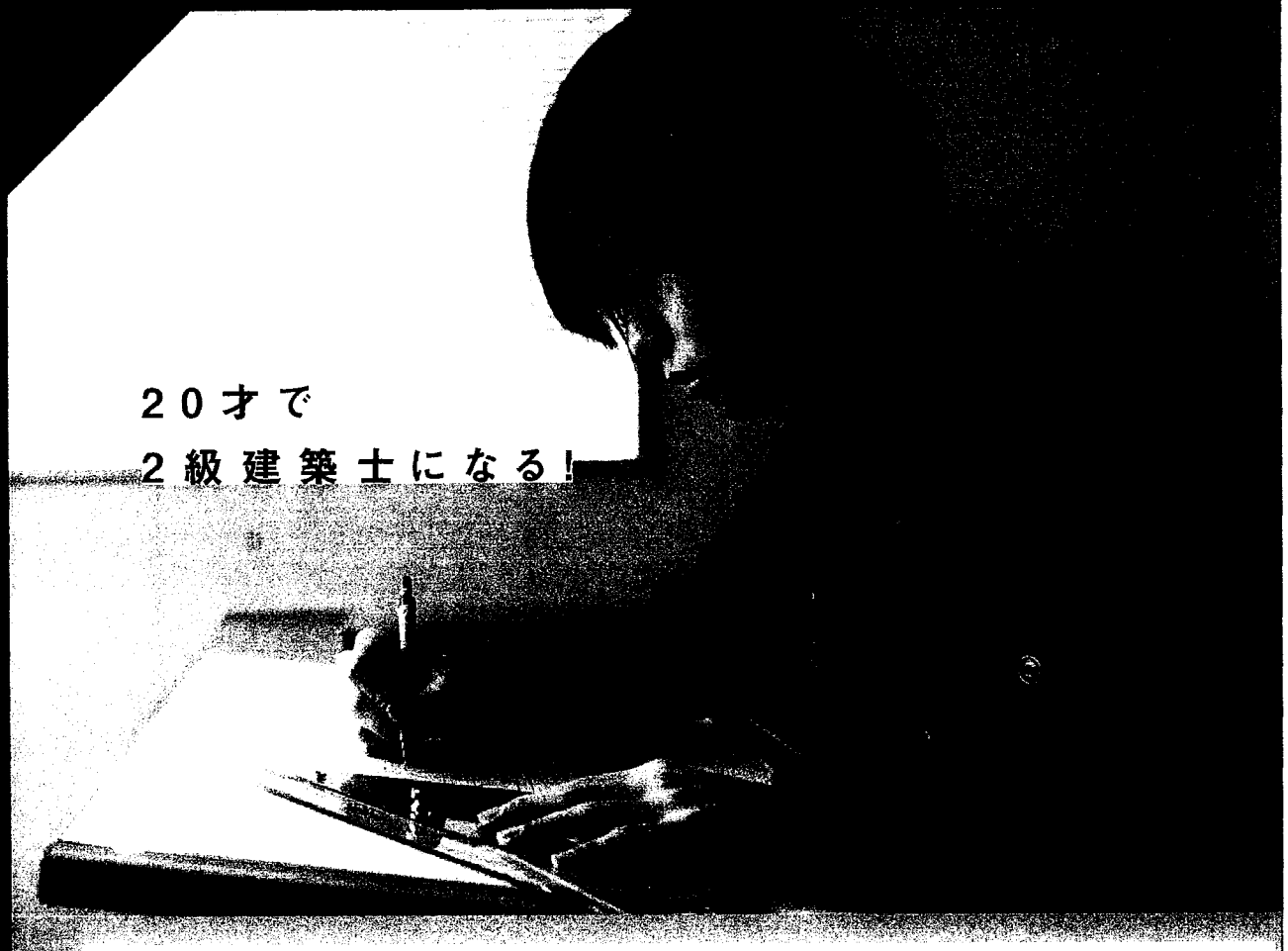
進学の決め手は、2級建築士の合格率の高さ!

新潟県内で2級建築士の合格率がトップの学校だったので、進学を決めました。また資格だけでなく、最新建築設計ソフトBIMも勉強でき、将来活躍するための技術もしっかり身に付くと思いました。将来は建築士になり、自分の設計した家を建てることが夢です!

Advanced Cour

02 建築士専攻科

1年制・男女 | 2級建築士の受験資格を持つ方対象



建築士専攻科 3つのPOINT

POINT 1

「合格ノウハウ」+「細やかな指導」

受験専門の講師が指導するので安心!
NITオリジナルの対策授業を行います。

POINT 2

在学中に2級建築士に!

資格を持って就職することで、
仕事の幅も広がる!

POINT 3

更に専門分野で活かせる資格取得も!

福祉住環境コーディネーター、
インテリアコーディネーター

目指せる職種 建築士、建築デザイナー、建築施工管理技術者、インテリアコーディネーター、建築設備士 など

目指せる資格 1・2級建築士、宅地建物取引士、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター 他

＼大学ではできない！／

在学中の2級建築士取得を目指す！

2年制
建築士学科

＋

1年制
建築士専攻科

卒業で2級建築士受験資格GET！

建築デザイン科
インテリアデザイン科
建築大工科

建築士学科以外の3学科からも進学が可能！

2年制学科を卒業後、「建築士専攻科」に進み在学中での2級建築士合格を目指します

最短・最速（20才）での合格が目指せる！

2級建築士試験

合格率 **86.6%**（全国平均25.5%）

※2018年度 建築士学科→建築士専攻科進学者

STUDENT'S VOICE

製図試験対策が本当に役立ちました！

建築デザイン科 ▶ 建築士専攻科

長谷川 瑠奈さん（新潟商業高校出身）

NITでは製図試験対策に特に力を入れていて、時間をかけて丁寧に教えてもらえました。おかげで、自信を持って試験に臨め、念願の2級建築士を取得できてとても嬉しいです。

＼在校生に聞いた！NITのここがスゴイ／

下條 航平 さん
（柏崎総合高校出身）

年間学費の一部が免除！

一定の条件を満たして建築士学科から建築士専攻科に進学すると、3年目の建築士専攻科の学費の一部が免除されます。全国トップクラスに2級建築士を目指す環境が整っているので勉強に集中できます！

齋藤 杏華さん
（阿賀野高校出身）

5人の先生が科目別に担当!!

科目担当制で圧倒的に分かりやすい!!

2級建築士の学科試験（一次試験）では、「建築史」「都市計画」など5分野の科目があるのですが、科目別にスペシャリストの先生が教えてくれます。その科目を研究し尽くしたプロの先生から教えてもらえるので、本当に分かりやすいです！

OB VOICE

学生のうちに資格を取得して本当に良かったと感じています。

（有）神田建築設計事務所 設計部主任
2級建築士
伊藤 強さん（村松高校出身）

社会に出てから資格を目指すには、勉強時間の確保が難しいこともあるので、学生時代に取得して本当に良かったと感じています。NITでは、様々なコンペに応募したことや、研修で建築家・安藤忠雄さんの建築物を見て衝撃を受けたことが思い出です。

■ 2級建築士合格までの流れ

建築系 2年制学科 卒業 → 建築士 専攻科進学

- 3月 対策授業スタート
- 4月 2級建築士出願
- 7月 2級建築士学科本試験
- 8月 2級建築士学科試験合格者発表
- 9月 2級建築士設計製図本試験
- 12月 2級建築士試験合格者発表 建築士登録申請
- 2月 資格証交付

○麻生建築＆デザイン専門学校

麻生
建築&デザイン
専門学校
ASO
ARCHITECTURE AND
DESIGN COLLEGE
2020
建築
CAD
インテリア
ものづくり
デザイン
80th
since1939
文部科学省
「職業実践専門課程」
認定校

学科ラインナップ

建築・デザイン
充実の7学科
プロとしての力を
ASOで
身につける

建築のプロとデザインのプロを
目指す2つの分野で、
「専門的知識・技術の修得」を目指す
ASOの7学科。
それぞれ様々な企業様から依頼を受けた
産学連携の商品開発などの
実務に直結した充実のカリキュラムや、
大学卒業資格を得ることが
可能な学科など、あなたの"夢"を
カタチに変える学科が
ここにはあります。

	学科	授業で学ぶ割合
建築のプロを目指す	**建築工学科** 3年制／男・女 職業実践専門課程認定学科*1	建築科目 CAD実習 インテリア科目
	建築工学科　建築学科　建築CAD科 インテリアデザイン科／建築学科〈夜間〉　卒業者対象 **建築士専攻科** 1年制／男・女 ※在学中に二級建築士取得を目指す学科 ※建築士専攻科（1年）のみ入学希望の場合に二級建築士受験資格を有する必要があります	二級建築士対策 大学併修コース or 建築士コース
	建築学科 2年制／男・女 職業実践専門課程認定学科*1 専門実践教育訓練給付金制度指定学科	インテリア科目 建築科目　CAD実習
	建築CAD科 2年制／男・女 職業実践専門課程認定学科*1 専門実践教育訓練給付金制度指定学科	インテリア科目 建築科目　CAD実習 BIM実習
	インテリアデザイン科 2年制／男・女 職業実践専門課程認定学科*1 専門実践教育訓練給付金制度指定学科	建築科目　CAD実習　インテリア科目
	建築学科〈夜間〉 2年制／男・女 職業実践専門課程認定学科*1	インテリア科目 建築科目　CAD実習
デザインのプロを目指す	**クリエイティブデザイン学科** 2年制／男・女 ※出願時に専攻をお選び下さい 職業実践専門課程認定学科*1（旧ビジュアルデザイン科　旧ものづくり科）	プロダクトデザイン専攻 3次元CAD実習　デザイン ビジュアルデザイン専攻 デザイン　DTP　Web　広告　コピー　フォト　デジタル

九州で最も充実した、建築・デザイン分野7学科のラインナップ。目標に応じた専門的な"知識"と"技術"をしっかり修得できます。

取得できる資格・検定一覧	目指す職種	主な就職先	ページ
在学中 ○二級建築施工管理技術検定　○宅地建物取引士*2　○CAD利用技術者試験 ○建築CAD検定　○インテリアコーディネーター　○カラーコーディネーター ○福祉住環境コーディネーター　○色彩検定 **卒業時** ○二級建築士受験資格*3　○木造建築士受験資格*3 ○一級建築士受験資格*3(要実務経験3年) ○二級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可) ○一級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験5年)	○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○CADオペレーター ○インテリアコーディネーター ○インテリアデザイナー ○インテリアプランナー	○建設会社 ○設計事務所 ○住宅メーカー ○工務店 ○不動産会社 ○インテリアショップ ○ショールーム ○デザイン事務所 他	P10
大学併修コース 在学中に二級建築士、卒業時に大学卒業資格(学士)を取得可能 建築工学科(3年) ＋ 建築士専攻科(1年) **建築士コース** 在学中に二級建築士を取得可能 建築学科、建築CAD科、インテリアデザイン科、建築学科(夜間)(2年)、ものづくり科 ＋ 建築士専攻科(1年)	○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○CADオペレーター ○インテリアコーディネーター ○インテリアデザイナー ○インテリアプランナー		P12
在学中 ○二級建築施工管理技術検定　○宅地建物取引士*2　○色彩検定 ○インテリア設計士　○福祉住環境コーディネーター　○インテリアコーディネーター ○カラーコーディネーター　○建築CAD検定 **卒業時** ○二級建築士受験資格*3　○木造建築士受験資格*3 ○一級建築士受験資格*3(要実務経験4年) ○二級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可) ○一級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験5年)	○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○CADオペレーター ○インテリアコーディネーター ○インテリアデザイナー ○インテリアプランナー		P14
在学中 ○CAD利用技術者試験　○二級建築施工管理技術検定　○カラーコーディネーター ○福祉住環境コーディネーター　○宅地建物取引士*2　○インテリアコーディネーター ○建築CAD検定　○色彩検定 **卒業時** ○二級建築士受験資格*3　○木造建築士受験資格*3 ○一級建築士受験資格*3(要実務経験4年) ○二級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可) ○一級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験5年)	○CAD・CGデザイナー ○CADオペレーター ○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○インテリアコーディネーター ○インテリアデザイナー		P16
在学中 ○インテリアコーディネーター　○カラーコーディネーター ○福祉住環境コーディネーター　○宅地建物取引士*2 ○リビングスタイリスト　○二級建築施工管理技術検定 ○建築CAD検定 **卒業時** ○二級建築士受験資格*3　○木造建築士受験資格*3 ○一級建築士受験資格*3(要実務経験4年) ○二級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可) ○一級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験5年)	○インテリアコーディネーター ○インテリアプランナー ○インテリアデザイナー ○ショップデザイナー ○ショールームアドバイザー ○建築士		P18
在学中 ○二級建築施工管理技術検定　○宅地建物取引士*2　○CAD利用技術者試験 ○インテリアコーディネーター　○福祉住環境コーディネーター　○カラーコーディネーター **卒業時** ○二級建築士受験資格*3　○木造建築士受験資格*3 ○一級建築士受験資格*3(要実務経験4年) ○二級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可) ○一級建築施工管理技術検定受験資格(要実務経験5年)	○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○CADオペレーター ○インテリアコーディネーター ○インテリアデザイナー ○インテリアプランナー		P20
在学中 ○3次元CAD利用技術者試験　3DS認定プログラム ○CAD利用技術者試験　○CATIA Mechanical Designer Specialist ○プロダクトデザイン検定　○CATIA Mechanical Surface Designer Specialist ○カラーデザイン検定 ○Illustratorクリエイター能力認定試験 ○Photoshopクリエイター能力認定試験 **卒業時** ○CATIA認定技術者資格	○デジタルエンジニア ○デジタルモデラー ○プロダクトデザイナー	○自動車メーカー ○家具メーカー ○日用雑貨メーカー ○デザイン事務所 他	P24
在学中 ○カラーデザイン検定 ○Illustratorクリエイター能力認定試験 ○Photoshopクリエイター能力認定試験 ○Webクリエイター能力認定試験	○グラフィックデザイナー ○DTPデザイナー ○イラストレーター ○エディター ○Webデザイナー	○広告代理店 ○デザイン会社 ○印刷会社 ○Web制作会社 他	P26

*1 平成28年12月現在　*2 旧 宅地建物取引主任者　*3 指定科目単位取得が条件となります

文部科学大臣認定職業実践専門課程 ※より高い職業実践教育を行う学科として文部科学大臣が認定した学科です。

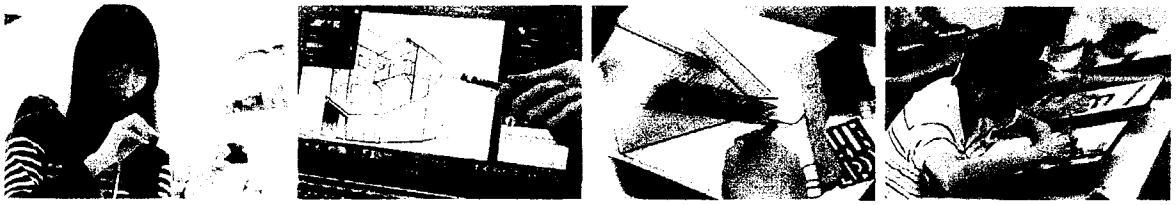
建築工学科 3年制

希望者は建築士専攻科へ進学し「二級建築士」+「大学卒業資格(学士)」を取得可能
→P12-13をご覧下さい。

○都市空間コース ○住宅空間コース ○施工管理コース ○生産設計(BIM)コース ※選択制

建築業界に幅広く通用する人材へ。
大学併修やコース別授業で無限の可能性を見出す。

3年間で基礎知識はもちろんのこと、色彩からCAD操作、インテリアまでさまざまな角度から建築業界のあらゆるステージで活躍するための幅広い知識を身につけます。また、卒業と同時に二級建築士の受験資格を、卒業後は実務経験3年で一級建築士の受験資格も取得できます。



建築工学科 Architectural Engineering Department

目指す職種 ○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○インテリアプランナー 他

目指す資格と検定
(国)=国家資格

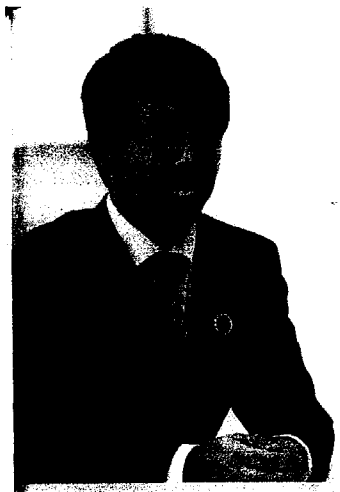
○在学中 ＊旧 宅地建物取引主任者

- 二級建築施工管理技術検定(国)
- 宅地建物取引士＊(国)
- CAD利用技術者試験
- 建築CAD検定
- インテリアコーディネーター
- 福祉住環境コーディネーター
- 色彩検定
- カラーコーディネーター

○卒業時 ＊指定科目単位取得が条件となります。

- 二級建築士受験資格＊(国)
- 木造建築士受験資格＊(国)
- 一級建築士受験資格＊(国)(要実務経験3年)
- 二級建築施工管理技術検定受験資格(国)(要実務経験2年 ／学科試験のみ在学中に受験可)
- 一級建築施工管理技術検定受験資格(国)(要実務経験5年)

その他実務経験により、建設機械・電気工事・造園・土木・管工事の各施工管理技術検定受験資格を得ることができます。



建築工学科
古賀 俊光先生
建築設計事務所にて、保育所や個人住宅、店舗を設計。設計物件が新建築2016年5月号に掲載された。

学びの特色

1 一級建築士を見据えたカリキュラム

各科目、一級建築士受験を見据えたレベルで授業を展開。卒業後実務経験3年でストレートに一級建築士を受験できます。

2 3年間で大学以上の建築専門科目を学びます

3年間で建築士に必要な専門科目を学びます。座学中心の大学と比較しても充実した内容です。また実習中心のカリキュラムで、現場で必要とされる力を身につけることができます。

建築工学科ならでは

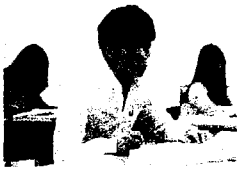
- 大学よりも1年早く二級建築士の受験資格を取得
- 初心者でも安心の専門カリキュラム

3 プロ直接指導のコース別授業

現場で活かされる実習・演習中心のカリキュラムを3年次よりコースに分かれて展開。目標に合ったより具体的なレベルアップを図ります。

4 大学併修制度（希望者のみ）

愛知産業大学と連携。通信課程を併修、建築士専攻科へ進学し4年間の一貫教育で大学卒業資格（学士）を取得できます。



目標と目指す将来像

1年次

一般教養と専門科目をバランスよく学ぶ

最短で二級建築士を目指すために、1年次からしっかりと建築について学びます。また、社会人として求められるパソコンなどの技術も学べます。

2年次

専門家になるために1年次の学びを発展させる

1年次での学習の基礎を固めると同時に、建築設計に必要な創造力や発想力を養うための授業を設け、建築士以外の資格取得も可能にします。

3年次

コース別に自分の目標に合った学びを展開

現場で活かされる実習・演習中心のカリキュラムをコースに分かれて展開。目標に合ったより具体的なレベルアップを図ります。

建築業界のあらゆるステージで活躍する人材に。建築士としての活躍も。

基礎から応用まで幅広く学べるカリキュラム

◆＝専門教科　㊀＝一般教養　■＝試験対策

1年次

◆ 建築設計製図Ⅰ・Ⅱ ◆ 建築計画Ⅰ・Ⅱ
◆ 建築一般構造Ⅰ・Ⅱ ◆ 建築材料Ⅰ ◆ 建築施工Ⅰ
◆ 建築法規Ⅰ・Ⅱ ◆ JWCADⅠ・Ⅱ ◆ 建築図学Ⅰ・Ⅱ
◆ 造形学Ⅰ・Ⅱ ◆ 福祉住環境（選択）
● GCBⅠ・Ⅱ ●ビジネスマナーⅠ・Ⅱ
■ 数学ゼミⅠA（選択）・B（選択）
■ BIM専攻ⅠA（選択）・B（選択）

2年次

◆ 建築設計製図Ⅲ・Ⅳ ◆ 建築計画Ⅲ・Ⅳ
◆ 建築環境工学 ◆ 建築設備
◆ 建築構造力学Ⅰ・Ⅱ ◆ 建築材料Ⅱ ◆ 3DCADⅠ
◆ 建築施工Ⅱ ◆ 建築法規Ⅲ ◆ AutoCADⅠ・Ⅱ
◆ Photoshop・IllustratorⅠ
◆ インテリアコーディネーション ◆ 造形学Ⅲ・Ⅳ
● 就職実務ⅠA・B
■ 検定ゼミⅡA（選択）・B（選択）
■ 数学ゼミⅡA（選択）・B（選択）
■ BIM専攻ⅡA（選択）・B（選択）

3年次

◆ 建築計画Ⅴ ◆ 建築構造力学Ⅲ ◆ 建築施工Ⅲ
◆ 3DCADⅡ ◆ Photoshop・IllustratorⅢ ◆ 卒業制作
● 就職実務ⅡA・B
■ 建築士対策（製図） ■ 建築士対策Ⅱ（製図）
■ 建築士対策（計画） ■ 建築士対策（法規）
■ 建築士対策（構造） ■ 建築士対策（施工）
■ 専攻ゼミⅠA・B ■ 専攻ゼミⅡA・B
■ 数学ゼミⅢA（選択）・B（選択）
■ BIM専攻ⅢA（選択）・B（選択）

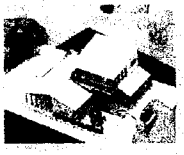
【各コース別授業】
◆ 都市空間コース
◆ 住宅空間コース
◆ 施工管理コース

都市空間コース

地域の公共建築や都市計画などを学ぶ

単体としての建築物だけでなく、都市を形成している中規模以上の公共建築やまちづくり、地域のあり方を勉強するコース。

住宅空間コース



住宅の設計からインテリアまでを学ぶ

バリアフリーなどのテーマを設けて設計し、クライアントへのプレゼンテーション、インテリアの提案などトータルに学ぶコース。

施工管理コース

建築現場において必要な基礎から実践までを学ぶ

建築物の大小に関わらず施工する上で必要な工程管理能力を養うコース。現場における環境やコスト管理ができる人材を育成。

Pick up ▶ Curriculum

建築設計製図

グループ学習で深まるチームワークがよりよい建築を生み出します！

4人1組のグループをつくり、役割を決め大規模な商業施設や共同住宅などを設計します。お互いに協力し、信頼関係を深め建物を造る過程を学びます。

Pick up ▶ Seminar

基礎数学講座 希望者のみ

数学力をつけるために数学基礎を完全フォローアップします！

専門教科を理解するために必要な数学力を身につけるため、希望者を対象に基礎からフォローしている数学講座を開講しています。

1週間のスケジュール例

		MON	TUE	WED	THU	FRI
1	09:45 – 11:15	建築設計製図	建築設計製図	建築図学	建築法規	JWCAD
2	11:35 – 13:05	造形学	建築設計製図	建築一般構造	建築材料	JWCAD
	LUNCH BREAK					
3	13:50 – 15:20		GCB	建築計画		ビジネスマナー
4	15:35 – 17:05			プラスα		プラスα

※授業カリキュラムは変更の場合があります。
※プラスα＝ASO福岡キャンパス内の異分野の授業を受講できるシステムです。

建築士専攻科 1年制

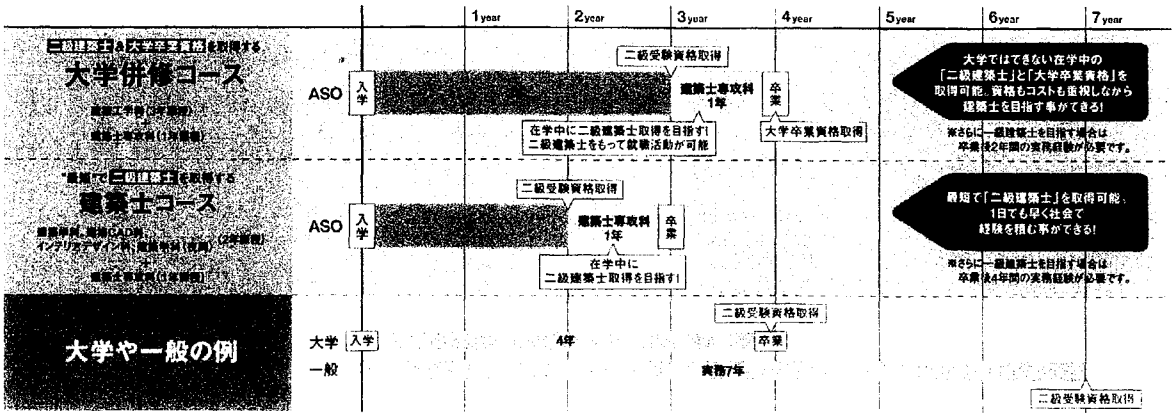
○大学併修コース　○建築士コース　○生産設計(BIM)コース ※選択制

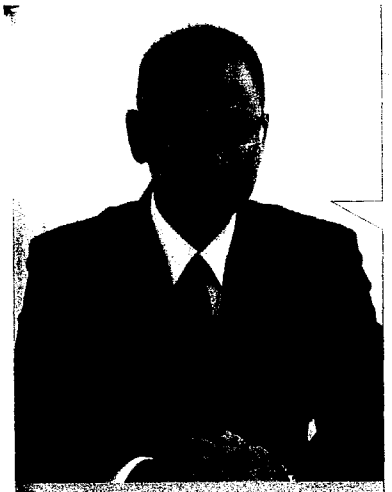
大学では実現できない「建築士」+「大学卒業資格(学士)」を取得可能な最強カリキュラム。

資格の制度上、大学では真似できない在学中の「建築士」取得を実現。さらには愛知産業大学との教育提携で、卒業時に大学卒業資格である「大学卒業資格(学士)」を取得できます。「建築士」+「大学卒業資格(学士)」+「就職のASO」で最強のチカラを身につけたあなたには「建築士」のプロとして活躍できる場が待っています。

建築士専攻科 Architectural Degree Program

ASOだから実現した「建築士」への"最短ルート"





建築士専攻科
今泉 清太先生
戸建マンションを販売する会社に一級建築士として勤務。福岡を中心に住宅等の設計・施工に携わる。

学びの特色

1 在学中に二級建築士取得を目指す

大学では実現できない、ASO独自のカリキュラムにより、在学中の二級建築士の取得が可能です。

2 「大学卒業資格(学士)」の取得が可能

建築工学科(3年課程)との組合せによる合計4年間で、学士号の取得が可能。ワンランク上の就職も目指せます。

3 高い実践力を身につける

インターンシップ・各種コンペ・卒業研究などの場を設定。更に高い実践力を身につけることができます。

4 2つのコースが選べます

3年課程の建築工学科との組合せによる合計4年間で学士号の取得が、また、2年課程の建築学科、建築CAD科、インテリアデザイン科、建築学科〈夜間〉のいずれかとの組合せによる3年間で在学中に二級建築士の取得が可能。ワンランク上の就職が目指せます。

オススメ! 建築士として即戦力となる力を身につけたい方

大学併修コース 【建築工学科 3年】+【建築士専攻科 1年】→ 二級建築士 & 大学卒業資格 をW取得可能

●愛知産業大学について ASOが教育連携を結んでいる愛知産業大学。「豊かな建築・都市環境の創造と保全を通じて、産業・地域・生活に貢献できる人材を育成する」ための通信教育部・造形学部建築学科を併修しています。ASOで通信教育部を併修し、大学卒業資格(学士)を取得することにより、大学院への進学も可能となります。

オススメ! 早く社会で経験を積みたい方

建築士コース 【●建築学科 ●建築CAD科 ●インテリアデザイン科 ●建築学科(夜間) 2年】【建築士専攻科 1年】→ 二級建築士 を在学中に取得可能

目標と目指す将来像

1年前期

二級建築士試験合格を確実に目指します

学科試験対策では約2万問をこなし、製図試験対策では、本試験の制限時間5時間を確実にクリアするため、4時間以内で一式図が描ける能力を身につけます。

1年後期

大学併修コース 大学卒業資格(学士)を目指すため、6科目+卒業研究の単位取得を目指します。

建築士コース 宅地建物取引士や二級建築士、施工管理技術検定など、より多くの資格試験に挑戦し取得を目指します。

在学中に建築士になることで卒業後確実に即戦力となり業界のあらゆるステージで活躍できる人材になります。

基礎から応用まで幅広く学べるカリキュラム ◆=専門教科

1年前期

◆二級建築士計画 ◆二級建築士法規 ◆二級建築士構造
◆二級建築士施工 ◆二級建築士学科演習
◆二級建築士設計製図 ◆二級建築士設計製図演習

1年後期

【大学併修コース】
◆建築士 ◆地球環境と建築(通信) ◆福祉と建築(通信)
◆卒業研究I(通信) ◆建築デザイン論(通信) ◆建築史演習(通信)
◆防災と建築(通信) ◆卒業研究II(スクーリング)

【建築士コース】
◆特別講座I(施工管理)選択 ◆特別講座II(インターンシップ)選択
◆特別講座III(卒業制作)選択 ◆特別講座IV(就職実務)選択

1週間のスケジュール例

		MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	09:45〜11:15	計画	法規	構造	計画	法規	計画
2	11:35〜13:05	計画	法規	構造	計画	法規	法規
LUNCH BREAK							
3	13:50〜15:20	構造	施工	法規	構造	施工	構造
4	15:35〜17:05	構造	施工	法規	構造	施工	施工

※授業カリキュラムは変更の場合があります。

TOPICS トピックス

在学中に二級建築士取得を実現!

2018祝二級建築士製図合格

平成30年度 二級建築士 最終合格率

全国平均25.5%を大きく上回る!

61.3%

(44名中27名合格)

学科の試験でも

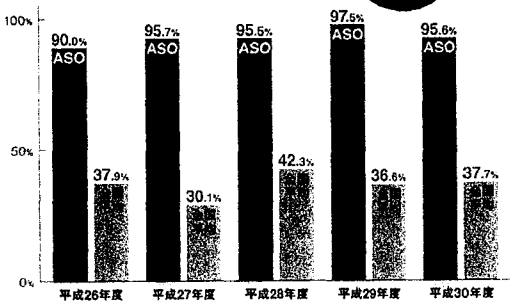
合格率95.6%と

九州の専門学校でトップクラスの合格率!

毎年全国平均を大きく上回る合格実績のASO

二級建築士(学科の試験)合格率の推移

圧倒的快挙!



文部科学大臣認定職業実践専門課程 ※より高い職業実践教育を行う学科として文部科学大臣が認定した学科です。

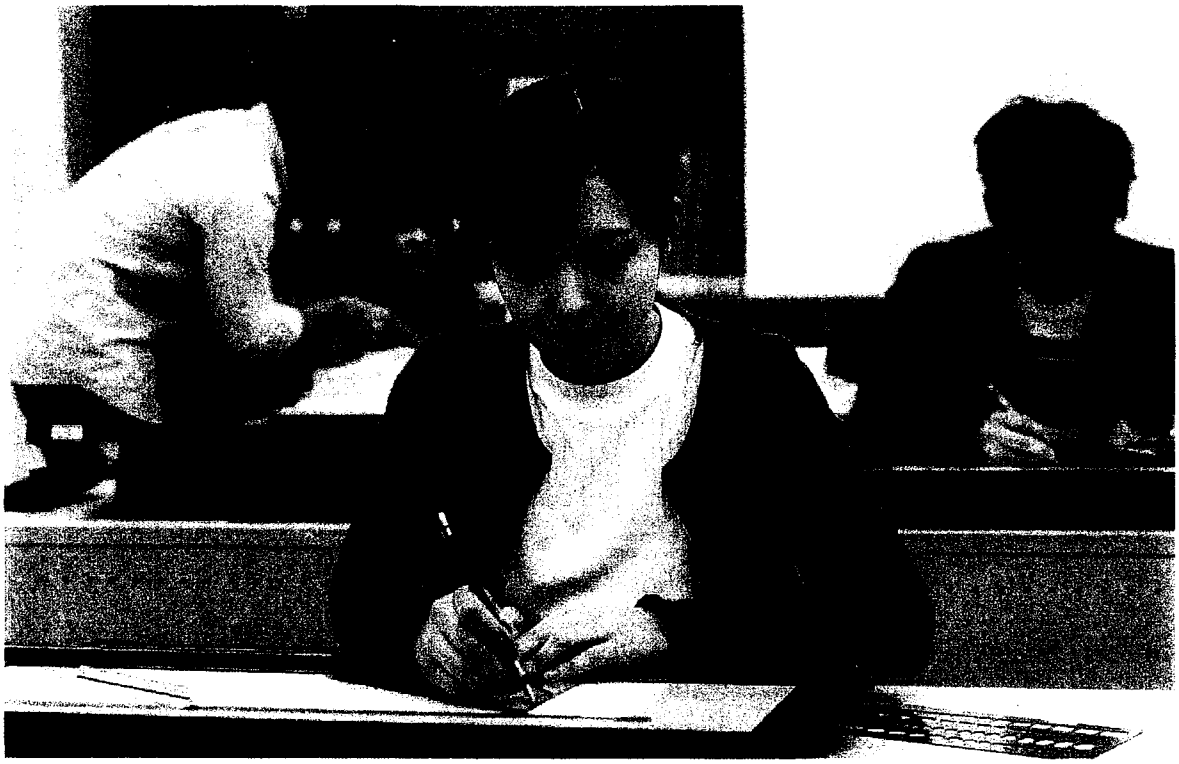
建築学科 2年制

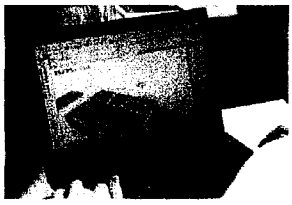
専門実践教育訓練給付金制度指定学科

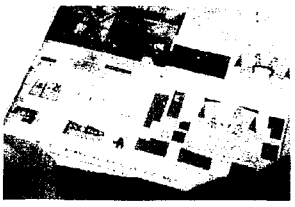
○建築リフォームコース ○建築設計コース ○生産設計(BIM)コース ※選択制

二級建築士合格を目指すための万全なカリキュラム。

国家資格である二級建築士に合格するため、1年次では設計や製図に関わる基本的な知識を修得。2年次では、より高いレベルで二級建築士試験対策を行えるような万全のカリキュラムを用意しています。また、卒業後、建築業界で欠かすことのできないCADなどの技術も基礎からしっかりと学んでいきます。







目指す職種 ○建築士 ○建築施工管理技士(現場監督) ○CADオペレーター 他

目指す資格と検定
(国)=国家資格

○在学中 ＊旧 宅地建物取引主任者

- 二級建築施工管理技術検定(国)
- 宅地建物取引士＊(国)
- 建築CAD検定
- 福祉住環境コーディネーター
- 色彩検定
- カラーコーディネーター
- インテリアコーディネーター

○卒業時 ＊指定科目単位取得が条件となります。

- 二級建築士受験資格＊(国)
- 木造建築士受験資格＊(国)
- 一級建築士受験資格＊(国)(要実務経験4年)
- 二級建築施工管理技術検定受験資格(国)
  (要実務経験2年、学科試験のみ在学中に受験可)
- 一級建築施工管理技術検定受験資格(国)(要実務経験5年)

その他実務経験により、建設機械・電気工事・造園・土木・管工事の各施工管理技術検定受験資格を得ることができます。

建築学科 Architecture Department

建築学科
徳田 美穂子先生
学校や市庁舎など公共施設を得意とする設計事務所に一級建築士として勤務。宅地建物取引士等の資格も活かし建築業界で活躍できる人材育成を目指す。

学びの特色

1 二級建築士合格に照準を合わせた実践的な授業

卒業後すぐに行われる二級建築士試験に焦点を合わせ、建築士資格取得を目指して座学、実技共に実践的な授業と受験対策授業を設定しています。

○ 万全な建築士受験対策を行います

資格対策を盛り込んだ専門的内容の座学はもちろん、二次対策を意識した、プランニングの効率的な考え方や描き方まで指導します。

○ 現場で即戦力として活躍できる建築士を目指します

現場の今のニーズに合わせたコース設定で、実務レベルの知識と技術を効率的に身につけるためのカリキュラムを用意しています。

2 現場のニーズに合わせたコース別授業

建築現場のニーズに合わせた2つのコースを設置。卒業後、即戦力として活躍するために、目標に合ったコースを選択できます。

3 年100時間以上の資格・検定対策

宅地建物取引士*、建築施工管理技術検定、建築CAD検定など、実務に役立つ資格の対策授業を実施しています。

＊旧 宅地建物取引主任者

目標と目指す将来像

1年次

一般教養と専門学科をバランスよく学ぶ

最短で二級建築士を取得するために、1年次からしっかりと建築について学びます。また、社会人として求められるパソコンなどの技術も学べます。

2年次

コース別に自分の目標に合った学びを展開

建築現場で活かされる実習・演習中心のカリキュラムをコースに分かれて展開。目標に合ったより具体的なレベルアップを図ります。

建築業界のあらゆるステージで活躍する人材に。建築士としての活躍も。

基礎から応用まで幅広く学べるカリキュラム

◆＝専門教科　●＝一般教養　■＝試験対策

1年次

◆建築設計製図I・II ◆建築計画I・II・III ◆建築構造力学I・II ◆建築一般構造I・II
◆建築材料I・II ◆建築施工I・II ◆建築法規I・II ◆JWCADI・II ◆建築図学I
◆福祉住環境(選択)
●ビジネスマナーI・II ●就職実務IA・B ●オリエンテーション ●GCB1・II
■数学ゼミIA(選択)・B(選択) ■BIM専攻IA(選択)・B(選択)

2年次

◆建築計画IV ◆建築環境工学 ◆建築設備 ◆建築構造力学III
◆建築法規III ◆AutoCADI・II ◆Photoshop・IllustratorI・II
◆専攻ゼミI・II ◆卒業制作 ◆建築設計製図III
●就職実務IIA・B
■検定対策ゼミI ■建築士対策(製図) ■建築士対策(計画)
■建築士対策(法規) ■建築士対策(構造) ■建築士対策(施工)
■数学ゼミIIA(選択)・B(選択) ■BIM専攻IIA(選択)・B(選択)

【建築リフォームコース】
◆リフォーム演習 ◆建築CAD演習
◆リフォーム模型演習 ◆プレゼンテーション演習

【建築設計コース】
◆インテリア演習 ◆内観パース演習
◆内観模型製作演習 ◆木造建築演習

建築リフォームコース

古い建物を、洗練された新しい空間へ

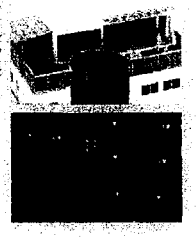
近年注目される古民家再生に関する知識や、高齢化社会・障がいをもつ人々に配慮した住空間を創造するための知識を学びます。バリアフリーやユニバーサルデザインを生み出す技法だけでなく、リフォーム業界を目指す人材も育てていきます。

リフォームとは
居住住宅の内外装を改装し、住空間をより豊かにすることです。高齢者向け住宅リフォームや耐震リフォームなど、近年リフォームの需要が高まっています。

建築設計コース

企画から工事監理まで、建築設計の流れを学ぶ

住宅設計を中心に設計技法だけでなく、住む人にとって心地よい住空間をデザインするために、エクステリアからインテリアまで幅広いデザイン力を養います。また、環境に配慮した住宅やリノベーションなどの知識も学び、次世代の建築を提案できる人材を育てます。



建築設計とは
建築設計と一口にいってもその業務は多岐にわたり、大きく分類すると意匠設計・構造設計・設備設計の3つに分かれます。

○ 1週間のスケジュール例

		MON	TUE	WED	THU	FRI
1	09:45 ～ 11:15	就職実務	建築設計製図	建築計画	建築計画	ビジネスマナ
2	11:35 ～ 13:05	建築図学	建築設計製図	建築施工	建築材料	建築一般構造
	LUNCH BREAK					
3	13:50 ～ 15:20		建築法規	—	建築構造力学	JWCAD
4	15:35 ～ 17:05			プラスα		JWCAD

※授業カリキュラムは変更の場合があります。　※プラスα=ASO福岡キャンパス内の異分野の授業を受講できるシステムです。

○日本工学院専門学校

日本工学院

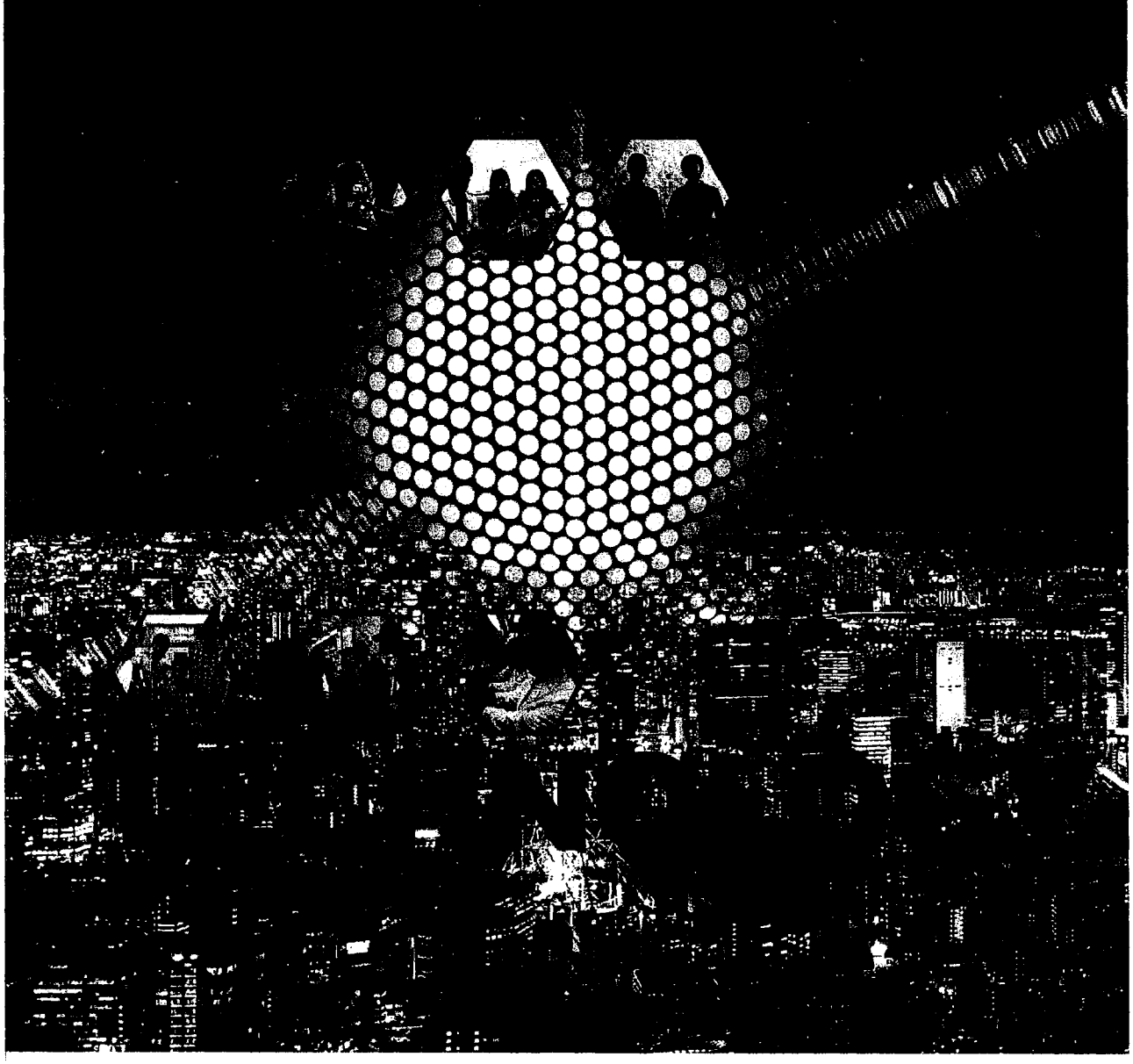
2020学科案内
A Guidance of Nihon Kogakuin

ITカレッジ

IT/AI/モバイル/Web/ネットワーク/セキュリティ/パソコン/ビジネス/ホテル/ブライダル

テクノロジーカレッジ

ロボット/電子/電気/自動車整備/環境/バイオ/応用生物/建築/建築設計/土木/造園/機械設計



学校法人片柳学園

日本工学院専門学校　日本工学院八王子専門学校

●国土交通省資格認定 [illegible] 蒲田校　八王子校

建築学科
建築設計科

高度専門士

日本工学院WebTV 最新情報はブログで! http://blog1.nsgk.ac.jp/

最先端技術BIMと資格を手に入れ、業界最前線へ!

[学科の特長]

将来の就職は万全

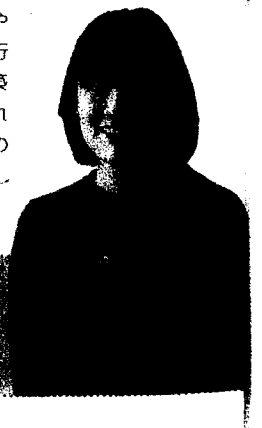
就職の専門機関「キャリアサポートセンター」とクラス担任が手を組んで、就職を強力にバックアップ。就職率は毎年100%を誇ります。また、一級建築士の受験資格取得に必要となる2年間の実務を積むためのカリキュラムも整えています。

最重要資格の認定校

本校は、建築業界の最重要資格である「一級・二級建築士」の受験資格認定校。資格取得を最大の目標にし、授業や放課後の勉強会などで徹底サポートします。その他の資格についても、在学中に3つ以上の取得をめざします。

一流講師による指導

業界の第一線で活躍する建築家やデザイナーを招いて特別講義を行うほか、海外デザイン研修や建築見学会など、一流の建築物に触れる機会も用意。「一流になる最良の方法は、一流に学ぶこと」を実践しています。



FROM 在校生

[illegible]

カリキュラム・学びの流れ（教育設計図）

建築学科

1年次 ▶ 2年次 ▶ 3年次 ▶ 4年次

建築設計科

1年次 ▶ 2年次

二級建築士対策科目を中心に基礎から身につけていきます。CADや設計製図などの実習も数多く経験し、2年次から始まる専門性の高い授業に備えます。

二級建築士に必要な知識、技術を習得します。後期には2年間の集大成として修了制作（2年制は卒業制作）を完成させます。

↑ 編入

4年制への編入学が可能

建築学科からの進級者は学士取得、建築設計科からの編入者は二級建築士取得が目標となります。

建築に関する実務的でより専門性の高い知識・技術を習得します。また、4年間の集大成である卒業制作を完成させます。

専門力育成科目

- 建築計画1
- 建築構造1
- 建築設備1
- 建築法規1
- 建築生産1
- 建築実習1
- 建築実習2
- インテリア設計実習2
- 建築構造・設備実習2
- 建築施工実習1
- 建築施工実習2
- 建築演習3 ● 建築演習4
- 施工管理技術者資格対策
- 建築士資格対策

2年制卒業

- 建築計画特論
- 建築環境・設備特論
- 建築構造特論
- 建築生産特論
- 建築法規特論
- 建築士受験対策
- 高度建築計画
- 高度構造力学
- 高度建築法規
- 高度資格対策1
- 設計計画1 ● 設計計画2
- 建築CAD・CG1
- 実務演習1 ● 実務演習2
- インターンシップ1
- 特別演習1 ● 特別演習2

4年制卒業

- 高度建築設備
- 高度建築生産
- 高度資格対策2
- 設計計画3
- 卒業制作
- 建築CAD・CG2
- CAD・CG制作
- 実務演習3 ● 実務演習4
- インターンシップ2
- 特別演習3 ● 特別演習4

目標資格

- ビジネス能力検定
- 福祉住環境コーディネーター3級
- 宅地建物取引士
- 2級建築施工管理技術検定
- 商業施設士補
- Vecor Works操作技能マスター検定
- 二級建築士（3年次編入者対象）
- 木造建築士（3年次編入者対象）
- 商業施設士
- 2級建築施工管理技術検定
- 宅地建物取引士
- 一級建築士（卒業後、実務2年で受験可能）

注目カリキュラム

▶ 設計製図

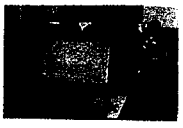
建築に関する基礎知識全般を身につけるとともに、建築設計、製図、インテリア設計、デザイン、構造・設備、施工を重点的に学習。それぞれの専門分野に応じた課題設定を行って実践的に学ぶことで、分野ごとの知識を習得します。

▶ 建築施工実習

建築施工の実務経験を持つ講師陣による「木造軸組建て方実習」などの実践的カリキュラムにより、建築施工の仕事に必要となる幅広い知識と技術を学びます。また、二級建築施工技術検定などに出題される実務の知識を、実習を通して学びます。

▶ 建築CAD・CG

最新のソフトを使用して、建築設計に必要なCADやCGの専門技術を基礎から学びます。また、建築業界における最先端技法であるBIM（ビルディング・インフォメーション・モデリング）について学び、建築デザインや温熱環境などのシミュレーション、VR（バーチャル・リアリティ）の作成も行います。



▶ 企業課題「50年この街に住まう家」 ヤマダホームズ

蒲田校の地元である大田区の木造密集地域を敷地に設定し、高齢者が住み慣れた町で生き生きと暮らせる「50年この街に住まう家」を学生が提案。対象地域の調査や都市型3階建て住宅のモデルハウスの見学も行い、問題提起、解決型の企業課題に取り組んでいます。

建築学科［4年制］

● 建築設計コース　● インテリア設計コース
● 建築構造・設備コース　● 建築施工コース

一級建築士をめざす学科
ダブルスクールで「学士」も取得可能！

卒業後、2年で一級建築士取得をめざせる学科です。徹底したフォローアップシステムを整えており、実務経験を積むための就職支援も万全。東京大学教授をはじめ、一流の講師の講義を受けられる「放送大学」との連携を実現しており、併修（ダブルスクール）により、卒業とともに高度専門士と学士の両方を取得可能です。また、より高度な知識や能力を身につけたい人は、卒業後に大学院への進学をめざすこともできます。

建築設計科［2年制］

● 建築設計コース　● インテリア設計コース
● 建築構造・設備コース　● 建築施工コース

二級建築士をめざす

卒業と同時に二級建築士の受験資格が得られます。また、建築学科［4年制］の3年次に編入もでき、その場合、在学中に二級建築士を取得可能。合格保証制度により、合格するまで卒業後も無料で対策授業を受けられます。他大学への編入実績も豊富です。

目標や学び方で選べる2学科

建築関連の資格で最重要とされているのが一級建築士です。本校では、この資格の取得を最短ステップでめざせる4年制の「建築学科」と、2年制の「建築設計科」を用意しています。

建築学科（4年制）：放送大学 ←→
1年次 → 2年次 → 3年次 → 4年次 → 卒業
- 就職
- 大学院へ進学

放送大学と提携
一流の講義で定評ある通信制の放送大学と提携。カリキュラムを併修することにより、4年制の建築学科の学生は、卒業と同時に「国立大学と同等」と評価される教養学の「学士号」を取得できます。

受験資格取得：一級建築士 卒業後実務経験2年／二級建築士 卒業時
※一級建築士取得のための「フォローアップ制度」あり

編入：3年次に優先的に編入可／在学中に二級建築士を取得

建築設計科（2年制）：1年次 → 2年次 → 卒業
- 就職
- 他大学へ編入

受験資格取得：一級建築士 卒業後実務経験4年／二級建築士 卒業時

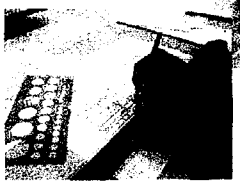
めざせる仕事

● 建築家（一・二級建築士）　● 建築施工管理者　● 建築デザイナー　● 都市プランナー　● 設備技術者　● 構造技術者　● CADオペレーター　● インテリアデザイナー　●公務員　など

実習・研修

スマートハウス構造・設備実習
エネルギーをより効率的に活用できるスマートハウスの構造や、合理的な設備の配置を学びます。

建築演習
各自設定したコンセプトに基づいた建築模型の製作を行います。



製図作成実習
建築図面の機能と読み方、図法の種類について学ぶとともに、設計製図の知識を学びます。

海外デザイン研修［選択科目］
海外の都市・建築・インテリアに触れることで、デザインに対する理解を深め、感性を磨くことを目的とする研修で、隔年で開催しています。2018年度はパリとマドリードを訪ねました。

Architectural／Architectural Design

建築学科／建築設計科

資格

建築士資格対策は万全！ 在学中、二級建築士 24名取得［2018年度］

本科は、建築業界の最重要資格である「一・二級建築士」の受験資格認定校です。その取得を最大の目標に、授業や放課後の勉強会などで徹底サポートしています。建築設計科[2年制]を卒業して、建築科[4年制]に編入することで、在学期間中に二級建築士を受験することも可能です。2018年度は24名の二級建築士が誕生しました。その他の資格についても、在学中に3つ以上の資格取得をめざします。

認定資格

無試験で取得できる
- 商業施設士補

試験科目が免除に
- 商業施設士
- VectorWorks操作技能マスター認定

受験資格が得られる
- 一級建築士（実務経験4年または2年）
- 二級建築士（卒業時）
- 木造建築士（卒業時）
- 1・2級建築施工管理技士
- インテリアプランナー
- 空気調和・衛生工学会設備士
- 1・2級土木施工管理技士
- 1・2級造園施工管理技士
- 1・2級管工事施工管理技士
- 宅地建物取引士　など

主な就職・進学先

大林組／清水建設／住友不動産／大東建託／大和ハウス工業／ヤマダ・エスバイエルホーム／積水ハウス／三栄建築設計／久米設計／久慈設計／アイダ設計／ライフ設計事務所／アルモ設計／大林デザインパートナーズ／ピーディーシステム／TAKシステムズ／タマホーム／アイディーホーム／アキュラホーム／トランスコスモス／ビム・アーキテクツ／西建設計／匠設計コンサルタント／高砂熱学工業／飛島建設／熊谷組／東急建設／大和小田急建設／JR東日本／大豊建設／青木あすなろ建設／前田建設工業／サンユー建設／JR西日本／丹青TDC／飯田産業／アーネストワン／長谷工リフォーム／木下工務店／田中建設／馬淵建設／中野積算／川村積算／朝日建設／フジタ／宇部興産／日本住宅／住協建設／タカラスタンダード／早野組／内藤ハウス／トヨタホーム山梨／守谷商会／白石建設／片桐建設／坂田建設　ほか多数

【技術系公務員】 防衛省／東京都庁／神奈川県庁／八王子市役所／甲府市役所／文京区役所／大月市役所／寄居町役場　ほか

【大学編入実績】 日本大学／東海大学／三重大学／武蔵野美術大学／東京理科大学／ものつくり大学　ほか

子どもの頃から「自分自身で家を設計して建てたい」と建築に興味を持ちはじめ、やがて大手建設会社に入って日本を代表するような建物に関わりたいと考えたことが、建築を学ぼうとしたきっかけです。現在は、都心の大きな建設現場で施工管理を担当しています。建物が図面通りにできあがって、大勢の方々に使っていただけるときに、最高のやりがいを感じます。

原 和也さん
大林組 勤務
建築学科 2016年卒
東京都立昭和高校出身

学科TOPICS

首都大学東京の大学院に進学！

日本工学院では、通常の設計課題のほか企業連携課題、学外のコンペティションなどに積極的に取り組むことで、柔軟なアイディアを出す力をこの4年間で養えたと思います。また、進路では大学院進学の希望を担任の先生に伝えたところ、論文作成や面接について専門的なサポートを受けることができ、首都大学東京の大学院に進学することができました。

古谷 梨伽子さん
建築学科 2018年卒／北海道・私立札幌光星高校出身
首都大学東京大学院修士課程 1年

学生のアイディアでマンションをリノベーション！

「なかなか借り手のつかないワンルームマンションを魅力的に」という（株）ユーティーアール不動産からの課題に取り組み、建築学科 3年梁木怜南さんの作品「Grand jete」が最優秀に選ばれました。この案をもとに実際に、新たな賃貸物件としてリノベーションが行われました。

CHECKPOINT!

業界を代表するプロによる特別講義を実施

<これまでの特別講義の実績>

2005年　山下 保博／相羽 高徳
2006年　安藤 忠雄／西沢 衛立／野口 秀世
2007年　安藤 忠雄／山下 保博／ヨコミゾ マコト／野口 秀世／古谷 誠章
2008年　菊池 恭二／長谷川 逸子／遠藤 政樹
2009年　石上 純也／大島 芳彦
2010年　妹島 秀平／谷尻 誠
2011年　藤本 壮介
2012年　平田 晃久／木下 庸子
2013年　チームけんちく体操
2014年　山梨 知彦
2015年　武井 誠／伊東 豊雄／豊田 啓介
2016年　曽野 正之・祐子／末光 弘和
2017年　曽野 正之・祐子／小堀 哲夫
2018年　曽野 正之・祐子／豊田啓介／永山祐子　など

建築設計科［2年制］から多くの学生が大学へ編入学

<編入学合格実績18名（2016～2018年度）>

東海大学工学部建築学科3年次
日本大学理工学部建築学科2年次
神奈川大学工学部建築学科2年次
東京工芸大学工学部建築学科2年次
室蘭工業大学建築社会基盤系学科3年次
東京工科大学コンピュータサイエンス学部2年次

建築学科の学士取得人数 119名（2016～2018年度）

資　料２：アンケート協力　専門学校　ホームページ

（※日本工学院八王子専門学校は資料１日本工学院専門学校と姉妹校で同じため上記参照）

○浅野工学専門学校

横浜で建設設計・施工・構造・コンクリート・CAD・建築デザイン・建築インテリアの即戦力を育てます

横浜で本物を学ぶ「浅野の建築」
浅野工学専門学校

職業実践専門課程
文部科学大臣認定校

お問合せ・イベントのお申込は
0120-19-2903
神奈川県横浜市神奈川区子安台 1-3-1

オープンキャンパス体験入学
mail　資料請求　アクセス

検索

MENU
- 学校について
- 学科紹介
  - 建築工学科
    - 特色
    - カリキュラム
  - 建築デザイン科
  - 学びのサポート
- オープンキャンパス
- 募集要項
- 学園生活
- 就職について
- お問合せ・お申込
- アクセス
- お知らせ

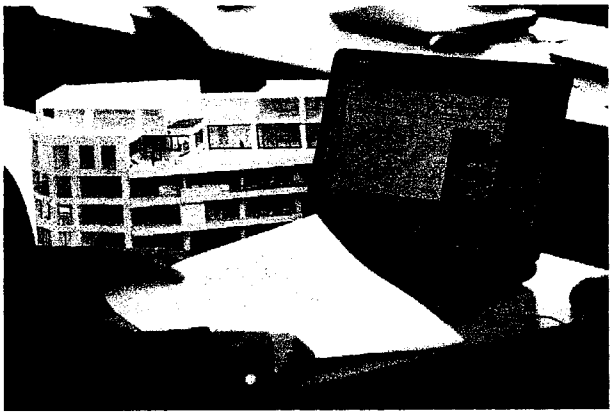
訪問者別メニュー
- 入学希望の方へ
- 保護者の方へ
- 教師の方へ
- 卒業生の方へ
- 企業の方へ

学科紹介

建築工学科 4年制・高度専門士・職業実践専門課程

充実の4年間で未来の日本を担う「総合的建築人」を育成します。

特色　　カリキュラム



プロとして即戦力となる人材育成

卒業後に即戦力として働くために、基礎～実務を4年間でそれぞれしっかり・じっくり学べるカリキュラムを用意しています。プロとして活躍するためには、実践的で専門的な知識・技術が必要なのはもちろんのこと、建築業界で働くということは、多分野のプロが関わり合い、力を出し合い形にしていくため、いろいろな視点に立ち、考えることのできる総合的な力が求められます。

コンクリート工場と同等の実験設備で学ぶ

建築物や建築の仕方により、必要となるＲＣ（鉄筋コンクリート）造やコンクリートの性質、用途が異なります。本校はコンクリート技術者養成校の先駆者としてコンクリートについての実験施設を持ち、しかも実際のコンクリート工場と同じ実験機器と設備を用いて学ぶことができるため、建築を仕事とする上で必要な知識と技術を修得できます。

情報公開

授業計画・授業概要 >

修学支援に関する申請書 >

在校生専用ページ

SNS

facebook

twitter

教育支援サイト

日本年金機構
学生給付特例制度

職業実践専門課程サイト

学びたい気持ちを応援します
高等教育の修学支援新制度

住まい支援サイト

学生寮のご案内

お部屋探しなら 学生マンションの

在学中・卒業後も資格を取得

資格取得についても積極的に奨励しています。在学中に取得可能な資格取得支援講習会を用意しており、資格取得に挑戦しています。また、卒業することで一級建築士・二級建築士の国家試験受験資格が得られます（一級建築士も即受験可能、登録には実務経験２年必要）。卒業することで大学同等の扱いとなる「高度専門士」を取得でき、大学院にて研究を深化させることも可能です。

取得可能な資格

■：国家資格・国家標準に該当する資格

在学中に取得可能

- ■2級建築施工管理技術検定
  (2級建築施工管理技士学科試験)
- ■商業施設士(補)
- ■福祉住環境コーディネーター
- ■建築CAD関連資格検定
- ■建築積算士(補)
- ■現場作業に必要な各種免許／資格
  (講習技能合宿)
- ■JIS品質管理責任者
- ■インテリアプランナー
  (実務経験無し・登録は卒業後)　など

卒業後に取得可能

- ■一級建築士(即受験可：登録には実務経験2年)
- ■二級建築士・木造建築士(即受験可：実務経験無し)
- ■1級建築施工管理技士(実務経験3年)
  (建築以外に土木・造園・電気も受験可能)
- ■2級建築施工管理技士(実務経験1年)
  (建築以外に土木・造園・電気も受験可能)
- ■建築設備士(実務経験2年)
- ■商業施設士(実務経験1年)
- ■コンクリート主任技士(実務経験4年)
- ■コンクリート技士(実務経験2年)　など

OPEN

「きく！」公開講座
2/29(土)
13:00開始(12:50～受付)

お問合せ
イベントのお申込は mail
または 0120-19-2903

資料請求【無料進呈中】
学校案内や募集要項など資料を郵送いたします

○岡山科学技術専門学校

文部科学大臣認定 職業実践専門課程 設置校

お問い合わせ　資料請求はこちらから

KAGiSEN
岡山科学技術専門学校 SCHOOL GUIDE 2020

10 COURSE 学科紹介　入学案内　就職サポート　学校の特徴　学校生活

建築工学科

文部科学大臣認定 職業実践専門課程　昼間部・2年制・男女

国土交通大臣 一級建築士認定校

HOME › 学科紹介 › 建築工学科

- 学科紹介
- カリキュラム
- 建築工学科のここがスゴイ!
- 在校生・学科長
- 先輩たちの就職一覧
- 先輩からのメッセージ
- 建築工学科 - 学科ブログ

昭和町校舎
〒700-0032 岡山市北区昭和町8-10
TEL：(086)255-7171
FAX：(086)255-7093
フリーダイヤル：(0120)45-7171
（平日9:00～17:30）

高柳校舎
〒700-0034 岡山市北区高柳東町7-15
TEL：(086)255-4822
FAX：(086)255-5452

学科紹介

文部科学大臣認定 職業実践専門課程
【昼間部・2年制・男女】
国土交通大臣 一級建築士認定校

住空間デザインを中心に、総合的な建築を学び個性豊かな空間を提案できるプロを目指す

社会の変化に合わせて、空間づくりもより快適性が求められます。本学科では、住宅設計から公共建築物の設計まで幅広く学ぶことができます。また、照明や家具のレイアウト・色彩計画の力量を高め、豊かな表現力も身に付けます。そして住宅展示場での研修や建築家から直接指導を受ける授業など実践的な教育を行います。一方で深刻な技術者不足を抱える建築工事に携わる人材育成にも、力を注いでいます。

■ 将来はこんな職業に

- ■ 建築士(設計業務)
- ■ 建築施工管理技士(現場監督)
- ■ インテリアコーディネーター
- ■ インテリア設計士
- ■ CADオペレーター
- ■ 福祉住環境コーディネーター
- ■ 家具デザイナー など

■ 目指す資格

- ○ 一級建築士
- ○ 二級建築士
- ○ 木造建築士
- ○ 1・2級建築施工管理技士
- ○ インテリア設計士
- ○ インテリアコーディネーター
- ○ インテリアプランナー
- ○ 福祉住環境コーディネーター
- ○ 建築CAD検定
- ○ 商業施設士
- ○ 宅地建物取引士

■ 目指す資格

- ○ 一級建築士
- ○ 木造建築士
- ○ インテリア設計士
- ○ インテリアプランナー
- ○ 建築CAD検定
- ○ 宅地建物取引士
- ○ 二級建築士
- ○ 1・2級建築施工管理技士
- ○ インテリアコーディネーター
- ○ 福祉住環境コーディネーター
- ○ 商業施設士

■ 資格特典

資格名	特典
○ 一級建築士 建築物の用途、規模、構造など無制限に、設計及び工事管理ができる高度な資格。	卒業後実務経験4年で受験可能 通常 （指定学科卒業生以外） 高校卒業後実務経験11年以上
○ 二級建築士 一級より業務範囲は限られるが、設計や工事の業務ができる有利な資格。	受験資格の取得 通常 （指定学科卒業生以外） 高校卒業後実務経験7年以上
○ 木造建築士 延べ面積300m^2、階数2以下の木造建造物に関する業務を行う木造専門の建築士資格。	受験資格の取得 通常 （指定学科卒業生以外） 高校卒業後実務経験7年以上
○ 1・2級建築施工管理技士 ※ 建築施工技術者を育てる指導的技術者の資格。幅広い建築工事で、管理技術者として活躍できる資格。	卒業後実務経験 2級：2年で受験可能 1級：5年で受験可能 通常 （指定学科卒業生以外） 高校卒業後実務経験 2級：4年6ヵ月以上 1級：11年6ヵ月以上
○ 商業施設士 商業施設の運営・監理システムや店舗の設計デザインから監理までを行うための資格。	卒業後実務経験1年で受験可能 さらに1次試験免除 通常 （指定学科卒業生以外） 高校卒業後実務経験3年以上

○青山製図専門学校

建築・インテリア・ショップデザイン

文字サイズ 標準 大 最大

JAPANESE | 簡体中文 | 繁体中文 | 한국어 | ENGLISH

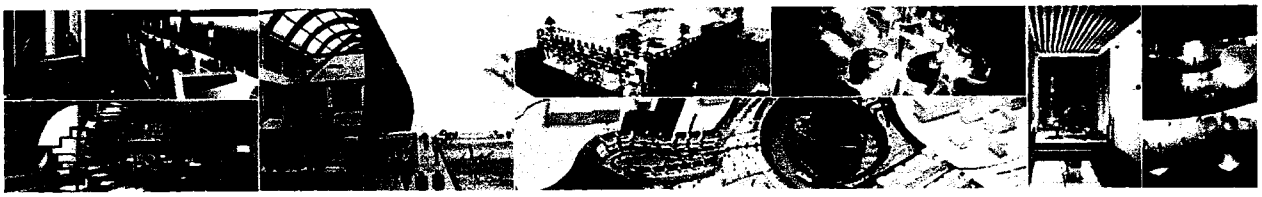
青山製図専門学校 ホーム 交通案内 お問い合わせ一覧

文部科学大臣認定「職業実践専門課程」学校情報公開

体験入学 資料請求

学科紹介 | 学校案内・校長挨拶・沿革 | 募集要項・就職・資格取得・学費 | 体験入学・説明会・授業見学

建築インテリア | 専門学校 | 青山製図-東京 > 建築 インテリア | 学部紹介 | 青山製図専門学校 > 建築学部 | 専門学校 | 青山製図-東京



建築デザインのスペシャリストへ

建築学部の全学科（夜間部含む）が実務0年で卒業の年に、1建築士／2級建築士受験ができます
全ての学科で、BIM Archi CADを学びます

・数学物理ではなく普通科系出身から安心して学べます。
・建物の模型作り、手書き図面技術、パソコンによる図面を描く技術力。
・空間デザインの感覚を身に付け、製図板上で設計図を描く建築士の試験対策も兼ね添えています。

青山製図11のサポート制度
出願スケジュール

建築工学科

建築学部　3年コース
建築工学科職業実践専門課程
授業時間数3,466
建築を存分に学びたい人へ
一級建築士になるための、建築工学科！
（使用するパソコンソフト）
BIM Archi CAD／Auto CAD ／Sketch Up／LUMION／Photoshop & lightroom／Power Point ／Word／Excel／Adobe CC

・卒業の年に＜実務0年＞で「**1級建築士**」／「**2級建築士**」受験認定です。

建築設計デザイン科

建築学部　2年コース
建築設計デザイン科授業時間数2,312
2年次:建築デザインコース・環境デザインコース

〖専門実践教育訓練給付金・支援給付金〗
建築を短期間で学びたい人へ
最短で国家資格を取得、建築士を目指す人へ
（使用するパソコンソフト）
BIM Archi CAD／Auto CAD／Sketch Up pro／LUMION／photoshop & Lightroom／Word／Excel／Power Point ／Adobe CC

住宅設計デザイン科

建築学部　2年コース
住宅設計デザイン科 授業時間数2,312

世界先端スキルBIM Archi CADを学ぶ。住空間スペシャリストを目指す人へ。
（使用するパソコンソフト）
BIM Archi CAD／Auto CAD／LUMION／Sketch up Pro／Photoshop Elements／Adobe CC／Word／Excel／Power Point

・卒業の年に＜実務0年＞で「**1級建築士**」／「**2級建築士**」受験認定です。

・最大の特長は、大学以上の建物から都市計画・ランドスケープまで。インターンシップ、CAD、CGにより実践プレゼンテーションの高度なスキルを学びます。
・2年次にはインターンシップで職業体験をします。
・1年次には福祉住環境コーディネーター3級の取得を目指します。
・「1級建築士」を目指す学科です。

建築工学科 詳細

・卒業の年に＜実務0年＞で「1級建築士」／「2級建築士」受験認定です。

・特徴として、2年次から意匠設計を中心に学ぶ「建築デザインコース」
または自然エネルギーシステム・リノベーション設計を学ぶ「環境デザインコース」のどちらかを選択して学びます。

・1年次に福祉住環境コーディネーター3級の資格取得を目指します。

・卒業の年に＜実務0年＞で1級建築士／2級建築士受験が最短コースです。

建築設計デザイン科 詳細

・BIM Archi CADでは、高度かつ実践的BIMの使い方と、BIMによるプレゼンテーションを習得します。

・住宅に特化した「住宅インテリア計画」「住宅エクステリア計画」「住宅リフォーム計画」など学びます。

・「住宅エコデザイン演習」「住宅CAD演習」で住宅をメインに住空間づくりを学びます。

・在学中に福祉住環境コーディネーター3級、エクステリアプランナー2級の資格取得を目指します。

・最短2年コースで＜実務0年＞で1級建築士／2級建築士受験認定です。

住宅設計デザイン科 詳細

建築科【夜間】

建築学部　2年コース【夜間】

建築科

授業時間数1,892
最短時間で国家資格を取得したい人へ
短期間で建築デザインを学びたい人へ
仕事と学校 両立して学びたい人へ

【専門実践教育訓練給付金制度】
・18時30分スタート、最少の投資で最大の効果を設定しました。
（使用するパソコンソフト）
BIM Archi CAD／Auto CAD／Sketch Up Pro／LUMION／JW CAD／Word／Excel／Power point／Photoshop & Lightroom

・卒業の年に＜実務0年＞で「1級建築士」／「2級建築士」受験認定です。

・集合住宅、美術館等の設計と、建築技術者として重要な実践的専門知識を学びます。

・1級建築士／2級建築士を超最短で取得するコース。卒業の年に受験できます。

・学費は昼間学科の1/2かつ分割納入あります。詳しくはこちら

・専任教師による、昼間部と同様の就職まで完全対応のコースです。

・「2級建築士合格保証制度」がある建築設計研究科へ進学できます。

建築科 詳細

建築設計研究科1年制建築コース

建築設計研究科　1年コース【昼間】

建築コース

〈2級建築士受験資格者限定 学科〉

在学中に受験して2建築士へ！

世界最先端スキルを学びたい方へ。
（使用するパソコンソフト）
【建築コース】（BIM）Archi CAD／Rhinoceros／Grasshopper

（4月～9月）
【建築コース】
2級建築士受験直結カリュキュラムで全員合格を目指します。
「学科の試験」
「設計製図の試験」は手描きでおこなわれます。

（10月～3月）
【建築コース】
生産設計・建築企画・（BIM）Archi CAD演習
パラトリックデザイン等学びます。
実務的なカリキュラムで、卒業後に即戦力となる高度な知識技術を習得します。

……

//2級建築士設計製図合格速報//2019/12/05センター発表

◆平成30年度2級建築士ストレート「学科＋設計製図」合格は全国の3倍、合格率77.0%（全国は22.2%）と在校生合計104名合格。

……

・【2級建築士合格保証制度（内部進学者対象）】建築設計研究科に1年在籍し、2級建築士に合格できなかった場合でも、その後２年間は、合格するまで前期学費を免除にて学ぶことができます。

・別科：（ACC）青山コミュニティカレッジに入学した場合でも、【2級建築合格保証制度(内部進学者対象）】で、別科：（ACC）青山コミュニティカレッジで、2級建築士対策講座授業料を免除（テキスト代は含みません）にて学ぶことができます。
本科の建築研究科に1年在籍が必要です。

・1級建築士対策講座（ACC）：青山コミュニティカレッジこちらから

建築設計研究科 詳細

○読売理工医療専門学校

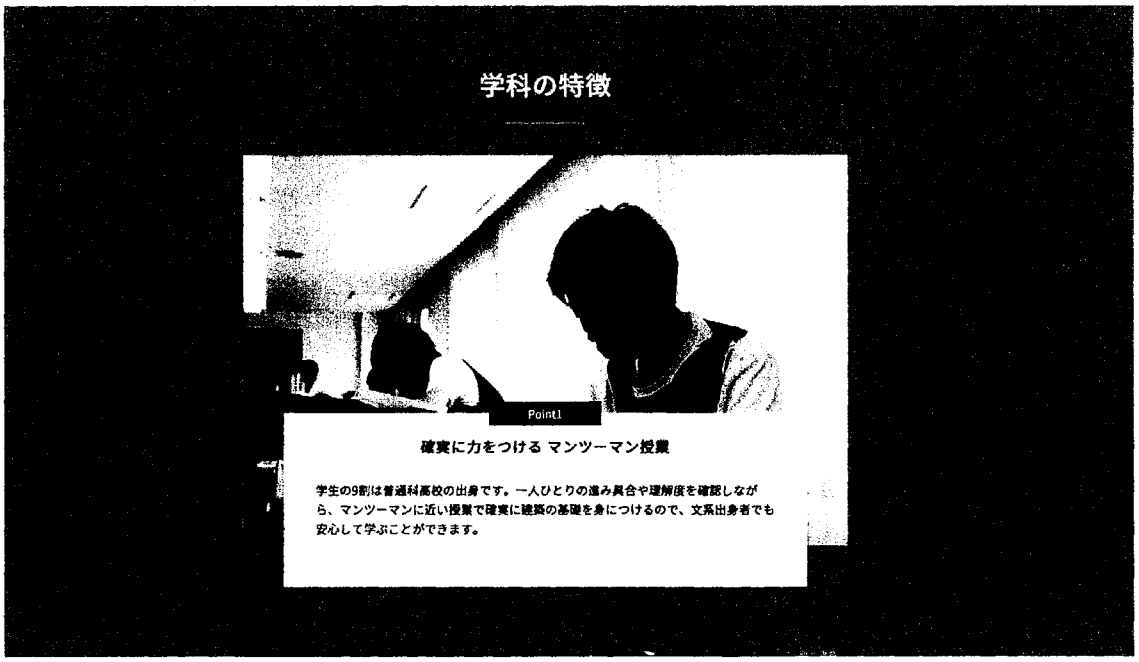
学校法人 読売理工学園
読売理工医療福祉専門学校

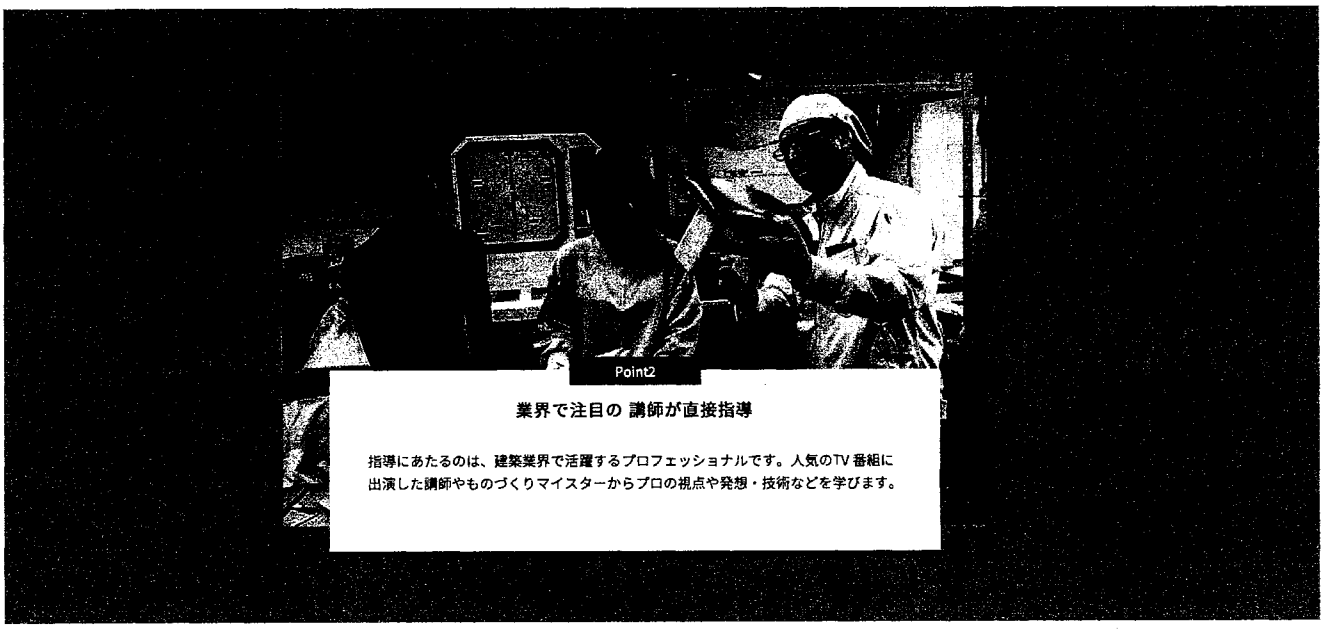
入学相談 0120-064-490

トップページ > 学科紹介 > 建築学科

建築学科とは

建築学科は、建築業界で最重要とされる「二級建築士」「一級建築士」の受験資格認定校です。
「二級建築士」は大学へ進学するよりも短い2年間、「一級建築士」は卒業後4年間の実務経験で受験資格が取得できます。
一級建築士として活躍する講師の指導のもと、企業と連携したインターンシップや建築現場の見学、木工・鉄工実習など、実践的な能力を培う授業が特徴です。





Point2

業界で注目の 講師が直接指導

指導にあたるのは、建築業界で活躍するプロフェッショナルです。人気のTV番組に出演した講師やものづくりマイスターからプロの視点や発想・技術などを学びます。

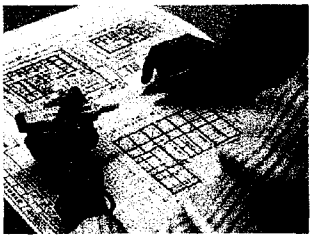
建築の世界で必要な
技術や考え方を2年間でマスターします

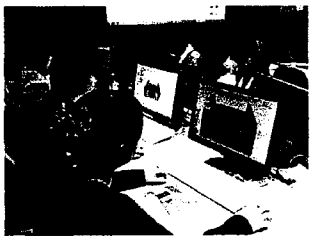
建築学科には「インテリア・設計コース」「施工コース」のコース別授業があります。
より専門的なスキルを身につけるとともに、目標とする資格取得に向けて、さまざまな角度から理解を深め、それぞれのスペシャリストを目指します。

インテリア・設計コース

施工コース

幅広く学べる充実の授業内容





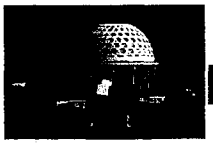
設計製図

本校では、設計製図の授業を重視しています。詳細な図面を描き、また読み解く力は、建築士に求められる重要な技能の一つです。

CAD・CG

CAD・CGソフト（Auto CAD、VectorWorks、Jw_cad、3DCAD）を使い、建物の形を立体的に学びます。

学生作品



講師紹介

私たちの知識、経験をすべて伝えます

第一線で活躍する講師陣が指導にあたります。

小川 貴之
建築家／一級建築士
明治大学理工学部建築学科卒業／慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了／ INA新建築研究所、アトリエ事務所を経て、小川貴之建築研究室設立。本校学科長
〈受賞歴〉第3回リノベーションアイディアコンテスト入選（共同制作）
〈委員川崎市都市計画マスタープラン多摩区構想検討委員会 公募委員

Message/代表作品を見る

牟禮 智絵子
建築家／一級建築士
日本女子大学住居学科卒業／山本理顕設計工場を経て堀智絵子建築設計事務所設立
〈受賞歴〉鹿児島県第14回住まいのリフォームコンクール最優秀賞
〈掲載歴〉『新建築』『STUDIO VOICE』 他

Message/代表作品を見る

星 裕一郎
建築家／一級建築士
千葉大学卒業／千葉大学大学院修了／ワークステーションを経て星設計室設立
〈受賞歴〉第15回まちづくり設計競技 準特選／ TDYリモデルスマイル作品コンテスト2008・2010 最優秀賞／ AICA施工例コンテスト2012 特別賞
〈TV放映〉「渡辺篤志の建もの探訪」テレビ朝日／「完成！ドリームハウス」テレビ東京 他

Message/代表作品を見る

小島 善文
建築家／一級建築士
横浜国立大学工学部建築学科卒業／山本理顕設計工場、妹島和世建築設計事務所を経てD BOX設立。AL建築設計事務所共同設立
〈掲載歴〉『新建築』 他

大田 真
建築家／一級建築士
横浜国立大学工学部建設学科（土木）卒業／千葉大学大学院（建築）修了／建築・デザイン事務所を経て、atelier CHOCOLATE設立
〈受賞歴〉第4回国際コンペティション名古屋デザインDO！2004 一次審査通過・上位36選第1回六本木デザイナーズフラッグコンテスト入選
〈掲載歴〉「dezeen（英国）」「arqa.com」「binfenspace2012年7月号（中国）」「Jutaku: Japanese Houses / PHAIDON（英国）」

Message/代表作品を見る

中島 修
木材工芸家／ものづくりマイスター
産業技術大学院大学 創造技術専攻修了／建設会社、設計事務所に勤務したのち木工職人として修練を積む／ナカジマデザインスタジオ 代表
〈受賞歴〉エコ・プロダクツデザインコンペ2010企業賞／東京ビジネスデザインアワード2012優秀賞／The12th・The13th NEW IDEAS OF NEW CENTURY International Competition, GRAND-PRIX 他
〈掲載歴〉日経デザイン、AXIS、IFFT/インテリア ライフスタイル リビング 他

Message/代表作品を見る

○岡山理科大学専門学校

MENU

RiSEN
岡山理科大学専門学校

在校生の方へ　卒業生の方へ　採用担当の方へ

学科紹介

Course

オープンキャンパス　資料請求　入学案内

RiSENについて　学科紹介　資格・就職　キャンパスライフ　入学案内　OPEN CAMPUS

TOP ― 学科紹介 ― 建築学科

建築学科

2年制

中四国で最も伝統のある学科。現場で活躍する一級建築士から学ぶことで即戦力を身に付ける。

職業実践専門課程認定学科(文部科学大臣認定)・国土交通大臣一級建築士 指定校・岡山県知事二級建築士 認定校

Goal in Course

長い歴史と
伝統をもつ
実践的な
匠の技を学ぶ。

めざす将来

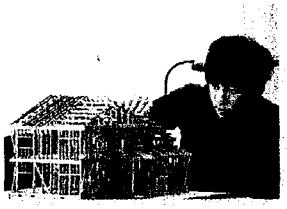
- 建築士・大工
- 建築施工管理（現場監督）
- インテリアコーディネーター
- 構造設計者
- 宅地建物取引士
- 公務員（建築技術職）
- 住宅営業
- 店舗デザイナー

就職実績はこちら

OUTLINE

学科の概要

RiSEN建築では一級建築士21名の講師が実践的な知識と技術を伝授します。建築士、建築施工管理技術検定、宅地建物取引士などの国家資格取得を目指した対策の他、福祉住環境コーディネーター、インテリアプランナー、CAD利用技術者、インテリアコーディネーターなど、建築の現場で必要な資格取得に向けたカリキュラムが充実しています。毎年高い就職率を誇り、長い歴史と伝統をもつ本校の卒業生は高い評価をいただいています。また、県内の設計競技会「ワンデーエクササイズ」では毎年入賞しています。



夜間部について

1975年に設立され、中四国では40年以上の実績を持つ建築夜間部。
授業は、月曜から土曜日の午後6時から午後9時10分まで。働きながらでも授業を受けやすい時間帯なので、年齢・職種なども様々な学生が本校で学んでいます。
また、2年間の学習で最長4年間の履修ができる長期履修制度があります。

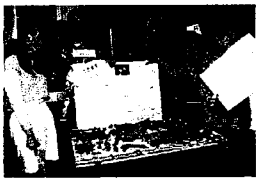
夜間部の詳細はこちら

LEARNING POINT

学びのポイント

Learning 01 第一線で活躍する一級建築士講師21名!

RiSENでは建築業界で活躍中の一級建築士が実践的な知識と技術を伝授します。それぞれの科目の専門家が講師だから資格取得対策もバッチリです。



Learning 02 競技会は毎年入賞! 資格取得率もダントツ!

県内の建築を学ぶ学校が参加する設計競技会「ワンデーエクササイズ」では毎年入賞しています。(2016年は参加3チーム全て入賞し、優秀賞、奨励賞、日本建築学会中国支部奨励賞を受賞。)
卒業生・在校生への資格取得対策により毎年多くの建築士を輩出しています。(平成10年以降 二級建築士 371名、一級建築士 92名)

Learning 03 高い就職内定率! 多くの先輩達が活躍中!

長い歴史と伝統により本校卒業生の評価は高く、建築業界で活躍する先輩からぜひ後輩を採用したいと熱いラブコールも絶えません。女性の目線に立った住環境提案のできる卒業生が注目されており、RiSENの建築に通う学生のおよそ3割の女子学生も就職は好調です。

CURRICULUM

授業について

学びのステップ

1年次

建築に必要な基礎を製図や実験、ワークショップ、模型制作、実習等を通して学習します♪

2年次

2年次では測量やインテリアデザイン、構造設計なども含めた、実践編に入ります。同時に設計競技会への参加や二級建築士、建築施工管理技術検定、宅地建物取引士などの国家資格取得に向けた対策も行います。

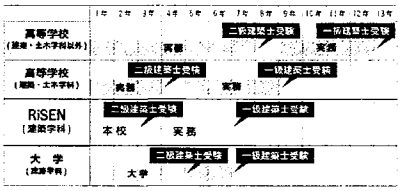
長期履修制度について

この制度は入学時にあらかじめ申し出ることで最長4年まで修業年限を延長し、その期間内に卒業に必要な単位を取得することで卒業できる制度です。
社会人と学生の時間バランスを調整しながら通学することが出来る他、各学年で負担する学費も低く抑えることが可能となります。

長期履修制度の詳細はこちら

一級・二級建築士 受験の流れ比較

RiSENで一級建築士を目指す場合、最短6年で取得することが可能です。



※平成20年度の建築士法改正による建築士の受験資格要件(指定科目)の確認済み

取得可能な資格一覧

- ※ 二級建築士受験資格［国家資格］※実務0年
- ※ 一級建築士受験資格［国家資格］※4年間の実務経験必須
- ※ 建築施工管理技士（土木・管工事）［国家資格1・2級］
- ※ 福祉住環境コーディネーター

TEACHERS

教員紹介

INFORMATION

関連ページのご紹介

建築学科 夜間部

建築学科 専攻科

Photo Library

長期履修制度

NEWS & QN'S

○東京工学院専門学校

総合学院テクノスカレッジ
東京工学院専門学校

まだ間に合う!
大学コース

総合学院テクノスカレッジ　東京エアトラベル・ホテル専門学校　資料請求　アクセス　MENU

オープンキャンパス　テクノスブログ　LINE@

高等教育の修学支援新制度の対象校となりました

家や街、人の暮らしをつくる情熱は何十年も残る仕事につながっていく。

計画、設計、施工など建築の幅広い分野を学ぶことができ、自分の適性ややりたい仕事が見つけられます。また、建築士（国家資格）の受験認定校なので卒業と同時に二級建築士、実務経験4年で一級建築士の受験資格を得られます。

建築設計コース　建築工学コース　福祉住環境デザインコース

東京工学院専門学校ならではの
建築学科 × 大学コース

「学科を卒業した後、二級建築士取得をめざしたい!」
「卒業を過して、海外の建築についても学びたい!」
好きなことに挑戦しながら、将来の可能性をさらに広げるのが大学コースです。大学コースを選択すれば、留学して語学力を高めることも可能! 資格取得をめざしながら、社会で活かせる様々な知識を学ぶことも可能! 自分の可能性を探りながら、豊かなスキルを身につけることができます。

大学コース　もっと詳しく知りたい方はこちら

3つの身につく力

01
建築の仕事に欠かせない製図を描くスキル
建築士資格の製図試験に対応するためにも、手書きでの製図能力を授業・実習を通じてしっかり体に覚えさせていきます。

02
実務で役立つ建築CADソフトを使いこなす
JWやAutoCADをはじめ、建築業界で多く使用されているBIMなど、CADソフトを活用してイメージを形にする力を養います。

03
資格試験合格に繋がる総合的な建築の知識
二級建築士受験の基礎学科として、カリキュラムを設定。4年制大学とほぼ同じ専門科目を2年で学ぶことができます。

建築学科TOPICS
二級建築士合格までの道のり

「研究科」、「大学コース」に進学し、二級建築士取得をめざす

TOPICS 02

[redacted]

建築CAD検定は、建築士として必要な能力が備わっているか確認することができる検定です。試験のために繰り返し勉強することで、知識を確実なものとします。

オープンキャンパスで プチ体験してみよう!

学科卒業後、工学院には2種類の選択で二級建築士を取得する方法があります。
1つ目は、1年課程の「研究科」への進学。
2つ目は、大学の学士と二級建築士を同時に取得する「大学コース」への進学。
将来の夢に合わせた進路選択をすることができます。

研究科へ進学した場合

1年　2年　3年

建築学科2年 → 研究科 → 卒業

4月　6月　7月　8月　9月

- 二級建築士 受験資格取得
- 受験申込
- 学科試験 対策合宿
- 学科 試験日
- 製図試験 対策合宿
- 製図 試験日

卒業時の資格・称号
専門士
二級建築士
各種資格

POINT

みどりの村で行われる試験合格に向けた合宿

受験に向けて毎年開催される対策合宿。資格取得に専念できる環境で、過去の試験など、傾向と対策を知り尽くした講師陣から試験対策を受けられます。

研究科へ進学した場合

1年　2年　3年（4月　6月　7月　8月　9月）

建築学科2年 → 研究科 → 卒業

- 二級建築士 受験資格取得
- 受験申込
- 学科試験 対策合宿
- 学科 試験日
- 製図試験 対策合宿
- 製図 試験日

卒業時の資格・称号：専門士／二級建築士／各種資格

POINT

みどりの村で行われる試験合格に向けた合宿

受験に向けて毎年開催される対策合宿。資格取得に専念できる環境で、
過去の試験など、傾向と対策を知り尽くした講師陣から試験対策を受けられます。

大学コースへ進学した場合

1年　2年　3年（4月　6月　7月　8月　9月）　4年

建築学科2年 → 大学併修学科 → 卒業

- 二級建築士 受験資格取得
- 受験申込
- 学科試験 対策合宿
- 学科 試験日
- 製図試験 対策合宿
- 製図 試験日
- 合格発表
- 学士取得に向けての授業

卒業時の資格・称号：専門士／学士／二級建築士／各種資格

建築学科 コース一覧

建築設計コース

真っ白の設計図に線を描き入れる。
空想の建物が完成に一歩近づく。

【目指せる職種】
- 設計士
- 建築施工管理
- 建築工事監理
- 現場監督
- デザイナー

等

詳細はこちら

建築工学コース

千年前の職人と同じように
繊細な建築物を人の手でつくる。

【目指せる職種】
- 建築施工管理
- 設計士
- 大工
- 建築工事監理
- 現場監督
- デザイナー

等

詳細はこちら

福祉住環境デザインコース

今覚えている建築の知識と技術は
未来の誰かの住みやすさのためにある。

【目指せる職種】
- 設計士
- 建築工事監理
- 建築施工管理
- 現場監督
- デザイナー

等

詳細はこちら

大学コース　もっと詳しく知りたい方はこちら

○中央工学校

建築学科

4年制／昼間

職業実践専門課程

学科の特徴

「創・造・作」の技術と精神、そして資格。即戦力となる理想の建築技術者を育成。

POINT 1
建築初心者にも安心・万全のカリキュラム

POINT 2
即戦力となる建築技術をすべて習得

POINT 3
建築士受験を完全に網羅する教育カリキュラム

学生VOICE

中央工学校を選んだ理由は100年以上続く長い歴史や、卒業して活躍されている先輩もたくさんいることです。

ドールハウス（シルバニアファミリー）から夢は続き、設計関係の仕事に就くために、中央工学校でいろいろな知識を得て、経験を積んでいきたいと思っています。

伊藤さん　2018年入学
（埼玉）川口市立鳩ヶ谷高等学校 出身　現：川口市立高等学校

目指す仕事／資格

高度専門士課程	一級建築士	1級建築施工管理技士	宅地建物取引士
大学卒業者への「学士」と同格。大学院への入学資格付与。	建築士法改正により、卒業後、実務無しで受験可能予定	卒業後、実務3年で受験資格取得	在学中に受験可能

○ 目標の資格

在学中
2級建築施工管理技術検定（学科のみ）／2級管工事施工管理技術者検定（学科のみ）／宅地建物取引士／建築積算士補／福祉住環境コーディネーター検定試験®／消防設備士／インテリアコーディネーター／リビングスタイリスト／パース検定／色彩検定／商業施設士補／AutoCAD ユーザー試験 など

卒業後
一級・二級建築士／1級・2級建築施工管理技士／1級・2級管工事施工管理技士 など

○ 卒業後の仕事

建築設計／住宅設計／店舗設計／設備設計／インテリアデザイン／建築積算／建築施工管理／建築構造設計 など

2018年度 求人実績

（2019年3月1日現在）

求人数 2,642人　　求人件数 1,775社

カリキュラム 充実した4年間でみっちりと学び社会の求める人材に

1年次 建築の基礎とコンピュータやCAD／BIMの基礎を学ぶ

建築技術者として必要となる「設計・デザイン」の基礎を学びます。建築の設計は、基礎となる手描き図面を充実させると同時に、最新ソフトを使ってCAD／BIMやCGの基礎を習得します。

木造2階建住宅設計

▼

2年次 建築のデザイン力・表現力の向上　基礎から応用へ

1年次に学んだ科目や製図の基礎技術・知識を段階的にステップアップ。プレゼンテーション技法や模型制作によってモノのカタチや空間の表現方法を学びます。また実務研修（職場体験）では職業観を養います。

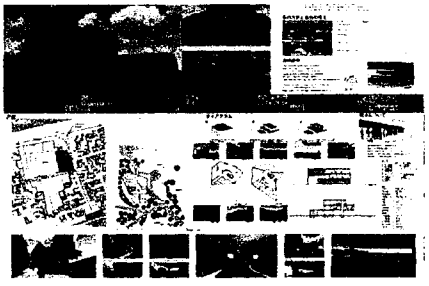
美術館設計

▼

3年次 広く深い知識を持った建築技術者の育成　応用から実践へ

これまで学んだ建築の知識・技術をレベルアップ。さらにインテリア・エクステリアの設計やユニバーサルデザイン・環境共生学などをプラス。不動産概論では宅建受験をバックアップ。広い知識と視野を育てます。

プレゼンテーション（表現技法）



公共施設設計

4年次 3つの専攻から選択し、プロフェッショナルに　実践から実務へ

各自の目標に合わせて3専攻（設計・施工・設備）から選択し、自分の目指す分野の専門力と実務能力を高めます。各専攻の体験型実習教科で、より実務的な専門スキルを習得します。

設計専攻

地域密着型のグループ課題から実施設計まで含めた設計手法を学びます。

施工専攻

鉄筋コンクリート造の設計手法および設計図・施工図の作図手法を学び、実習を通して施工法や施工管理の基礎を習得します。

設備専攻

集合住宅を中心とした空気調和換気設備・給排水衛生設備の基本計画・設計手法を習得するとともに建築と設備の関わりを学びます。

▼

プロフェッショナルとして就職・大学院へ進学

時間割

1年前期 時間割例（1時限：50分）　※12：00~13：10は昼休み

		MON	TUE	WED	THU	FRI
1						
2	9:10-12:00	設計製図	建築法規	プレゼンテーション	建築計画実習	CAD演習
3			建築材料			数学
4	昼休み					
5			建築材料	ビジネスマナー		数学
6	13:10-16:00	設計製図	建築一般構造	構造力学	設計製図	建築計画
7						

3年後期 時間割例（1時限：50分）　※12:00~13:10は昼休み

		MON	TUE	WED	THU	FRI
1						
2	9:10-12:00	設計製図	建築法規演習	ディテール	設計製図	
3			インテリア演習			
4	昼休み					
5			インテリア演習			
6	13:10-16:00	設計製図	環境共生学	エクステリア演習	設計製図	ツーバイフォー演習
7						

○中央工学校 OSAKA

企業の皆様へ　留学生の方へ　卒業生の皆様へ　最新情報

SNS　資料請求　アクセス

学校法人 中央工学校
中央工学校 OSAKA

学校案内　学科・コース　就職・資格　募集要項　キャンパスライフ

TOP ＞ 学科・コース ＞ 建築学科

Architecture

建築学科

建築全般の基礎を身につけ、それぞれの興味に沿った進路を選択し
専門性を高める教育システムで、夢を叶えます。
在学中に2級建築施工管理技士（国家資格）などの建築関連資格取得のための試験対策も行います。

＼ 2年次に3つのコースから選択 ／

建築デザインコース　施工管理コース　建築設備コース

建築学科の特長

Point 01 将来の独立を視野に入れた教育。

将来独立して設計事務所を開設できる人材育成をめざし、建築の基礎となる設計製図を徹底的に教育します。また、BIMによる3次元設計や建築設計コンペティションに挑戦することで、プレゼンテーションスキルを身につけ、自立心と自信を兼ね備えた人材を育成します。

Point 02 クリエイションの奥深さを学ぶ。

建築物をつくるということには、苦労や自然とのたたかいがつきものです。しかし、それを吹きとばすような楽しさがそこには秘められています。鉄筋コンクリート造の建築物の施工実習や現場見学などをとおして、モノづくりの楽しさや素晴らしさを学びます。

Point 03 環境への配慮を意識。

フィールドワークや課題をとおして、省エネルギー技術やサスティナブル建築（持続可能な建築物）といった自然環境に配慮した建築について学習します。最先端の建築の在り方や技術を学び「人と環境にやさしい建築」をつくる人材を育成します。

Point 04 一級建築士最短合格への道を歩もう！

建築業界で最難関といえる一級建築士受験を考慮した授業構成。習熟度に合わせて補講なども行い、きめ細かく対応していきます。また、在学中に2級建築施工管理技士（国家資格）など、建築関連資格の試験対策も行います。

卒業後に取得可能な資格

- 一級建築士(実務経験4年)
- 二級建築士(卒業と同時に受験可能)
- 木造建築士(卒業と同時に受験可能)
- 建築設備士(実務経験4年)
- 1級建築施工管理技士(実務経験5年)
- 1級管工事施工管理技士(実務経験5年)

在学中にめざす資格

- 色彩検定1級・2級・3級
- 福祉住環境コーディネーター1級・2級・3級
- oco検定
- 2級建築施工管理技士
  （学科試験のみ在学中に受験可能）
- 2級管工事施工管理技士
  （学科試験のみ在学中に受験可能）
- 建築積算士・建築積算士補
- 車両系建設機械運転技能講習
- 消防設備士(甲種)
  （建設に関する科目を15単位以上取得後）
- 第二種電気工事士
- インテリアコーディネーター

2年間の学びの流れと科目例

■ 共通科目（必修科目）
□ 発展科目（選択科目）

基礎をしっかり身につけた後、自分の興味に合わせてコースを選択。
なりたい自分に合わせて科目をカスタマイズできます。

1 年次

建築の基本・設計製図をマスター。基礎をしっかり学ぶ1年間。

共通科目（必修科目）		発展科目（選択科目）
■ 建築・インテリア概論	■ ITリテラシー	□ 建築・インテリアデザイン演習
■ 建築・インテリア計画	■ 建築製図演習	□ レンダリング演習 I
■ 建築計画 I	■ 建築設計演習 I	□ デジタルプレゼンテーション演習 I
■ 建築史 I/II	■ CAD演習	□ テクニカル製図演習
■ 構造力学 I/II	■ 建築施工実習	□ 資格試験対策
■ 建築構造 I/II	■ アッセンブリアワー(ASH)	・色彩検定
■ 建築施工 I	■ 軽井沢合宿研修	・ビジネス能力検定
■ 建築・インテリア基礎製図演習	■ 数学	・eco検定
		・福祉住環境コーディネーター

2 年次

3つのコースから選択。プロで通用する専門技術と知識を深く習得。

共通科目（必修科目）		発展科目（選択科目）
■ 建築計画 II	■ 建築材料	□ 都市計画
■ 環境工学	■ 建築施工 II	□ BIM演習 I/II
■ 建築設備 I/II	■ 建築積算	□ 資格試験対策
■ 建築法規 I/II	■ 防災計画	・色彩検定
■ 構造力学 III	■ インターンシップ	・ビジネス能力検定
■ 構造設計	■ アッセンブリアワー(ASH)	・eco検定
		・福祉住環境コーディネーター
		・2級建築施工管理技士
		・2級管工事施工管理技士

コース選択

BIMで施主の想いをカタチにできる創造力ある建築家に。

建築設計コース

■ 卒業制作 ■ 建築設計演習 II
□ スペースデザイン演習
□ デジタルプレゼンテーション演習 II

プロジェクトを完成へ導く、有能な現場監督をめざす。

施工管理コース

■ 卒業制作 ■ 施工図演習
□ 施工実習 □ 施工計画演習

建築設備の設計施工をトータルに行うエンジニアをめざす。

建築設備コース

■ 卒業制作
■ 給排水衛生設備演習
■ 空気調和設備演習
□ 電気設備演習 I/II

卒業

二級建築士試験受験資格

就職

[illegible]

- 建築設計事務所
- デザイン事務所
- 建築積算事務所
- 建築構造設計事務所
- [illegible]
- 建築設備設計事務所
- 不動産会社
- 住宅メーカー
- リフォーム会社
- ゼネコン(建設会社)
- 工務店
- [illegible]
- サブコン(建築関連メーカー)
- マンション企画開発会社

働きながら、「二級建築士対策講座」で二級建築士試験合格をめざすことができます。

進学

[illegible]

研究科で、二級建築士試験の確実な合格をめざします。

1次試験 7月　2次試験 9月

詳細はこちら

[illegible]

大学に通いながら、本校の二級建築士対策講座を受講できます。

時間割例

[1年前期 時間割例]

	1	2	3	4
[illegible]	建築・インテリア基礎製図演習			
[illegible]	建築構造 I	ASH	レンダリング演習 I	
[illegible]	CAD演習 I		建築・インテリアデザイン演習	
[illegible]	建築・インテリア概論	建築史 I	資格試験対策	
[illegible]	数学	構造力学 I	ベーシックデザイン演習 I	

その他の時間割はこちら

講師からのメッセージ

ゼロから、たった2年でプロになれるノウハウがあります。

平上 秀明 先生

建築業界で即戦力と認められるスキルや技術を、2年間で得られるのが本校の強みです。最先端の「BIM」による3次元設計から、時代が変わっても求められる「一本の線を引く」技術まで、プロとして通用するチカラを修得できます。「建築の勉強」のスタートラインは、全員同じ。ですから覚えることも、提出すべき課題も少なくはありませんが、私たち教員が全力でバックアップ！
誰でも必ずクリアできますので安心してください。自分の秘れた能力が引き出される喜びと、成長した自分に出逢える驚きを、ぜひ本校で味わってください。

知識を深める、腕を磨く、こんな授業

BIM演習

BIMへの入門として、ARCHICADの基本操作を修得します。また、課題に取り組み、実際に図面を作成することで、2次元CADとの違いやBIMによる設計の基本を理解します。

デジタルプレゼンテーション演習

自分の考えを他者にうまく伝えるということは、非常に重要であり、その機会は増える一方です。様々なシチュエーションで話ができるように、デジタルツールを利用しての話し方やスライドデザインなど、プレゼンテーションのスキルアップをはかります。

○日本建築専門学校

▪カリキュラム

▫専門科目

設計「Design」形を生む

創造の精神：与えられた情報を読み取り、整理し、一定条件の中で独創的な形を生み出す

科目例	内容
建築設計演習II (2年)	木造住宅の基本的な計画方法を学びます。木造建築物・RC造建築物の模写と設計を行いながら「図面を描く力」をつけます。2級建築士製図試験相当の建築物を設計します。
建築設計演習III (3年)	設計を通して、木造和風建築物全般を理解します。木造以外の建築物の設計も行いながら、「建築をつくる力」をつけます。1級建築士製図試験相当の建築物を設計します。
建築実習I (3年)	これまで学んだ知識を実際に生かすために、実施設計の演習等を通して、応用技術を身につけます。
建築CAD (3年)	コンピュータを建築設計に援用するための手法を実技を通して学びます。
建築実習II (4年)	建築物・工作物の設計・調査などを通して、応用技術の深化・発展をはかります。

工法[Construction] 形を造る

技の洗練：建築のしくみとつくり方を身体で覚え、洗練された技を身につける

科目例	内容
建築工法 (1年)	大工仕事をする中で必要となる、現寸図の描き方の基本を身につけます。併せて規矩術の基本を学びます。
工法演習I (1年)	大工仕事の基礎と技能を修得します。大工道具の扱い方・使い方を学びます。大工の第一歩である道具箱作りに始まり、木造の接合部(継手・仕口)等を演習を通じて学びます。製作を通じて「切る」「掘る」「削る」という作業を身につけます。
工法演習II (2年)	建築工法で現寸図を描きながら学んだものを、実際に製作し、技能を修得します。さらに2級技能士(建築大工)に求められる技能を身につけます。実際に土台隅部仕口・登り梁・ひよどり栓・柱立四方転び等を製作します。
工法演習III (3年)	工法演習IIで学んだことをふまえて、1級技能士(建築大工)に求められる技能を身につけます。実際に格天井組手・框出留仕口・棒隅木桁捻じ組・振垂木谷木・振隅木・多角形隅木等を製作します。
建築実習I (3年)	これまで学んだ知識を実際に生かすために、実物の工作物製作の演習等を通して、応用技術を身につけます。
建築実習II (4年)	建築物・工作物の製作・実験などを通して応用技術の深化・発展をはかります。

構造[Structure] 形を成す

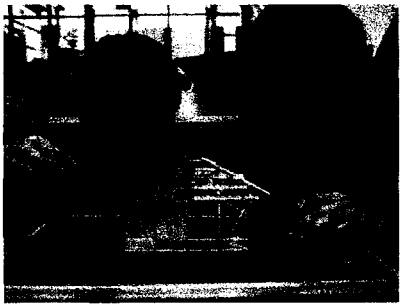
仕組の道理：建築の仕組みについての理論を実証・実験を通じて体得する

科目例	内容
建築一般構造I (1年)	軸組構法における、各部の名称と役割についての知識を得ながら、木質構造に対する基本的な考え方を身につけます。また、構造計画や耐震設計など、建築構造全般に関わる考え方の基礎固めを行います。
構造力学I (1年)	力学の基礎となる力の変形の概念・断面の性質・静定構造物の解法を学びます。

伝統[Tradition] 型を学ぶ

伝統の知恵：先人たちが培ってきた創意・工夫・文化の諸相を学び、明日へ継承発展させる

科目例	内容
伝統建築I (３年)	主に寺社建築の造形と技術の両面から日本の伝統建築の特質を解明します。
伝統建築II (４年)	書院造、数寄屋建築を学びます。
建築実習I (３年)	これまで学んだ知識を実際に生かすために、実施設計の演習等を通して、応用技術を身につけます。
建築実習II (４年)	建築物・工作物の設計・調査などを通して応用技術の深化・発展をはかります。



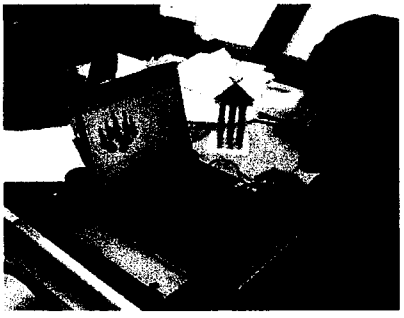
一般科目

素養Knowledge　一般教養

前提条件：「高い技術」を支えるのは、「幅広い知識」と「強い意志」
たくましい身体に豊かな教養を身につけ、将来の夢にチャレンジ

科目例	内容
情報処理 (３年)	Word・Excelに関する一般的な操作方法の修得を行い、データの加工・解析の技術を学びます。
茶道 (１年)	日本の伝統建築に多大な影響を及ぼした茶の湯の文化を、実習を通じて学びます。客としての心得に始まり、道具の扱い方、盆略点前等を学びます。

その他に、
基礎数学(１年)、体育I(１年)、経営基礎I(１年)、
体育II(２年)、英語(２年)、経営基礎II(２年)などがあります

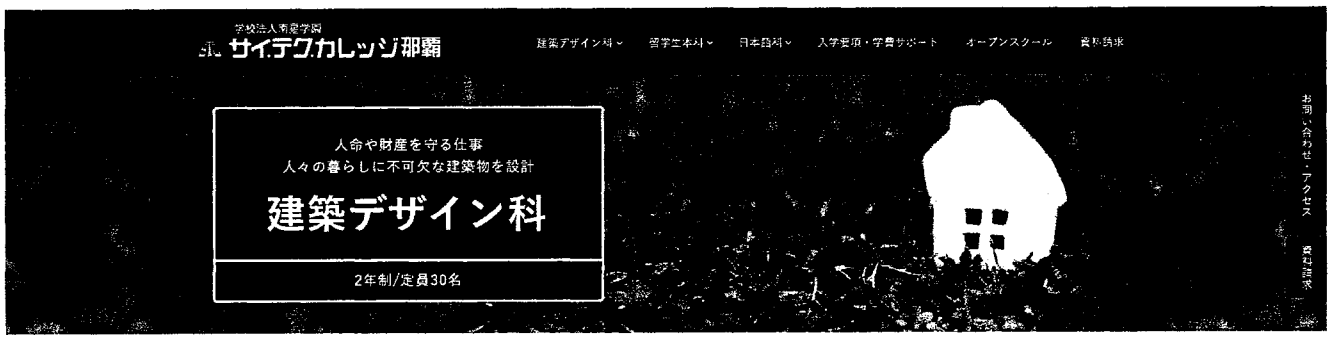


※全授業科目のシラバスはこちらをご覧下さい。

ホームへ

学校法人富嶽学園　日本建築専門学校
〒418-0103　静岡県富士宮市上井出2730番地の5
TEL 0544-54-1541　　FAX 0544-54-1405

○サイ・テク・カレッジ美浜



あらゆる場面で**必要とされる人材**です。

建築士・施工管理技士

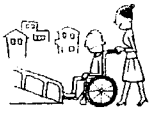
- 建物の設計、現場管理の建築設計事務所
- 建物を造る、建築施工会社
- 建物内・外部を考える店舗デザイン事務所
- 建物を企画・販売の不動産会社

公務員

公務員には、一般行政職と専門行政職があり、建築系を卒業すると専門行政職（施設課・建設部・建築課）に就けます。

- 国土交通省
- 警察
- 防衛省
- 消防
- 県及び各市町村

専門アドバイザー



高齢者、障がい者、子供、全ての人々が生活しやすい建物・環境を医療・福祉・建築の知識及び経験から提案するプロ。

- 病院
- 生活相談員
- 福祉施設
- ホームセンター等

お問い合わせ・アクセス

資料請求

＼ 資格を取得して、憧れの職種に就こう！ ／

目指す資格

- ■ 1級建築士（実務経験なし※2020年より）
- ■ 2級・木造建築士（実務経験なし）
- ■ 建築施工管理技士
- ■ 管工事施工管理技士
- ■ 福祉住環境コーディネーター
- ■ 建築CAD検定
- ■ 車両系建設機械
- ■ インテリアコーディネーター
- ■ 建築積算士補
- ■ Word・Excel技能検定

就職先一覧 ›

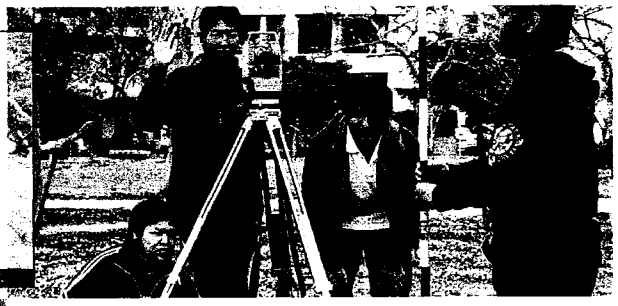
押さえておこう！

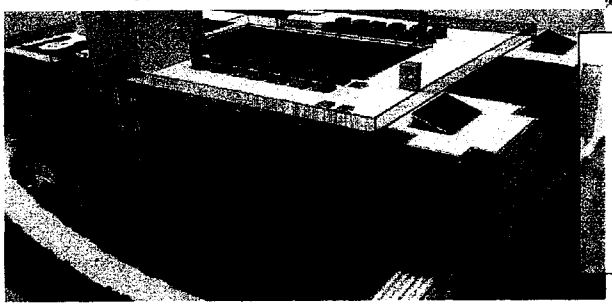
建築デザイン科のポイント

POINT 1 建築士試験受験可能。最短で建築士

本校卒業後、実務経験４年で１級建築士試験受験資格が認められています（大学卒業生と同年数で受験可能）。実務経験免除の２級建築士は、卒業後すぐにでも取得可能。最短で20歳で2級建築士も夢じゃない！本校卒業後の建築士試験対策は万全の体制で合格をバックアップします。

建築士法改正により、2020年度から一級建築士の受験にともなう実務経験の条件が撤廃されます。





POINT 2 プロも認める建築模型製作実習

子供からお年寄りまで見てわかる建築模型。造形製作学習を通して、設計図面の理解力や表現力を学びます。

POINT 3 「仕事ができる」実践型人材育成

経験豊富な講師陣が建築知識の基礎・技術を、講義・現場見学・実験・造形（模型）製作・パソコンでのCAD技術等をカリキュラムに加え教えます。

お問い合わせ・アクセス
資料請求

素人から専門士(プロ)へ

仕事を想定した実践講義

1年次 建築基礎学習
建築専門用語・建築物の種類・建築設計図作成基礎・建築模型製作・CAD基礎を学ぶ

2年次 建築実践学習
実際に仕事を依頼されたと想定し、設計・施工・製作と実践的に学ぶ

建築士とは？

建築士は「建築士法」に定められた資格をもって、建物の設計・施工・監理を行う建物のプロフェッショナルです。
その為、建築知識・技術・指導力が求められる建築の専門家です。

お問い合わせ・アクセス
資料請求

知っておきたい！

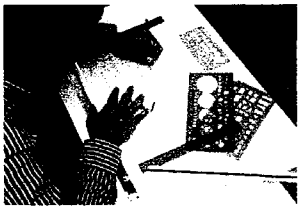
主なカリキュラム

建築計画

建物を造る為に、一番大事な各部屋の配置や人間の動作、物の大きさ等を学ぶ。

建築施工

建物を造る方法や使用設備・建設車両など準備対策及び安全対策を学ぶ。

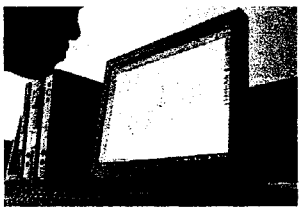


建築製図

建築設計図の描き方や読み方、表現方法を習得します。

建築造形（模型）

模型製作を通して、建築物の表現や建築材料等の工夫を学ぶ。

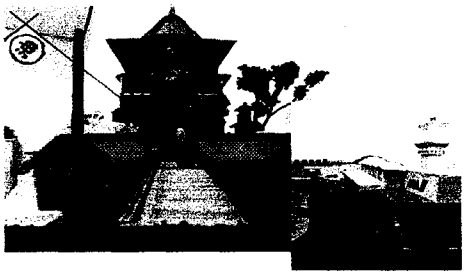


建築CAD

コンピュータを使用し、設計図や立体表現の描き方を学ぶ。

福祉住環境

高齢者・障がい者、全ての人々に使いやすい建築物・環境造りの知識を学ぶ。



StudenT works

建築デザイン科では、造形「建築模型製作」を学びます。
図面で理解できない部分を建築模型を作ることで、格段に理解しやすくなります。
企画から製図、模型製作までをひとりでおこない「建築設計作品展」でその成果を発表しています。

Student Works

さらに上を目指す！

大学３年次編入

サイ・テク・カレッジ那覇を卒業すると、編入試験の受験資格が与えられるのをご存知ですか？これまでに琉球大学をはじめ、沖縄県内外の私立大学へ多くの学生を送り出しています。

大学編入

宮城 一彩さん［那覇高等学校出身］

平成30年度3年次 編入合格

建築デザイン科卒

琉球大学工学部
工学科建築学コース
3年次 編入

安全･安心･快適そして美しいデザイン

僕が目指す建築は安全・安心・快適そして美しいデザインです。これらを具現化するためにも、さらなる学びの場へ進む必要があると考え、大学編入を決意しました。学校の授業とは別に、編入試験の勉強は大変でしたが、先生方のアドバイスや励ましもあり合格することができました。

野崎 真守さん
［私立青藍高等学校 ILC沖縄］

建築デザイン科１年

■将来の夢
自分が設計した物が形になる事です。

■サイ・テク那覇を選んだ理由
就職の際のサポートが厚く感じたから。

未来にGO!!サイテクでGO!!

MY DREAM

建築デザイン科に入学した理由や建築デザイン科で1年間在籍して感じたことや将来の夢など、在校生の生の声を集めました。建築デザイン科への入学を検討している方のためのページです。

Student's Voice

○大阪建設専門学校

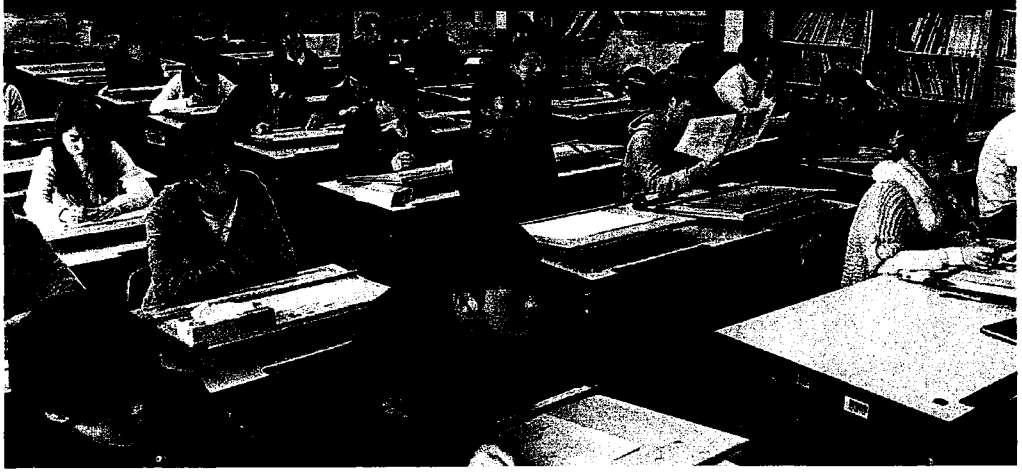
企業採用ご担当者様へ　学校の先生方へ　卒業生の方へ　西沢学園TOP

学校法人 西沢学園
大阪建設専門学校

サイト内検索　お問い合わせ
0120-98-2438　キャンパスアクセス

学校紹介　学科紹介　資格と就職　入学のご案内　よくあるご質問

建築学科

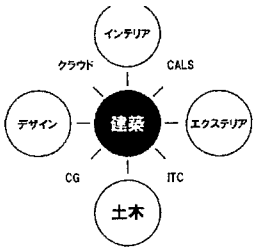


建築設計コンクール入賞者続々！
２０１９年3月卒業者の業界就職率100%

1　建築・土木・インテリア・エクステリアは、トータルに学んでこそ価値がある!

■建築を中心とした「ものづくり統合カリキュラム」

都市において綿密に計算され、整備されたインフラ。目的に応じてプランニングされた多種多様な建築物。利用する人々に配慮されたインテリア。彩るエクステリア。皆さんが都市で目にするその全ては、繋がっています。教育においてもこの繋がりこそが最も重要であるとの考えから本校のカリキュラムは構築されています。



2　芸術と工学が統合された抜群の教育システム

■CAD「JwCAD」「AutoCAD」

JwCADからAutoCADまで各種CADソフトのオペレーション技術を身につけます。意匠・構造・設備の各種詳細図面が描けるようになります。

■建築模型

プランニング時の形態や構造、機能の把握から、詳細なプレゼン模型の製作まで学べます。

■平行定規

建築士の試験対策だけでなく、豊かな造形力を育む目的で、手描きの設計製図も徹底しておこないます。

4 卒業時に一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験資格がもらえる

- 一級建築士
- 二級建築士
- 1級建築施工管理技士
- 2級建築施工管理技士

■校内で有利に取得可能な検定試験

建築CAD検定

CADソフトを使いこなし建築図面を描く専門家です。

AutoCADオペレータ技能認定

AutoCADを使いこなす設計の専門家です。

■カリキュラム対応で取得に有利な検定試験

インテリアコーディネーター

インテリア計画や商品選択のアドバイスをおこなう専門家です。

福祉住環境コーディネーター

高齢者や障害者が住みやすい住環境を提案するアドバイザーです。

カラーコーディネーター

実践的な色彩の知識を身につけた専門家です。

CAD利用技術者

CADを利用する技術を持った専門家です。

国家資格が取得できる！

電気通信の「工事担任者DD第三種」

端末設備の接続及び配線工事を行い、または監督することができる技術者です。

求められる資格

昼間2年制

建築学科Ⅱ

徹底して建築・土木・インテリア・エクステリアを学ぶ2年間

1学年	基礎課程（ものづくりノウハウ）	2学年	応用課程（実践から基礎・技術を修得）

夜間2年制

建築学科

日中は大学や仕事をしながら過ごし、限られた時間で学ぶ2年間

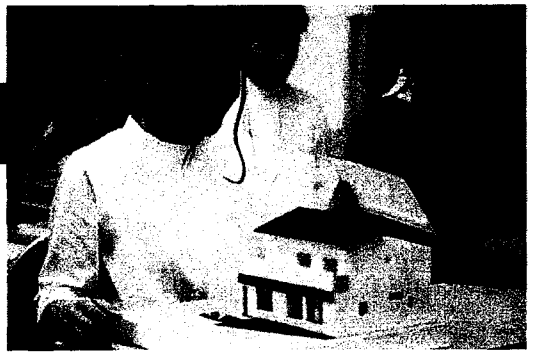
1学年	基礎課程（ものづくりノウハウ）	2学年	応用課程（実践から基礎・技術を修得）

昼間1年制

建築学科Ⅰ

短期間で建築基礎とCADオペレーション技術を磨く1年間

1学年	基礎課程（ものづくりノウハウ）



調査２－２

専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査

2－2－i　調査概要

（1）名　称：

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する
専門学校の建築学科に在籍している学生対象調査

（2）実施期間：

令和２年１月１４日～令和２年２月４日

（3）目　的：

まちづくりファシリテーター養成講座について建築系の専門学校の学生にアンケート調査を行いそのニーズがあるかを明確にする。同時にそこに求められる必要な知識・スキルについて対象学生の意識を明らかにする。

（4）方　法：

建築士受験資格要件取得が可能な教育機関として認定を取っている専門学校で来年度実証講座を実施することを予定している専門学校３校の学生に対してアンケート調査を行いその結果をもとに分析、考察まとめを行う。

（5）母集団と標本サイズ

次年度実証講座を予定している協力教育校の学生

・首都圏	日本工学院専門学校	４６名
・地方中核都市	麻生建築＆デザイン専門学校（博多）	１０９名
・地方都市型	新潟工科専門学校（新潟市）	９４名
		計２４９名

（6）分析

アンケートの回答を元に単純集計により分析を行う

分析項目：・学校名　・性別　・在籍過程（何年制か？）
・学年　・希望進路
・受講希望　・受講希望理由
・必要な知識・スキル・力
・興味のある講義内容

※別添資料　建築系専門学校在籍　学生を対象とした
「まちづくりファシリテーター養成講座」に関するアンケート調査　参照

資　料

建築系専門学校在籍　学生を対象とした

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関するアンケート調査

2020年1月吉日

一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構（JCAABE）は、良質な建築、美しい街づくりを目的に設立され、資格や教育活動、行政支援を行っております。この度、文部科学省受託事業「まちづくりファシリテーター養成講座」を専修学校を対象に実施すべく、事業をスタートさせました。まちづくりファシリテーターは、住民の声をまとめたり、行政や専門家と共に、まちづくり活動をスムーズに進める役割を担っています。これには、まちづくりの知識やコミュニケーション技能が必要であり、そのような人材を育てる講座を目指しています。つきましては、よりよい事業にすべく、下記のアンケートに、ご協力よろしくお願い致します。

□まずはあなた自身についておこたえください。

(1) 学校はどちらですか？

1. 日本工学院専門学校　　2. 麻生建築&デザイン専門学校　　3. 新潟工科専門学校

4. その他

（　　）

(2) 性別を教えてください。

1. 男性　　2. 女性

(3) 通われているのは何年制コースですか？

1. 2年制　　2. 3年制　　3. 4年制

4. その他（　　）

(4) いま何年生ですか？

1. 1年生　　2. 2年生　　3. 3年生　　4. 4年生

4. その他（　　）

(5) 将来志望している進路

1. 設計　2. 施工管理　3. 役所　4. 不動産　5営業　6メーカー　7施設管理　8、進学

9、その他（　　）

□まちづくりファシリテーター養成講座があなたの学校で行われたとしておこたえください。

(6) 受講してみたいと思いますか？

1. 是非受講したい　2. 受講してみたい　3. 普通　4. あまり受講したくない　5. 受講したくない

※上記質問において１もしくは２を選択した方のみ、おこたえください。

(7) 受講してみたいと思う理由は何ですか？

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1、将来に役立ちそうだから　2、まちづくりに興味があるから　3、資格がとりたいから

4、楽しそうだから　5、人と人をつなぐことに興味があるから

6、その他、自由にお書きください。

（　　）

(8) まちづくりファシリテーターに必要だと思う知識や力は何だと思いますか？

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. 建築設計力　2. コミュニケーション力　3. 法律に関する知識・力

4. 不動産に関する知識・力　5. ビジネス・マネジメントに関する知識・力

6. チームワーク力　7. 都市に関する知識・力　8. 保存・修復に関する知識・力

9. 防災に関する知識・力　10. エネルギーに関する知識・力　11. 実践力

12. その他、自由にお書きください。

（　　）

(9) 興味のある講義は次のうちどれですか？

複数ある場合はいくつでもおこたえください。

1. 都市計画について　2. 合意形成のための知識（まちづくりについて）

3. 合意形成のための手法（実践：ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ等）　4. まちづくりのルール

5. 建築設計における利用者のかかわり　6. リノベーション（改修）

7. 耐震化・不燃化　8. 保存修復について

9. ビジネス・マネジメントについて　10. 不動産

11. 空き家について　12. 事例見学　13. まちづくりの実践

14. その他、自由にお書きください。

（　　）

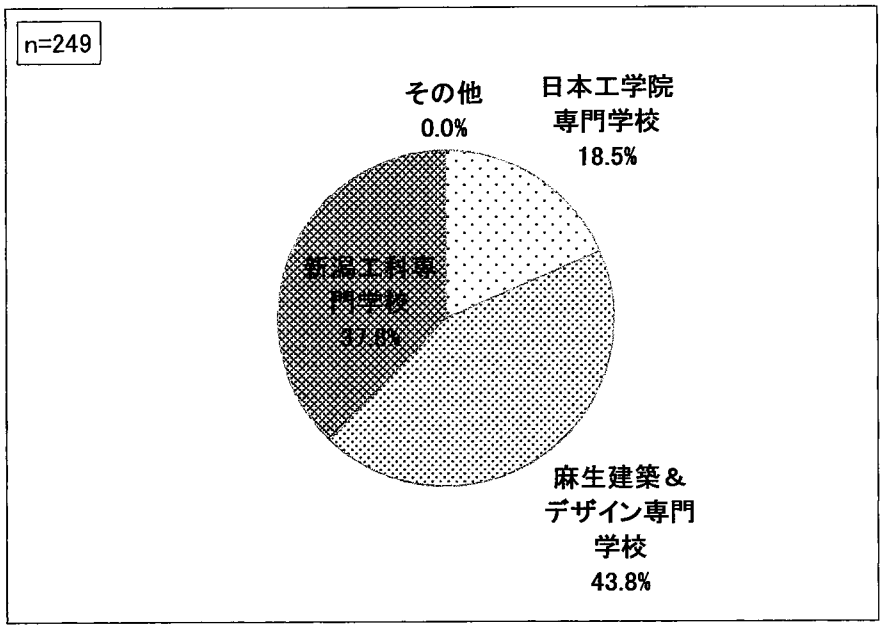
ご協力、ありがとうございました。

2－2－ii アンケート結果

本調査の基礎的事項としてアンケート回答者の属性について質問を行った結果を示す。

① 学校名

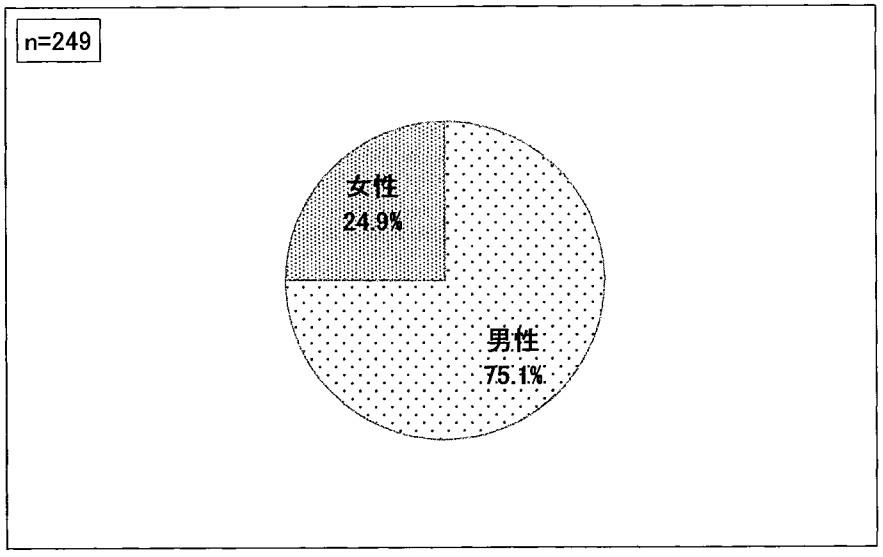
Q1 学校はどちらですか？



回答学生の在籍する学校は、麻生建築＆デザイン専門学校が４３．８％、新潟工科専門学校が３７．８％、日本工学院専門学校が１８．５％である。

② 性別

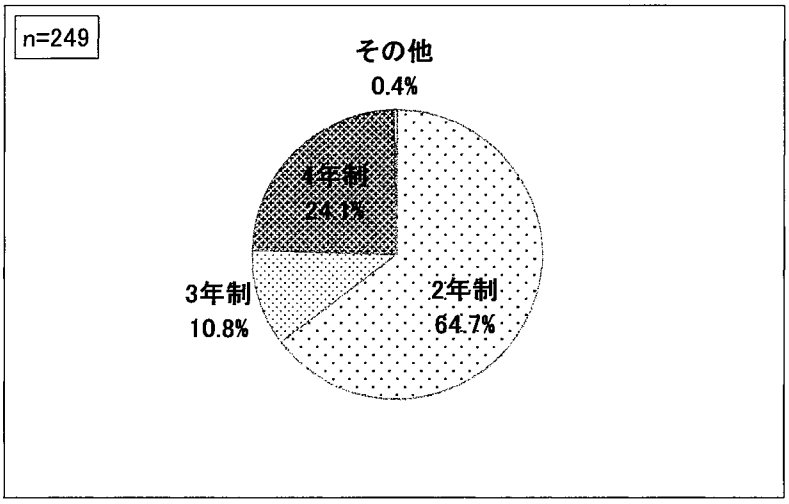
Q2 性別を教えてください。



回答学生の性別は男性が７５．１％、女性が２４．９％の割合である。

③ 在籍課程

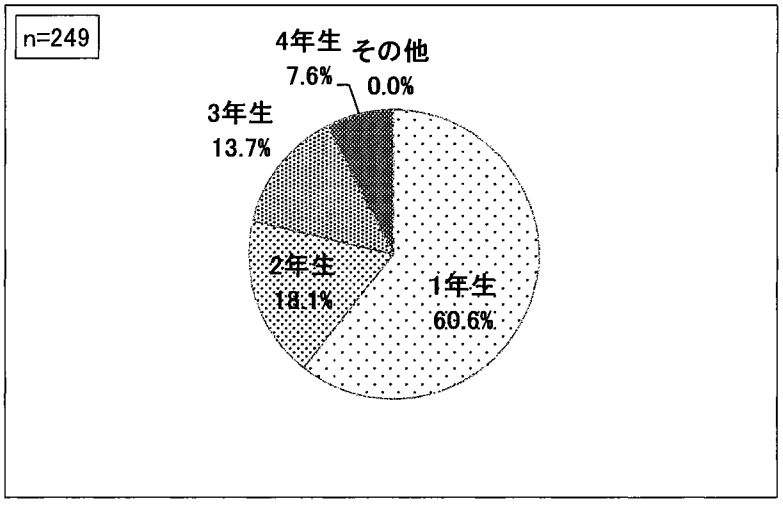
Q３ 通われているのは何年制コースですか？



回答学生の在籍する課程（修業年限）について左記のグラフに示す。２年制の学生が最も多く６４．７％となっている。ついで４年制に在籍する学生が２４．１％、ついで３年制に在籍する学生が１０．８％となっている。

④ 学年

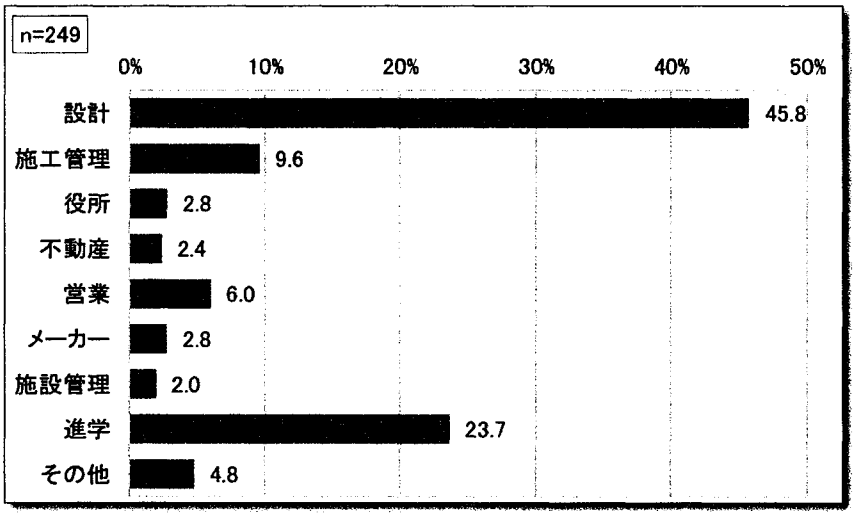
Q４ いま何年生ですか？



回答学生は１年生が最も多く６０．６％、ついで２年生１８．１％、３年生１３．７％、４年生７．８％となっている。

⑤ 希望進路

Q５ 将来志望している進路



回答学生の志望する進路は設計が最も多く４５．８％、ついで進学が２３．７％、施工管理が９．６％、営業が６．０％となっている。

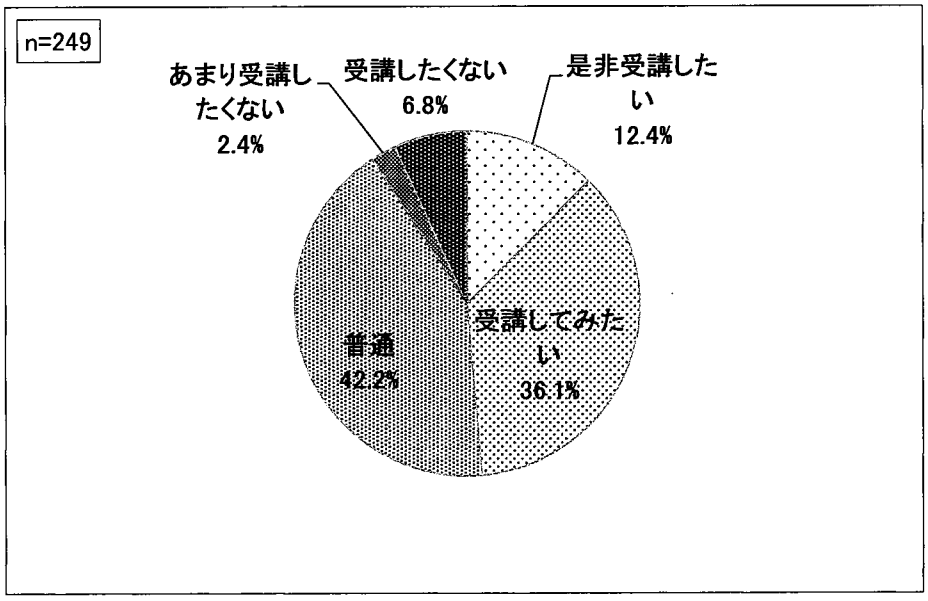
まちづくりファシリテーター養成講座に関する質問について以下に結果を示す。

⑥ 受講希望

Q6 受講してみたいと思いますか？

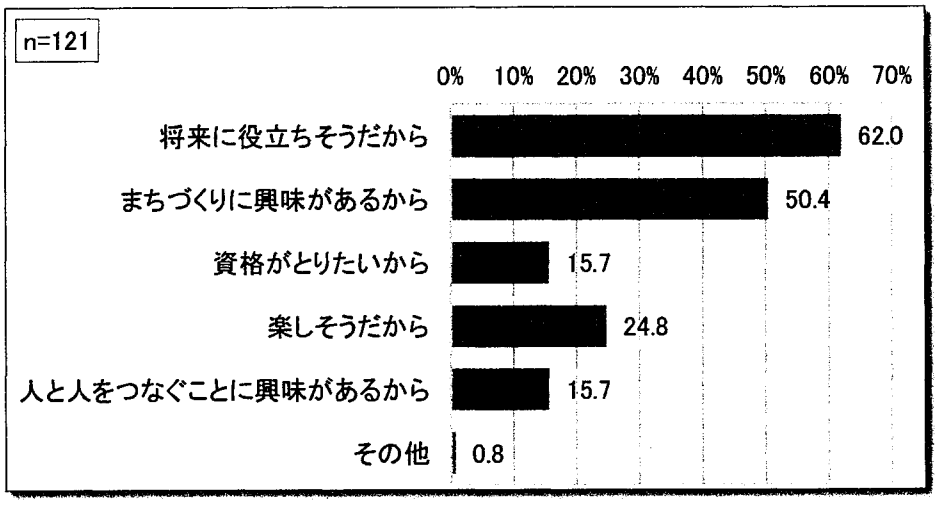
受講してみたいか？という質問に対して「普通」と回答した学生が最も多く４２．２％、ついで「受講してみたい」３６．１％、「ぜひ受講したい」１２．４％となっている。

「ぜひ受講してみたい」「受講してみたい」と回答した学生（受講希望層）は合計すると４８．５％となり約半数の学生が受講を希望していることがわかる。一方で「受講したくない」「あまり受講したくない」という学生（受講躊躇層）は９．２％と１割に満たない値を示している。



⑦ 受講希望理由（複数回答可）

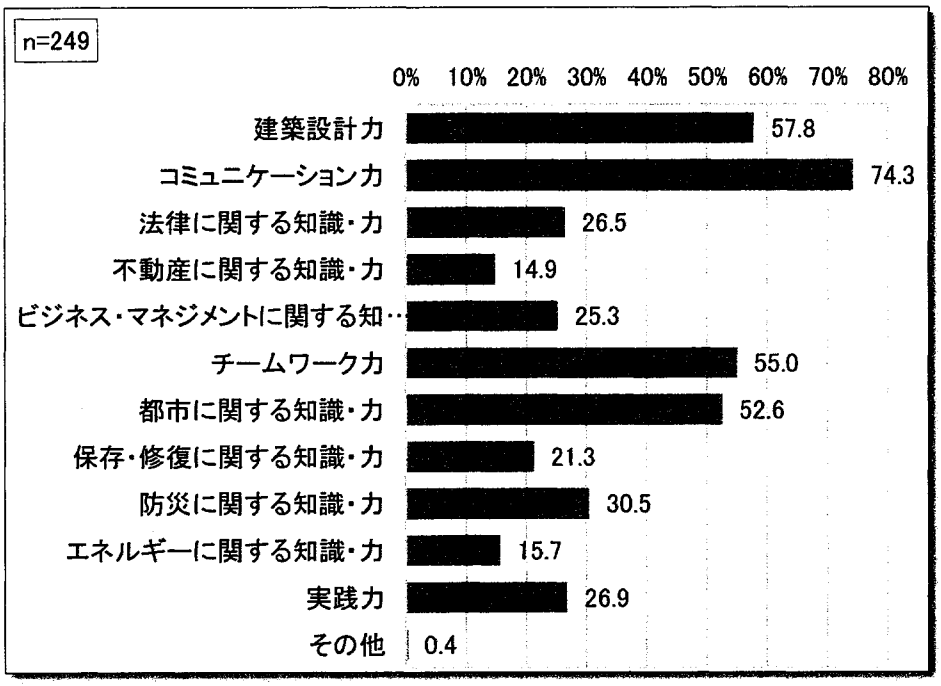
Q7 受講してみたいと思う理由は何ですか？



受講希望層に聞いた受講希望理由について「将来役立ちそうだから」という回答が６２．０％と最も高く、ついで「まちづくりに興味があるから」が５０．４％、「楽しそうだから」が２４．８％、「資格が取りたいから」「人と人をつなぐことに興味がある」が１５．７％となっている。

⑧ 必要な知識・スキル・力（複数回答可）

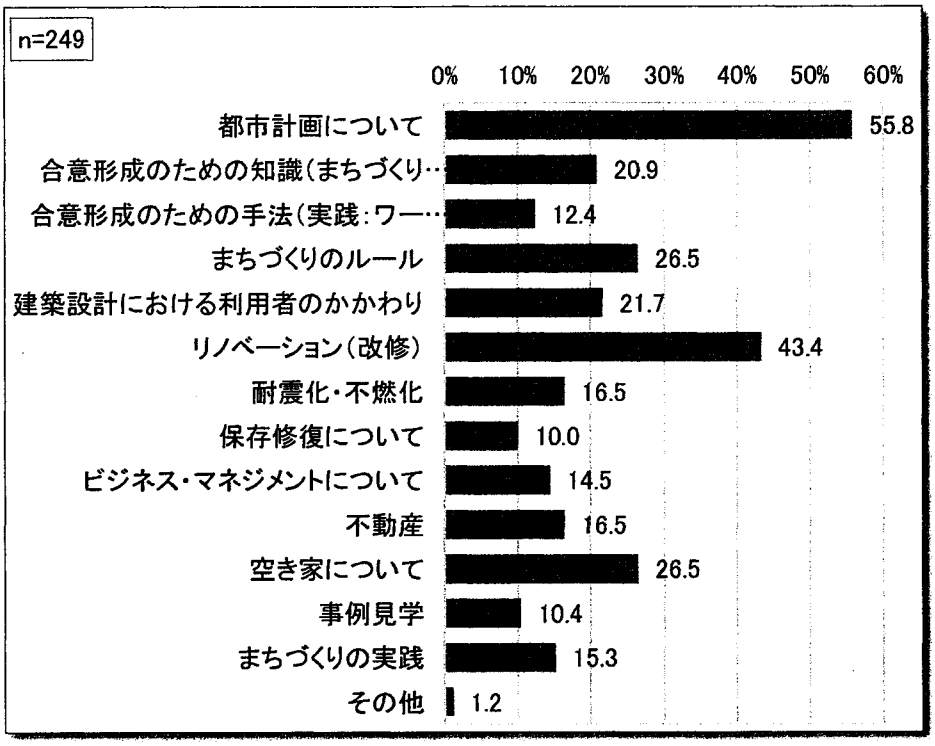
Q8 まちづくりファシリテーターに必要だと思う知識や力は何だと思いますか？



必要だと考える知識・スキル・力としては「コミュニケーション力」が最も高く７４．３％、ついで「建築設計力」５７．８％、「チームワーク力」５５．０％「都市に関する知識・力」５２．６％、「防災に関する知識・力」３０．５％、「実践力」２６．９％、「法律に関する知識・力」２６．５％となっている。

⑨ 興味のある講義内容

Q9 興味のある講義は次のうちどれですか？



興味のある講義については「都市計画について」が最も高く５５．８％、ついで「リノベーション（改修）」４３．４％、「まちづくりのルール」「空き家について」が２６．５％、「利用者の関わり」２１．７％、「合意形成のための知識」が２０．９％となっている。実践につながる項目である「合意形成のための手法（実践）」１２．４％「事例見学」１０．４％、「まちづくり実践」１５．３％とそれぞれ１０％から１５％の数値にとどまっている。

2－2－iii　考察・まとめ

まちづくりファシリテーター養成講座に関する学生アンケートの結果から考察・まとめを行ったものを以下に示す。

○今回、調査を行なった建築系専門学校に在籍している学生の約半数がまちづくりファシリテーター養成講座を受講したいと考えている。受講したくないと考えている学生は1割程度である。このことから今回の事業の対象となる専門学校学生にとってこの講座のニーズはあると考えられる。

○一方、どちらとも判断できない学生も４割を超えている、これはまちづくりファシリテーターが新しいものであり、どの様なものかその人材像がつかめていないことがその理由として考えられる。対象となる学生たちにわかりやすい形でこの人材像を伝えることが今後、必要であると考えられる。

○受講したい理由としては将来役に立つという理由とまちづくりに興味があるという理由に回答する学生が多く、彼らなりにまちづくりファシリテーターに興味があり、その社会における必要性を感じ取っている結果ではないかと推察できる。

○必要な知識・スキルについてはコミュニケーション力をあげている学生が多く、彼らにとってもコミュニケーション能力の必要性を捉えていると推察できる。

○一方、興味において、実践に関連する内容をあげている学生は多くはない。コミュニケーション力の育成には実践は欠かせない内容と考えられるがそこに繋がりを捉えていないことが理解できる。これまでの教育の中で反転授業やロールプレイングなど目的を持った実践の経験がなかったことがうかがえる。コミュニケーション能力を育成するための授業方法の充実やガイダンの工夫などを考える必要があると考える。

○必要な知識・スキル、興味のある内容ともに法律から不動産、防災に至るまで、幅広い分野に渡り満遍なく必要性があると応えている。一方で必要と考えている人数は２０％程度である。この理由として、まちづくりファシリテーターについての理解が十分でないことが推察される。まちづくりファシリテーターの知識・スキルの幅広さと人材像について講習を行う際にはガイダンスなどを行い十分な説明をする必要があると考える。

（以上）

調査　2－3

行政・企業対象調査

2－3－① 行政対象ヒアリング調査

2－3－①－ｉ　調査概要

(1)名　称：「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する
行政に対するヒアリング調査

(2)日　時：
行政ヒアリング調査：令和元年１２月２７日（金）～令和２年２月１８日（火）

(3) 目 的：
まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる行政にヒアリングを通して明らかにする。 同時に、そこで必要とされる人材の質、要件、今後の連携の可能性について調査を行う。また今後の教育での実践授業での連携の可能性。また、将来的な協力の可能性について幅広く意見を聞き、明らかにする。

(4)方 法：
まちづくりに関連している行政に質問内容を決めて行う半構造化インタビューを実施。その必要性、必要とされる人材像、必要とされる条件、知識、スキルなどを明らかにする。同時にすでに行われている講座があればその内容、実施状況、スキル標準など調査を行う。

(5)母集団と標本サイズ
行政ヒアリング
東京都大田区役所防災まちづくり課、都市計画課
新潟県庁土木都市局広域都市政策班
福岡市役所住宅都市局地域まちづくり推進部

(6) 分析
インタビュー内容をそれぞれ議事録形式でまとめ。その上でまとめ、考察を行う。
また資料として行政から提供していただいた資料なども参考資料として活用し、考察とまとめを行った。

2－3－①　行政対象ヒアリング調査

2－3－①－ii　結果　行政ヒアリング議事録

□調査記録 20191227

調査３　行政・企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■**項目**：調査３　行政へのヒアリンング調査　**大田区役所**

■**日時**：令和元年１２月２７日（木）

■**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる行政にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■**場所**：東京都大田区役所本庁舎　都市計画課

■**参加者**

（調査先）	東京都大田区役所　防災まちづくり課	瀬戸　隆司	課長
	東京都大田区役所　まちづくり推進部都市開発課	大木　康宏	課長
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連　健夫	
	日本工学院専門学校	松村　哲志	

■**内容**（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。）
行政に在籍する個人的な意見としてお話し頂きました。

①社会、行政からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・少しでも意図したことが学べるのであれば必要だと思う。
・合意形成に強い人材は建築職にはあまりいない。そういった意味でも必要性はある。
・ここで考えていることは実践している私たちでもなかなか難しいと日々感じるくらい難しい内容。実戦では一筋縄にいかない部分がある。その難しさとのギャップも教え、実戦に入ったときに驚かないような仕掛けもした上でイントロダクションを行う講座であれば意味のある事業であると考える。

②必要とされるスキル・知識とその習得方法に対する意見

・合意形成などができる人を育てられるかどうか？これまでにないものであるのでそこは重要なポイントである。
・例えば、まちづくり経験がある行政職員がロールプレイング方式で発表、合意形成などの模擬実践を行うなどの可能性はあると思う。また、協力できる可能性もある。
・聴く力が大切でありが同時に聞いた上で伝える力も大切である。プレゼンテーション能力が大切である。
・知識について、基本は広く薄く。資金計画、税金など。
・ファシリテーターとしてはあえて言わないことも大切。住民自身が作り上げている感覚を思わせる力は大切である。
・正直向き不向きはある。人とコミュニケーションが取れるか？がポイントである。
・一般常識は最低限必要である。

・上から目線。こうやったらダメであるという人は難しい。

③講座修了者を貴行政で採用したいか？

・資格と人物像の関係性が見えてこないとどちらとも言えない。
　→人物なども大きい部分である。

・意識を植え付けることに重きをおいているのであれば意味があり、大きなインセンティブとなる。まちづくりには合意形成があること。様々な意見があること。それを仕事の場にきてびっくりするのではなく事前にわかっていただくと良いと思う。

④現在行なっている研修・OJT について

・正直、現場に放り込むしかない。肌で感じることが何よりも大切だと思う。

・OJT については４人から３人くらいの人数で先輩職員とセットで行い、世代間で教えあうことを理想と考えている。

・他の現場を見ることもある。他の地域、区の事例を見にいって学ぶこともある。

・正直まちづくりには正解がないのでその都度に反省会をしている。それをフィードバックしている。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など

・OJT なので特になし

⑥今後に向けて

・再開発プランナーとの違いは何かなど、国土交通省を含めた国との連携、一般への周知など社会的な土台作りが必要だと思う。

・すごく意義の多いことだと思うので、縦割り行政などの現状により小さなものになってしまわないための制度づくり、社会の体制づくりを行ったほうが良いと感じた。

・この事業の中で継続性をどう担保するか？まちづくりは続いていく。継続してどう行なっていくか？毎年の積み上げをどう行うかを考えていかなければならないと思う。
　→学校の本気度と講座の継続性、先生だけでも同じ方が関わることが重要。

・学校としての本気度。教員ごとによって変わってしまうのではなく、それによって本気で取り組めるのであれば意義のあることであると考える。

・こういう人材が助手的な立場で関わってくれるのは嬉しい。しかしどういう立場で関わるのかなど実際には課題もあると思う。→守秘義務、Fee や立場の問題。

・インターシップなどの可能性はあるかもしれない。

・地域と教育実践をつなぐことを行政としては行える。マッチングすることが大切。

■入手資料（特になし）

太田区役所都市計画課にてヒヤリング

□調査記録 20200128

調査３　行政へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■**項目**：調査３　行政へのヒアリンング調査　**新潟県庁**

■**日時**：令和２年１月28日（火）

■**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる行政にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■**場所**：　新潟県庁土木都市局　都市政策課

■**参加者**

（調査先）新潟県土木都市局都市政策課　広域都市政策班　政策企画員　伊藤　慎一
新潟県土木都市局都市政策課　広域都市政策班　政策企画員　鈴木　晃浩
新潟県土木都市局都市政策課（名刺交換できず）　佐藤

（調査委員）新潟工科専門学校　仁多見　透
日本工学院専門学校　松村　哲志

■**内容**（松村より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。回答についてはあくまでも県庁職員として、個人の見解であることを話された。）

①社会、行政からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。
・学校を出た後、現場レベルではどの部署においてもまちづくりの目線があることは大切である。
・本部署は県の行政組織であるので直接、住民が参加するまちづくりの現場に参加することは稀である。しかし、市や区の行政職員が様々な相談をする窓口として、また、それらを反映して政策決定する際にそういった目線は重要であると考える。
・まちづくりを専門に行う進路以外の職業につく方々においても、まちづくりの意識を持っていることは意義があると思う。

②必要とされるスキル・知識

・まちづくりを行うという意識づけが大切であると思われる。
・住民と行政の両方の立場がわかる方がいてくれると大変に助かる。これからは対立構造ではなく、一緒にまちづくりをしてくことが求められる。その際に住民の立場もわかり、行政の立場もわかり、その上でまとめていける人材は行政と組むパートナーとしても嬉しい。
・ファシリテーションの知識スキルと経験。ワールドカフェやKJ法などの知識。
・事例やまちづくりの実践例などを見ることは最も効果があると思う。

③講座修了者を貴行政で採用したいか？

・行政職員として役立つとは思うがそこまで積極的にイエスと言えない。しかし、こうい

った目線を持ってくれていると嬉しいと思うという感じ。
・その理由として一つには直接、まちづくりにおいて対応を行う部署ではないこと。
・一方で、極端にこの内容にドップリという人材でも難しい気がする。極端は厳しいというか。そういった意味でこうした講座を経験してくれていると嬉しいという感じである。

④現在行なっている研修・OJT について
・一般的な研修は入庁時の研修、役職研修など階層別の研修は行っているがそれは人事が行う一般的なものである。
・その他、基本的には OJT で行われている。県庁では 2 年から 4 年で移動があり、現在も様々な部署を経て集まっている。その現場の中で実践を通して少しずつ学んでいる。
・その他に年一回講演会形式の研修がある。そこでは外部講師を招き、他のまちづくり事例を見たり、内部での施工事例を見たりする機会がある。（テーマは様々で年ごとに決定）
・さらに県民参加型のファシリテーションを学ぶ研修が開催されており、そこに参加したり、民間企業の講習会などに参加するケースはあるがどれも自由参加で個人の研鑽として実施している。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など
・OJT 中心であるため、特になし

⑥今後に向けて
・県庁は直接まちづくりや住民などと触れ合う部署でないことが多いのでそういった意味で新潟市や区行政職員などとの連携も模索してはどうか。
・一方で NPO など民間のまちづくりに関わっている方がいるのでそういったところとの連携やその方々を巻き込むなどは非常に有意義なことになる可能性があると思う。
　代表的な新潟でのまちづくり NPO
　　NPO 法人　まちづくり学校　　http://www.machikou.com

■入手資料
特になし

新潟県庁土木都市局都市政策課にてヒアリング

□調査記録 20200219

調査３　行政へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■**項目**：調査３　行政へのヒアリンング調査　**福岡市役所**

■**日時**：令和２年２月18日（火）

■**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる行政にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■**場所**：福岡市役所　本庁舎　４階　福岡市住宅都市局　地域まちづくり推進部

■**参加者**

調査先	（調査先）　福岡市住宅都市局地域まちづくり推進部　地域計画係長	中村	充伸
調査委員	（調査委員）麻生建築＆デザイン専門学校　校長代行	今泉	清太
	麻生建築＆デザイン専門学校	古賀	俊光
	日本工学院専門学校	松村	哲志

■ 内容（松村より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。回答についてはあくまでも個人的見解であることを話された。）

①社会、行政からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・まちづくり・地域づくりについて、その必要性は高まっており、福岡市もそういった意味で当部所もある。その観点からも行政職員はもちろんのこと、一般企業の方々など含めて、この講座で養成しようとしているような人材は重要であると考えている。

・福岡市では住民主導のまちづくり支援する制度がある。その中の一つにまちづくりのアドバイザーの派遣に対して補助金を出す制度があります。認定まちづくり適正建築士も含めて、その人材として活躍してくださる可能性がある。

・上記のようなスペシャリストだけでなく、そのほかでも、例えば助手レベルや一般的な職員としての必要性ももちろんあると思う。

②必要とされるスキル・知識

・地域には多様な人がいることを理解していることが重要である。

・都市計画や条例などの制度の理解

・税金や不動産、ビジネスに対する知識など一般の住民に直接的なメリットを提示できる必要があると考える。

③講座修了者を貴行政で採用したいか？

・採用したいと思う。

・一方で現在の福岡市役所は多様な人材が集まっている。その他の分野の経験も重要である。

④現在行なっている研修・OJT について

・一般的な職員研修は実施する専用の部署があり、そこで行っている。
・上記に近い内容としては OJT を中心に行っている。
・OJT といってもいきなり現場に放り出すということではなく、経験者とともにチームを組み、各事例に取り組むことで経験を積んで行くことで学んでいる。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など
・OJT 中心であるため、特になし

⑥今後に向けて
・助手的な立場での連携、ご紹介なども可能性はあると思う。
・学校が授業や実践などで取り組む場合にも地域を絞っていただき、ご提案いただければ地域とつなぐことは可能である。
・先ほども出ましたが地域づくり、まちづくりに対して福岡市が認定し補助金を出す制度がある。この中で専門家派遣など幅広く人材が必要である。そういった意味での連携などぜひ模索していけたらと思っている。
・まちづくりの専門家についてどういった分野に向いているか？などそこを示す指標が今はない現状がある。地域に紹介する際にそういったことがわかるものになっていると嬉しい。地域の人が選べることも重要かもしれない。
・公的な資格制度や人材派遣制度など様々なものが様々な行政、例えば国土交通省や総務省などそれぞれであり、それらとどうやってリンクしていくのかは重要である。

■入手資料
特になし

福岡市住宅都市局　地域まちづくり推進部にてヒアリング

２－３－①－iii　考察・まとめ

まちづくりファイシリテーター養成講座に関する行政ヒアリングの記録に基づき、社会ニーズ、必要とされる知識・スキルなど、その養成に関する現状と留意点・方法、さらに今後の連携の可能性などについてまとめを行ったものを以下に示す。

○社会的にも行政にとっても必要性がある人材であり、講座である。
○一方でその必要性の強さはその地域の現状、どこまで直接的にまちづくりを行う部署かということによって異なっている。
○必要な知識・スキルについて「多様な人たちの話を聞くことのできるコミュニケーション力」を最も大切である。
○その育成には実践が最も重要である。行政職員の育成においても OJT が用いられており、先輩職員とチームを組んで実践に取り組んで行くことで教育が行われている。
○一方でまちづくりは住民と直接対話することであるので大変な部分も大きい。その現実を知りつつ、しかし夢も持てるようにどのように講座、実践を行うか工夫が必要である。
○今後について、助手的な立場での人材から本格的にまちづくりを行える人材まで必要性がありこの講座を終了した人材の活躍の場がある。
○実践において地域の紹介、講評の場への職員の派遣など教育機関との連携は可能である。
○一方でまちづくりは地域住民にとっては一生続く問題であり、長い期間取り組めるか？立場を整理して責任持って取り組めるか？など教育機関としての本気度がないと難しい面もある。
○直接、助手的な立場で学生が入り込むとすることには入り込む立場などの整理など難しい側面もある。
○公的な資格制度や人材派遣制度、他の国家資格（都市計画プランナーなど）様々なものが様々な行政でそれぞれあり、それらとどうやってリンクしていくか？整理して行くか？などの社会における位置付けの整理は重要である。
○地域によってはまちづくりに関する専門家派遣制度なども行われてきており、今後、まちづくりファシリテーター、その上位資格ですでにある認定まちづくり適正建築士についても連携の可能性を模索していきたいという意見も前向きかつ現実につながる意見も見られた。

（以上）

２－３－② 企業対象ヒアリング調査

２－３－②－ｉ　調査概要

（１）名　称：

「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する
企業に対するヒアリング調査

（２）日　時：

企業ヒアリング調査：令和元年１２月１０日（火）～令和２年１月24日（火）

（３）目　的：

まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業・行政にヒアリング通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

（４）方　法：

まちづくりに関連している企業に質問内容を決めて行う半構造化インタビューを実施。その必要性、必要とされる人材像、必要とされる条件、知識、スキルなどを明らかにする。同時にすでに行われている講座があればその内容、実施状況、スキル標準など調査を行う。
分析としては、インタビュー内容を企業、それぞれ議事録形式でまとめ。その上でまとめ、考察を行う。また資料として企業から提供していただいたパンフレットなども参考資料として活用し、考察まとめをおこなった。

（５）母集団及び標本サイズ

・企業ヒアリング：計８社
パナソニックホームズ（株）、旭化成ホームズ（株）、住友林業（株）、
三井ホーム（株）、（株）ミサワホーム、積水化学工業（株）、大東建託（株）、
UR 都市機構

（６）分析

各対象のヒアリングについて議事録を作成。その上でまとめ、考察を行った。
※パナソニックホームズ株式会社のみ質問項目を送付。回答を記載する形式で実施。
その後、内容を変えずに同じ議事録形式に整えて考察を行った。

２－３－② 企業対象ヒアリング調査

２－３－②－ii　結果　企業ヒアリング議事録

□調査記録 20200110

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目**：調査３　企業へのヒアリンング調査　パナソニックホームズ（株）

■ **日時**：令和２年１月７日（火）

■ **目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリング（パナソニックホームズ様のご希望により、今回は質問項目を送付し、回答をいただく形式にて実施）を通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **方法**：メールにて質問項目を送付。里中室長を中心に社内で意見調整していただき、回答を得た。

■ **調査対象者**

（調査先）パナソニックホームズ株式会社　設計部人材開発部　里中　勝哉　室長

■ **内容**:（里中室長は本事業の調査分科会委員でもあり、事業の趣旨、まちづくりファシリテーターの概要についてはすでにご存知であります。その前提から企業の方という立場から質問項目について回答をいただいた。）

---

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・今後のまちづくりは建築・ランドスケープ中心から人と人とのつながりを中心に進めていく必要があり、公共事業もまた行政だけがおこなうのではなく、行政と住民が共働して進める必要があると考えます。

・そのため人どうしや行政と住民とをつなぐ役割ができる人材が増え活躍することによって、まちが抱える問題が解決されていくことが望ましいと思います。

②必要とされるスキル・知識

１）建築、まちづくりに関する経験や知識

２）住民や行政とのコミュニケーション能力

３）困難に立ち向かう実行力、関係者・社内外から協力がもらえる人望

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・今後のまちづくり事業には必要な人材になりますが、養成講座を修了しただけではなく、まちづくりに対する熱意、幅広い視野、高いコミュニケーション力なども兼ね備えている必要があると考えます。

④今後、貴社において出てくる可能性のある、まちづくりファシリテーターの業務

（今後の近い未来における業務）

可能性の一部ですが以下のような業務が出てくるのではないかと思われます。

1）高層建築物の公開空地についての周辺の住民ヒアリングによる魅力ある空間の創出

2）商業ビルのテナントとコミュニティの共働による新しいプログラムの創出

3）衰退した街にコミュニティのしかけを施し、街の活性化・再生を行う。

4）既供給分譲地（20 年以上経過）に活性化・再生（建替・空家）を行う。

⑤現在行なっている研修・OJT について

・当社で行っている研修などはありません。

・またＯＪＴを行う実例や物件も具体的にはなく、ＯＪＴを適切に行うことができる人材も社内にはほとんどいない状態です。

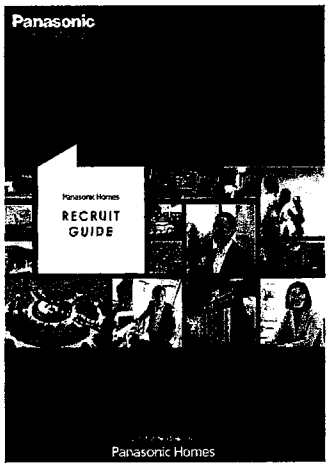
・当社もまちづくりファシリテーターに関する理解を高め、今後のまちづくりの方向性に沿って活動していく必要を改めて感じました。

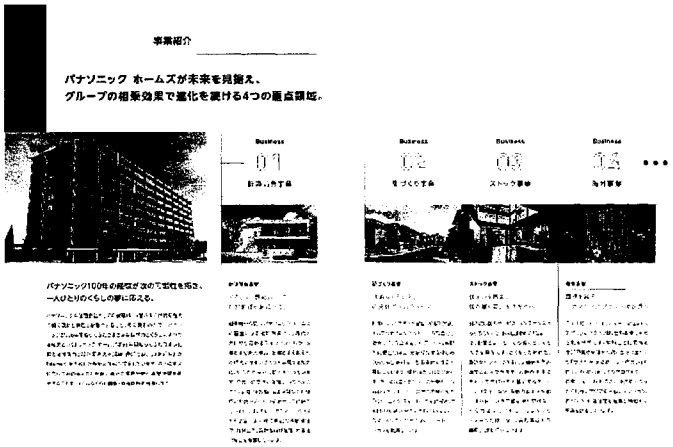
⑥教材や研修・OJT において留意している点の資料など

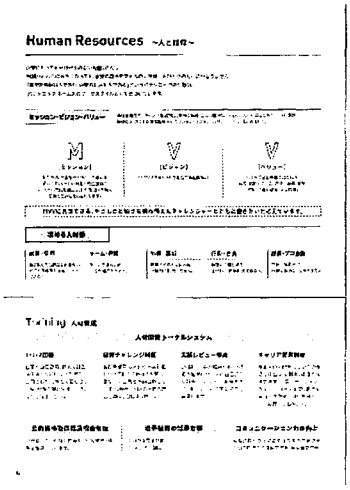
・特にご提供できる資料はありません。

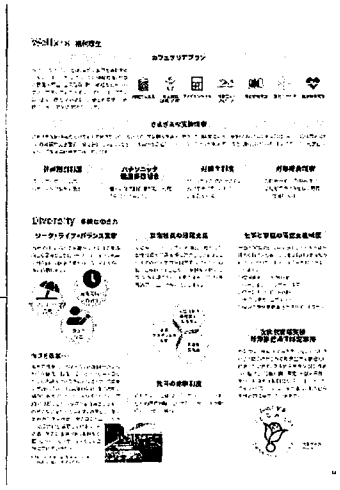
■ 入手資料

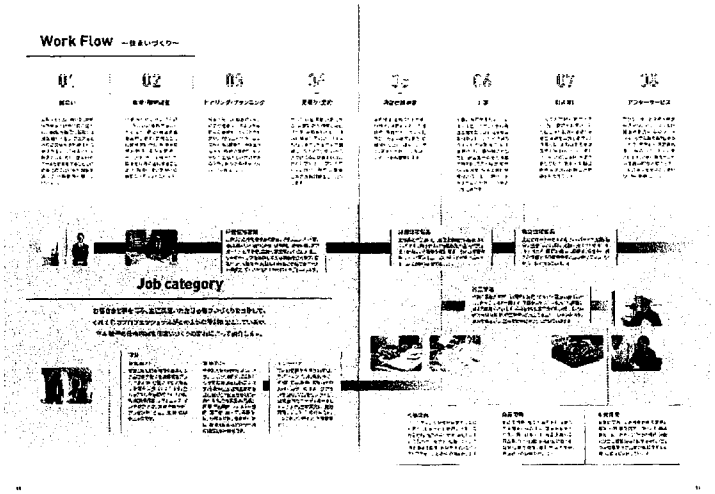
・「パナソニックホームズ株式会社パンフレット」











□調査記録 20191210

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目：調査３　企業へのヒアリンング調査　旭化成ホームズ（株）**

■ **日時：令和元年 12 月 10 日（火）**

■ **目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時にそこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所**：旭化成ホームズ（株）本社

■ **参加者**

（調査先）	旭化成ホームズ（株）設計本部営業設計部長	黒木	美博
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連	健夫
	日本工学院専門学校	松村	哲志

・内容（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。）

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要である。

・我が社は住宅メーカーの中でも注文住宅を中心としている。よって、宅地開発のようなものは多くはない。必要が生じている一つには注文住宅メーカーとして建設した物件が 20 年～30 年経過しているものがあり、そのお客様が建て替えやリフォーム、高齢者施設などにしたいなどの相談があり、その際にコミュニケーション能力が求められる。そういったケースでは特に必要。（別添、会社概要参照）

・具体的に言うと建設した物件の定期点検を行っており、その際には住宅の機能的な点検を行うのみとなっている。建設後には生活の悩みなど出したがらないクライアントが多く、悩みがあってもなかなか引き出せない現状があり、そういったお客様の悩みを受け取れる人材はこれから必要としている。

・特に完成後点検には技術的に特化したエンジニア気質のもの担当するケースが多く、そう言った人材と連携して引き出せる人材。また、担当するエンジニアも。もう一歩だけでもそう言った引き出す目線があると他の人材に繋げることができる。

・もう一方で集合住宅の建て替えにも必要性を感じている。我が社は同潤会江戸川アパートの建て替えに代表されるように長期修繕から建て替えを行っている。そういった仕事ではまさしく関わる人の合意が大切であり、まちづくりファシリテーターのような人材が必要。

② 必要とされるスキル・知識

・もちろんコミュニケーション能力は重要。ただし目的を持ったコミュニケーション能力であることが大切である。最近の若い社員を見ていると周りに合わせることは非常にうまい。但し、合わせているだけではなく、ある目的、例えば建て替えだとかバリアフリーにするなど、その目的を達成するためのコミュニケーション能力が大切。

・お金やマネジメント、相続などについては非常に重要になってくる知識である。やはり実際のプロジェクトでは、そこは大きく切実な問題である。

・建設後のクライアントは悩みを隠したがる傾向にある。その中で隠れた悩みを引き出すきっかけを考えるとその人個人の持っている豊かさ、例えば車が好きならその雑談から引き出せるケースなどもあるので、そう言った豊かさが重要である。

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・ぜひ、採用したいと思う。

④現在行なっている研修・OJT について

・現在行なっている研修の主なものとしては（入社時研修はもちろんのこととして）３年目に研修を行っている。

・内容は３年目の社員たちが集まり担当した実例をプレゼンし評価し合うもの。実例をもとにしたコミュニケーション・繋がり作り的な役割のもの。

・他の人のやり方など参考になると共に、地域の特性を踏まえた対応など学習。

・評価者は研修参加者とともに全国に数人いる主任設計者、上席設計者が参加してアドバイスを行う。

・主任設計者、上席設計者はマネージャーとしての役職とは別に設計に関する経験・業績などから任命されるもの。全国で主任設計者は３０名、上席設計者は２名。

・その他にも社内コンペを実施している。

・同時に一般的な講義形式の研修も行っているがこれは一般的なもの

・研修としては全てを含めて年間１泊２日の研修を３回から４回程度行っている。

⑤教材や研修時に留意している点の資料など

・特にこれといった教材や留意しているポイントをまとめたものなどはない。

⑥既に行われているまちづくりファシリテーターに類似した事例（キャリアストーリー）

・個別の事例ではそのようなことは行われている（例えば同潤会江戸川アパートなど）であろうが、特にまとまっていたりするわけではなく、これから必要となっていくことを感じているといったところ

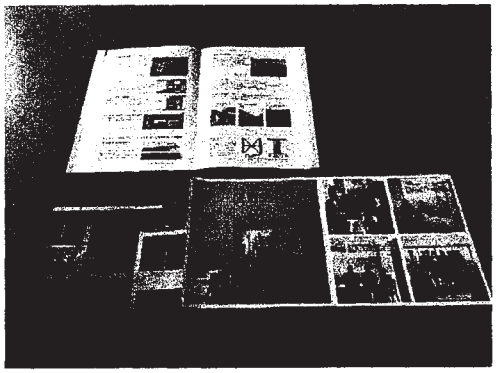
・パンフレットにあるような人材像はまちづくりファシリテーターの人材像に合致しており、現在的な必要性が生じつつあることが出ており、タイムリーかもしれない。
「自由にやってみろ」、「お客様は最良の先生」、「何を建てるかよりも誰と建てるかだよ」

■ 入手資料

・「旭化成ホームズリーフレット」正方形四つ折り／旭化成ホームズ（株）

・「旭化成ホームズ（株）会社案内」A4 冊子／旭化成ホームズ（株）

旭化成ホームズ（株）にてヒアリング



入手資料「旭化成ホームズリーフレット」他

□調査記録 20200107

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目：調査３　企業へのヒアリンング調査　住友林業株式会社**

■ **日時：令和２年１月７日（火）**

■ **目的：**まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所：**住友林業株式会社（経団連会館）

■ **参加者**

調査先

（調査先）　住友林業（株）住宅・建築事業本部市場開発部事業開発グループ
企画チーム　チーフマネージャー　　鈴木　耕平
住友林業（株）住宅・建築事業本部市場開発部設計推進部　森　　寛

調査委員

（調査委員）日本建築まちづくり適正支援機構　　連　健夫
日本工学院専門学校　　松村　哲志

■ 内容（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後にヒアリングを行った。）

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・まちづくり、市場開発を担当する視点からいうと点と点をエリアとして捉えることにより街に価値の提供ができる。そのような意味でこのような人材は必要である。

・設計の視点からいうと入社してから助かる。当社の設計の仕事はクライアントの要望や話に耳を傾けるところから始まる。設計志望で入社してくる学生はその感覚が薄くそう言った意味で学生の間にそのようなことを経験して入ってきてもらうと非常に助かる。

②必要とされるスキル・知識

・コミュニケーション能力

・50 年後 100 年後の未来を描けるスキルやそれらを勉強する素地。

・建築・不動産以外の様々な分野の人材とマッチングするような幅広い知識。

・今後１０年、２０年を考えると IT、IOT の知識、サービスやソフトの知識。

・住友林業として行政から SDGS や環境・エコロジーに関する相談なども多く寄せられるためそう言ったスキルは必要である。→エコ検定を推奨している

・これまでの既成概念にとらわれない発想、建築や都市だけでない柔軟な発想をする姿勢や能力がこれから必要とされてくると思う。

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・採用したいと思う。

・当社は注文住宅メーカーであり、そのためクライアントと話す機会、コミュニケーショ

ンを行うことが多い。そこにストレスを感じてやめてしまう学生も多くいる。先ほども話が出ましたがそう言った意味で様々な人々の意見が違い、その話を聞く素養を身につけた学生がいると大変にたすかる。→研修の最初はこの部分を行っていることがメインであるため

④現在行なっている研修・OJT について

・入って最初はコミュニケーション能力をつけるようなものが中心で長い場合は 2 年行っている。
・一番効果がある研修としてロールプレイングを行っている。コミュニケーションやお客様に興味を持つことが目的。
・その他の研修については支店に任されており、現在の最新の情報を学ぶ研修、事例から学ぶ研修などがある。
・事例から学ぶ研修は先輩社員やデザインなどから助言をもらい情報共有を行うもの。
・デザイナーという社内資格を設けて研鑽を積むシステムがある。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など

・支店に任されているところが大きい。
・会社資料をいただき説明。木材を中心としてそれに関わる分野を幅広く扱う企業であることがポイントであること説明を受けた。

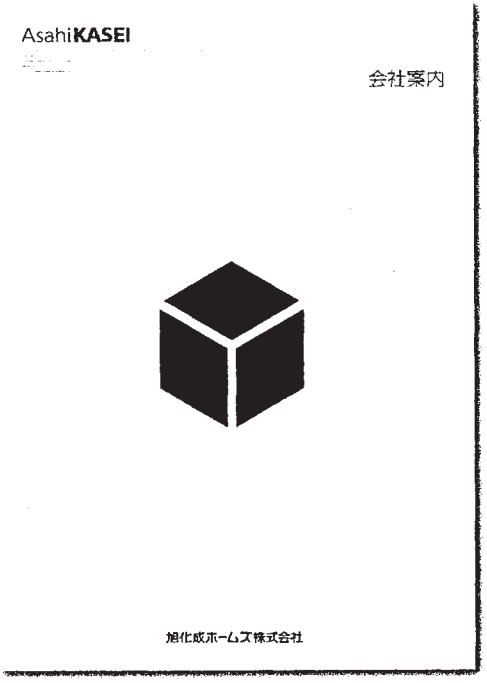
⑥今後に向けて

・今は注文住宅が中心であり、事業に直結するまちづくりなどがそれほど多くあるわけではない。しかし今後まちづくりなどの必要性が出てくる可能性を感じているという状況。

■ 入手資料

・「住友林業（株）パンフレット」

住友林業（株）にてヒアリング（経団連会館）



□調査記録 20200107

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目**：調査３　企業へのヒアリンング調査　**三井ホーム株式会社**

■ **日時**：令和２年１月７日（火）

■ **目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会において必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所**：三井ホーム（株）（経団連会館）

■ **参加者**

（調査先）	三井ホーム（株）設計推進部　部長	伊丹　克夫
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連　　健夫
	日本工学院専門学校	松村　哲志

■ 内容（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後にヒアリングを行った。）

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・個人的には大変に有意義で必要なことであると思います。
→理想を言えばこういう人がいなければ事業ができないという法律や制度が必要

・現状は、会社としてはあまり必要性を感じない。理由としては、弊社の事業は戸建ての住宅単体を扱うケースが中心業務であるから。

・取り組んでいるものとしては外構（エクステリア）について年間の評価をハウスメーカー８社で行っており、そこで景観的なものを評価している取り組みがある程度。しかし、それは個々の取り組みであり、まちづくり全体とはなっていない。

・一昔前には大型の宅地開発を行ってケースもあり、景観の専門家を招いてまちづくりや景観づくりの取り組みを行ったケースがあったが弊社では大きくても数棟の開発となっている。

②必要とされるスキル・知識

・弊社は単体の住宅を扱うケースが多い。単体の住宅づくりの延長としてエクステリアから街並みやまちづくりにつながってくるケースがある。そういった意味でのスキルや知識。

・現在、弊社にはそういった必要性があまりないという前提を踏まえて
→デザインとは問題を解決できること。そういった人材が求められる。スキルは建築だけでなく、街並み、民法など幅広いものが必要になってくる。

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・個人的には採用したいと思う。

・会社としてはもともとインテリアが強い傾向があり、現状そこまでではない。

④現在行なっている研修・OJT について

・営業についてはセールスとしての社員教育は行なっている。
・設計についてデザインに関する研修もある。
・デザイナー研修の中で事例を共有する研修を行っている。
・内部資格としてデザイナーやチーフデザイナーという肩書があり、合わせて 62～63 名程度（設計は 400 名ほど）
・課題を出して、設計をさせるというデザイナーの試験を行っている。

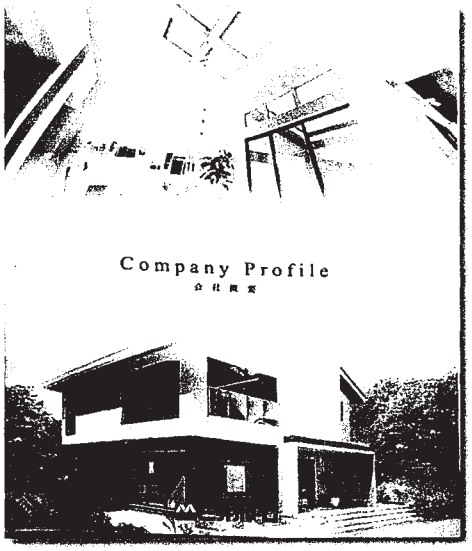
⑤今後に向けて

・今後、９０年代以降の住宅が 30 年を迎える時期が来る。それらは耐久性が高い木造住宅が多くあり、リフォームの必要な時期を迎えるようになる。今後リフォームの分野で外構も含めて提案は出てくる可能性が大きく、その際に建物の建て替えのニーズを引き出す人材としてこういった人材が必要になって来る可能性がある。
・今後、エクステリアには、まちづくり業務が出てくる可能性がある。しかしそのためにはエクステリアを事業としてできるようにする体制が必要である。

■ **入手資料**

・「三井ホーム（株）パンフレット」

三井ホーム（株）にてヒアリング（三井ビル）



□調査記録 20200107

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目：調査３　企業へのヒアリンング調査　株式会社ミサワホーム**

■ **日時：令和２年１月７日（火）**

■ **目的：**まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所：**株式会社ミサワホーム　（新宿 NS ビル）

■ **参加者**

（調査先）	株式会社ミサワホーム	商品開発部	石塚　禎幸　部長
（調査委員）	株式会社ミサワホーム	総合研究所	富田　晃夫　室長
	日本建築まちづくり適正支援機構		連　健夫
	日本工学院専門学校		松村　哲志

■ 内容（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後にヒアリングを行った。）

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・しかしその位置付けがビジネスとして明確でなくまだまだこれからの状態である。

・実業（商品開発部）の観点から考えると、過去にミサワホームが分譲した住宅地が 20 年、30 年と経過し、その街を持続可能なものにしていく中で様々な用途の変更などが行われてくる。その近隣との調整をしていく人材というのは今現在でも必要である。

・行政から調査、問題解決、提案などの依頼が総合研究所にあり、そこでは必要である。

②必要とされるスキル・知識

・ある意味、特殊能力である、相当なスキルが求められると思う。

・上級者としては「カテゴライズできない人間力」みたいなものも必要である。それをどのようにつけるか？は課題である。またそこまでの能力を求めるかということもある。

・合意形成を行う人という観点で考えると立場を明確にする。前提条件を理解し、その立場を伝えること、交通整理すること。その能力をつけたほうが良い。

・どのような施設が必要かなど、設計力・知識は必要であるが一方でどのような街にするか想像する力も必要である。

・行政と企業両者にとってハッピーな全てにウィンウィンになることを考えることが必要
→行政、自治体の問題は問題山積の状態。さらに規模などで様々。それらの幅広いものを理解して、立場をとっていく能力が必要

・実業を行なっている部署の方から、経済性、特に個人の経済性を高めることはよく勉強してもらうと嬉しい。

→具体的な一つとしては、相続や税金、資金計画、事業性、収支など
→一度収支の計画などをしているだけでも違う。事業が軌道に乗るまでの経年も含め
→段階的な計画やそのコストと効果のバランス、持続（段階的に行う）そういった視点

・制度設計から考えられる人がいると役に立つ。その提案をおこなえる方。トータルで、経済性、法律性まで見わたせることができる能力知識

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・会社としては欲しいと思う。また将来的には必要である。
・しかし、事業に直結していないのでどこまで現在、採用に至るかは難しいところ
・助手的な人も欲しいが今は大学等との共同研究という形でコラボしている。そういったところにはぜひこの講座を受講した人がいると嬉しいと思う。

④現在行なっている研修・OJT について

・研修みたいなものはないです。まさに OJT で行なっている。
・基本的には個別対応。一緒に先輩社員とともにチームを組んで実際のプロジェクトに入っていく。実践を行なっていくという形式。
・現在、カリスマ社員的な人に頼っており、あまり定型化できていないのが現状
※上記は全てまちづくりファシリテーターにつながるスキルなどの教育という意味で
・社内資格　デザイナー→シニアデザイナー→チーフデザイナー講習と実技試験
かなり狭き門　デザイナー200 名、シニア 20 名、チーフエリアに一人
設計は 3,000 人。デザイナーは名刺も違い、それを営業の一環として売りにしている。
・まちづくりの社内資格はない。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など

・特に教科書などはない状況

⑥今後に向けて

・今後、今以上に編集設計などでてくる時代になってくる、今ある分譲地を編集設計する際に近い未来を見据えて提案していかなければならない。来るべき未来はわからない。しかも個別で問題も全て変わる。そういった意味では一つ一つの問題点をしっかり捉えて整理して丁寧に個別に対応していくことが必要である。

■ 入手資料

・「株式会社ミサワホームパンフレット」

株式会社ミサワホームにてヒアリング

□調査記録 20200114

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目**：調査３　企業へのヒアリンング調査　**積水化学工業（株）**

■ **日時**：令和２年１月１４日（火）

■ **目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所**：積水化学工業（株）本社（虎ノ門オークラプレステージタワー）

■ **参加者**

（調査先）	積水化学工業（株）技術 CS 統括部設計・施工部グループ長	**鈴木　隆二**
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構	連　健夫
	日本工学院専門学校	松村　哲志

・**内容**（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。）

① 社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・今すぐというよりは今後、この資格の内容次第では可能性が出てくると思う。

・現在、リフォームと新築が２大柱。リフォームではお客さんの話からニーズを聞き出す力が必要で関係するかもしれない。

・また、建て売り・売り建てで町全体を開発することがあり、そこでは活躍する可能性があると思う。

・具体的には何百棟レベルでの開発もあり、積水の売りの蓄電、ソーラーなども採用、それを共有してくことになるのでそこでは活躍する場があるかなと思う。

・新しいものを一から構想する人材、例えば都市計画出身の人材御社にも入社してくるが古いものを活用できるという人材は多くはない。実際には既存のものを扱うケースは社会全体としては多いと思われるので必要性はあると思う。

② 必要とされるスキル・知識

・お客様の困りごとを聞き出し、解決する。その能力。社内の OJT でなかなか杖ｋられない部分である。

・営業的センス、ヒアリング能力

・税金や国制度、助成金など。プランニングの能力は仕事をやっていけばついてくる。それを支える裾野の知識スキルをつけてもらえると嬉しい。

・知識よりもスピードやフットワーク、マナーが良いことは採用時にも重要視している。

・それにプラスしてまちづくりの知識やスキルなどがあると嬉しい。

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・採用する可能性はある。

・具体的にはまちづくりの部署や先ほど話の出た建売などでまちづくりをする部署では採

用したいと思う。
・基本、３階建までがメインであるので中規模の集合住宅や福祉施設などは扱っていないのでそこでの可能性は他社さんではあるかもしれないが当社ではない。

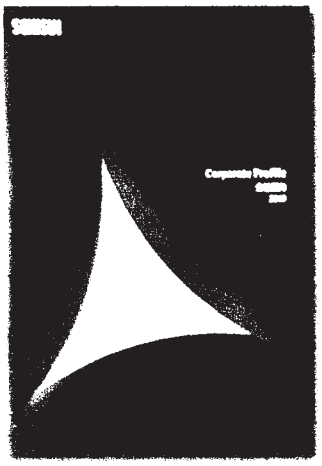
④現在行なっている研修・OJT について
・社内用の研修はいろいろある。
・前提として組織として住宅部門は積水化学工業株式会社と東京セキスイハイムの二つの会社がある。積水化学工業は全体統括の本社機能、各物件は東京セキスイハイム（販売会社）が担当する。それぞれで行っている研修も異なる。
・基本は座学で詰め込むか、事務の手伝い、工場見学など。設計でコミュニケーション能力を伸ばすものはあまりない。
・営業ではコミュニケーション能力を育てる研修はあり、基本ロールプレイングのみ
・新入社員ではなかなかコミュニケーション能力がなかったり、プレゼン能力がなかったりする人が多く見られるので上記のような研修を行っている。
・OJT は各販売会社単位で行っている、
・たまに社内コンペなどは行なっている。
・その他に成功事例を社内で共有する場を設けたりしている。
・プランデザイナーという社内資格を設けている。設計４００、デザイナー２００、営業２０００。名刺に記載する。社内試験により認定。内容は建築士の製図に近い形式。
・評価基準は項目が定められておりそれについて採点する。

⑤教材や研修時に留意している点の資料など
・先ほども出たがコミュニケーション能力。特に反応の良さやマナー・モラルは重要視している。

⑥今後に向けて
・今やっている分譲地建売系は今後も含めてこの能力が必要である。

■ 入手資料
・「積水化学工業（株）会社案内」

積水化学工業（株）にてヒアリング



□調査記録 20200121

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■ **項目：調査３　企業へのヒアリンング調査　UR 都市機構**

■ **日時：令和２年１月２１日（火）**

■ **目的：**まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があるか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時にそこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■ **場所：**独立行政法人都市再生機構　（新宿アイランドタワー）

■ **参加者**

調査先	UR 都市機構	東日本都市再生本部事業企画部事業企画課	三井　貞幸課長
	UR 都市機構	東日本都市再生本部事業企画部事業企画課	亀田　健二主幹
調査委員	日本建築まちづくり適正支援機構		連　健夫
	日本工学院専門学校		松村　哲志

■ **内容**（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明後、ヒアリングを行った。）

①**社会、企業からの必要性：**まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・特に私たちの部署（事業企画部）は事業を直接作り上げるというよりもその企画段階を行っており、色々な人との合意形成や様々な登場する人々の意見を聴取して方向性や企画を作って次に渡す内容が多く、まさにおっしゃられるファシリテーターの内容になってくる。

・またハード整備しないまちづくりやその仕組みづくりも仕事として出てきている。

・UR は行政から直接頼まれるものも多く、直接事業に結びつかず調査や報告書提出、方向性の提案までのものも多くあり、そういった場でも必要性を感じる。

②**必要とされるスキル・知識**

・様々な人々の意見を聞く能力

・上から目線にならずに気ことが大切である

・街を見る目も必要

→実際に初めて現場に行く前にレンタルサイクルで街を見て歩く。地名を覚えるなど。先輩から学んだテクニック

・社会学的なアプローチ。その場所の歴史やコンテクストが提案や合意のキーになったりする。

・幅広い知識、スキルが必要。特に都市や建築だけでなく、合意形成の方法はもちろんのこと、マネジメントや税金、不動産、民法などの知識が求められる。スペシャリストである必要はない。知っていてその専門家に繋げることが大切。

・ただし、最後に提案というか方向性というかそういうものを創造できる能力も必要。

・言うなればＴ型人間というか。幅広さもあり、さらにそのうち１つが深い能力を持つ形。

③講座修了者を貴社で採用したいか？

・ぜひ、採用したいと思う。

・現在、専門学校の採用があるかなども今後確認する必要もある。

④現在行なっている研修・OJT について

・基本的な研修の他は OJT を中心として先輩社員とチームで取り組む中で口伝にて教育が行われている。個人差はあるが１人前のエキスパートになるのに１５年程度かかる場合もある。

・想定問答とまでいかないがどのようなことが会話で行われて行くかなどを趣味レーションすることがあり、有効な教育になっている。

・事例紹介を通じてその成功例や教訓などを学ぶ機会があり、非常に有効な学習である。

・議事録を取ることが教育に繋がっている。

・UR のフォーマットとして最初にその議事録の要約を記載、その下に詳細を記載する形になっており、その要約を作成することは学習となっている。

・同時に当該部署では議事録の詳細部分にその時の雰囲気やお茶を出されたかなど細かい部分を記載するようにしており、その部分は実は進めていくでは重要であったりする

・議事録がうまく書けるようになると一人前になってきている。議事録をかく、その後上長や先輩とそれを見返してまとめ直すなどのサイクルは大切にしている。

⑤教材や研修・OJT において留意している点の資料など

・特にこれといった教材や留意しているポイントをまとめたものなどはない。

・昔はこういう手法でというものがあったが、いまは本当に事例ひとつひとつが多様であり、マニュアル化できない部分である。

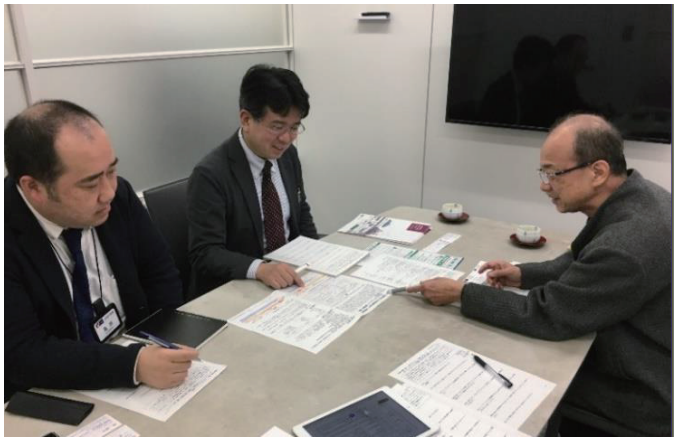
・いかに成果が見える形にして成功体験を与えてモチベーションを高めるかが悩み。実際の仕事では事業として完成するのが 10～15 年後になりなかなか成果が見えない。覚書や申し送りが完成するなど小さな成果、成功体験を重ねてモチベーション UP させる。

⑥今後に向けて

・地方での取り組みに展開する必要性を感じており、実際、現在長岡などの取り組みも出てきている。

■ 入手資料

・「UR 都市機構パンフレット」



UR 都市機構にてヒアリング

□調査記録 20200124

調査３　企業へのヒアリグ調査

記録：松村哲志

■**項目**：調査３　企業へのヒアリンング調査　**大東建託株式会社**

■**日時**：令和２年１月２１日（火）

■**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会においての必要性があ]るか？空き家問題や商店街問題を扱うと思われる一般企業にヒアリングを通じ明らかにする。同時に、そこで必要とされる人材の質、要件について調査を行う。

■**場所**：大東建託株式会社　本社　（品川）

■**参加者**

調査先	大東建託株式会社　技術教育部	鈴村　大介	次長
	大東建託株式会社　技術教育部	茂田　守裕	課長
	大東建託株式会社　技術教育部	田邉　智恵	課長
調査委員	日本建築まちづくり適正支援機構	連　健夫	
	日本工学院専門学校	松村　哲志	

■**内容**（連氏より本事業の説明と経緯、調査目的について説明後、ヒアリングを行った。）

①社会、企業からの必要性：まちづくりファシリテーターは必要だと思いますか？

・必要だと思います。

・木密地域の問題、高齢化してくる中で高齢者の活躍の場を作っていかなければならないという社会を考えると必要であると考える。

・一方で若い世代がうまく理解ができるのか？そこに反応するのか？に課題がある気がしている。建築士取得のような明快さがあると良い。

・コミュニケーションの面では近隣との対応などができるという意味で重要な能力であり、一企業としても必要であると考える。

・現在、弊社（大東建託株式会社）はこれまで集合住宅の賃貸をビジネスとしてきたが今後は衣食住、生活に関わる分野まで広げていく可能性を打ち出し、模索し始めているところである。地方でのシャッター商店街の活用など新たな取り組みを模索し始めている。その観点から大変に意味のある講座であると考えられる。

・大東建託としては建て替えなども行われてきているが、まだ単体の集合住宅をどう建て替えるという程度の問題で、まちづくりにまで至っていない。今後、広がっていく可能性はある。

②必要とされるスキル・知識（教育のイメージについて）

・地方創生の観点から考えるとつくった後の将来について、どのように使われていくかなども教えるべきではと思う。

・地域の行政、住民などを巻き込んで実践を行なっていければ素晴らしいと思う。

・その現場に参加するのが一番勉強になる。
→学生時代にその経験を持った学生が企業に入ることで広がっていくと思う。

・経産省が地方創生を担っており、そことのつながりがあると良いと思う。
・達成感を覚えると学生も反応してくれると思う。
・多世代とのコミュニケーションができない学生が多く、その部分を伸ばしてもらえると嬉しい。
・行政、民間企業など、周りを巻き込む能力。
・事例を聞くだけで良いのではないか？その生の声を聞くことができると良いのではないか？
・防災も重要であると思う。起こった時に本当に困る。

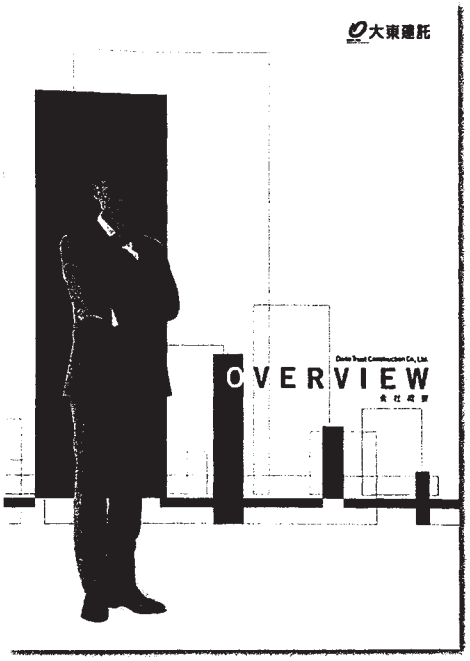
③講座修了者を貴社で採用したいか？
・採用したいと思う。
・コミュニケーションをできるという意味ではぜひ欲しい。
・この講座を受けたことによる様々なつながりを持って入ってきてくれると嬉しい。

④現在行なっている研修・OJT について
・支店単位で OJT・事例紹介など取り組んでいる。
・全国的には外構の優秀事例表彰などを行なっている。
・「デザイナー」などの設計者の中での能力基準を格付けする制度などやりたい気もあるが判断基準など地域での違いもあり、難しく行なっていない。

⑤今後に向けて
・民間企業や行政をどのように巻き込むか？その力と同時に基盤を作っていかねばならない。
→個人でも社会的にもその基盤をどう作るかは課題であると思う。

■入手資料
・「大東建託株式会社　パンフレットほか」

大東建託株式会社にてヒアリング



2－3－①－iii　考察・まとめ

まちづくりファイシリテーター養成講座に関する企業ヒアリングの記録に基づき、社会ニーズからの必要性、必要とされる知識・スキルなど、その養成に関する現状と留意点・方法、さらに、講座修了者が今後活躍する可能性やそのキャリアストーリーについてまとめを行ったものを以下に示す。

○まちづくりファシリテーター要請講座で養成されるような人材は社会的にも、また企業としても必要である。

○その必要性は、企業ごとによる状況、組織体制によってそれぞれである。企業全体ですでに取り組んでいる会社もあれば、必要であると個人的には思っており、その範囲で取り組んでいるという企業もあるという、取り組みに温度差があるのが現状である。

○積極的に取り組んでいる企業でもビジネスに直結するかというと必ずしもそうでないケースが多く、今後にむけて取り組んでいかなければならない企業の課題といえる。

○一方でその「必要性がる」という中にはこの講座によって「多様な人たちの話を聞くことのできるコミュニケーション力」の育成ができそうであるという期待が多く含まれており、その意味では大変に有意義な講座であると全ての企業が考えている。

→「企業で行なっているコミュニケーション研修の代わりになりえる。」
「仕事との不一致による離職の防止につながる。」などの意見も寄せられた。

○まちづくりファシリテーターの人材像について新しい職種であるので事例を明示すること難しいが、すでに潜在的にこういった人材が各企業に在籍していることがわかった。

○必要な能力として、「多様な人たちの話を聞くことのできるコミュニケーション力」が挙げられた。また現状、企業でのその能力育成には OJT が採用されており、実践が大切である。

○そのための OJT の一環として「ロールプレイング」・「議事録を使った振り返りやまとめ」などの方法を用いて行なっており、そこには先行熟達者としての先輩社員（各企業の持つ資格制度の資格保有者など含む）の存在が重要な役割を担っていることが伺えた。

○また社内研修の一環として「デザインレビュー的な事例の共有」を行なっている企業も多くあり、そういったものも効果できであると考えられる。またそこでも上記の先行熟達者の存在の重要性があると考えられる。

○必要な知識・スキルの一つとして税金や相続について、マネジメントについて、不動産についてなどビジネスやお金に関する内容を少しだけで良いので経験したことがある、意識したことがあることが大切であるという意見が多く寄せられた。

○その他の必要な知識・スキルとして「法律・条例などの知識」「環境に対する知識」「合意形成についても知識スキル」「地域の歴史についての知識」なども寄せられた。

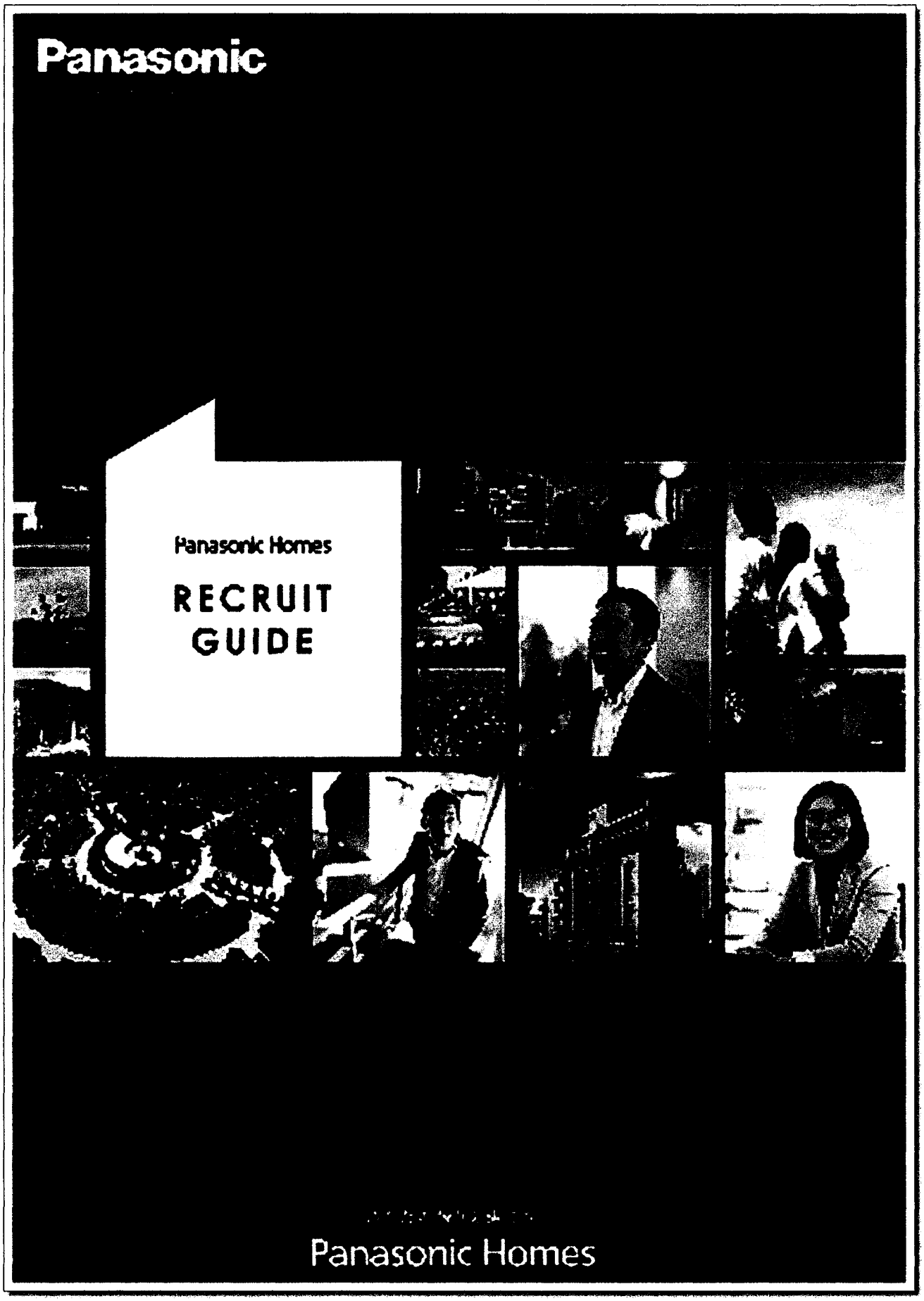
○今後地方におけるまちづくりファシリテーターの必要性を感じている企業も多く、地方創生のきっかけにつながるという意見も寄せられた。

○また必要なスキルとして聞く力だけでなく、聞いた上で計画し、プレゼンテーションできる力も必要である。

（以上）

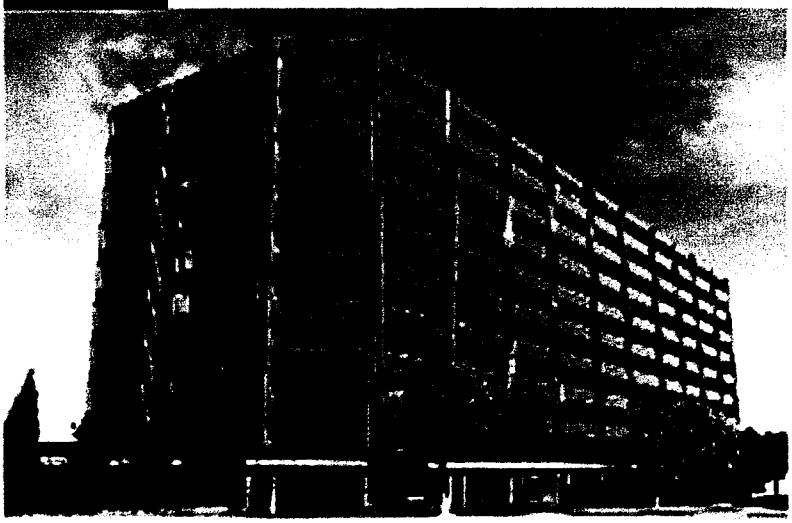
資　料：企業案内・パンフレット抜粋

○パナソニックホームズ（株）



事業紹介

パナソニック ホームズが未来を見据え、グループの相乗効果で進化を続ける4つの重点領域。



Business

01

新築住宅事業

パナソニック100年の経験が次の可能性を拓き、一人ひとりのくらしの夢に応える。

[illegible]

新築住宅事業

くらしに感動という
付加価値を創造する。

[illegible]

Business

02

生づくり事業

Business

03

ストック事業

Business

04

海外事業

生づくり事業

[illegible]くらしを、
[illegible]ノロテューノ。

[illegible]

ストック事業

住まいを再生し、
住み継ぐ暮らしを次世代へ。

[illegible]

海外事業

[illegible]を届けて、
パナソニックブランドを世界へ。

[illegible]

Human Resources ～人と組織～

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ミッション・ビジョン・バリュー

[illegible]

M

[ミッション]

[illegible]

V

[ビジョン]

[illegible]

V

[バリュー]

[illegible]

MVVに共感できる、やさしさと強さを兼ね備えたチャレンジャーとともに働きたいと考えています。

求める人材像

誠実・公明

[illegible]

チーム・戦略

[illegible]

知識・革新

[illegible]

行動・実践

[illegible]

成長・プロ意識

[illegible]

Training 人材育成

人材開発トータルシステム

トレーニング

[illegible]

目標チャレンジ制度

[illegible]

人事レビュー制度

[illegible]

キャリア開発制度

[illegible]

公的資格取得奨励金制度

[illegible]

若手社員の定着支援

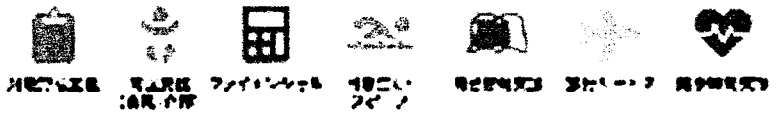
[illegible]

コミュニケーション力の向上

[illegible]

福利厚生

カフェテリアプラン

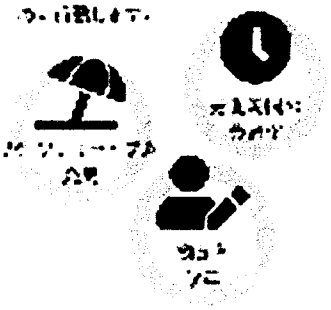


さまざまな支援制度

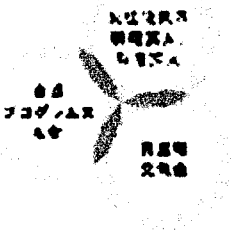
計画割引制度	パナソニック健康保険組合	財産形成制度	財形貯蓄制度

多様な働き方

ワーク・ライフ・バランス重視

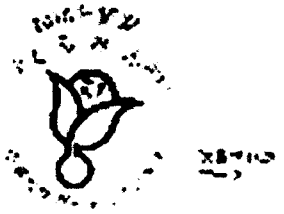


女性社員の活躍支援

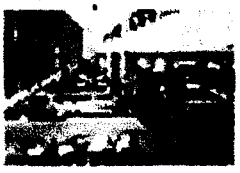


仕事と育児の両立支援制度

次世代育成支援対策推進法認定取得



仕事方改革…

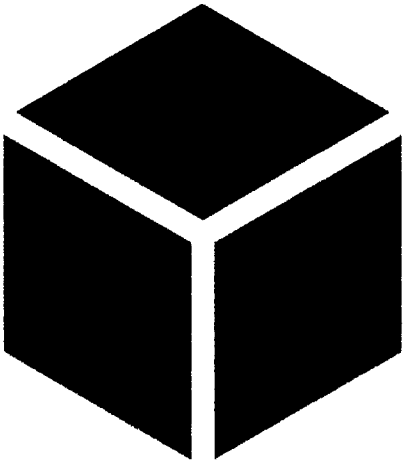


社員の休暇制度

○旭化成ホームズ（株）

AsahiKASEI

会社案内



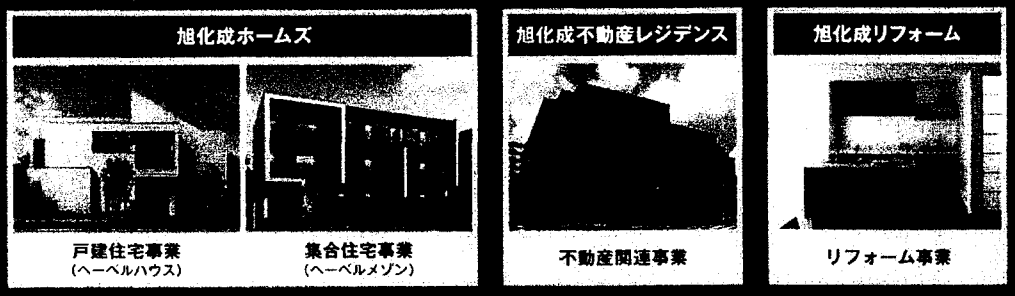
旭化成ホームズ株式会社

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

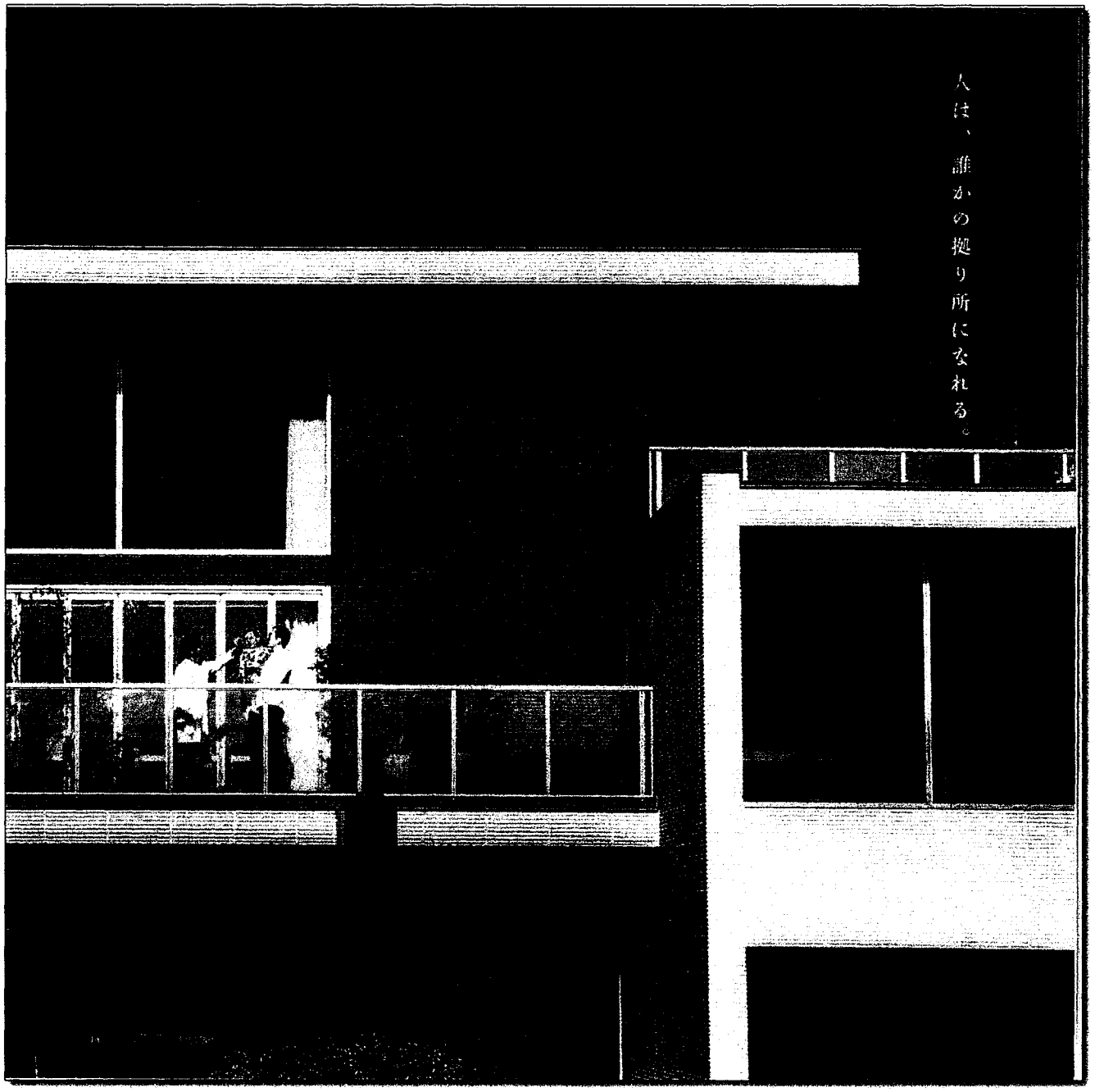
私たち旭化成グループの使命。
それは、いつの時代でも世界の人びとが"いのち"を育み、より豊かな"くらし"を実現できるよう、最善を尽くすこと。
創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、次の時代へ大胆に応えていくために――。
私たちは、"昨日まで世界になかったものを"創造し続けます。

専門領域を連携し、暮らしの多様なニーズに応えます。



住まいを通じて
"安心で豊かな暮らし"を実現します。

私たち旭化成ホームズは、環境や社会が変化する中、さまざまな取り組みを通じて培ってきた技術とノウハウを活かし、
これからの社会ニーズである「健康で快適な生活」「環境との共生」という視点から新しい価値の創出に注力。
科学と英知で旭化成グループとしてのシナジー効果を生み出し、お客様へお届けします。


人は、誰かの拠り所になれる。

01voice

「くるかだよ」

02voice

「すべて、
先生にお任せします」

人社して初めて担当した設計。最初のお客様の言葉に、重圧がかかった。先輩設計士に何度も指導を仰ぎながら、ご家族様に喜んでいただける間取りを提案。完成後の訪問で、お子様の幸せそうな笑顔を見て、目頭が熱くなった。

設計担当

03voice

「お客様は最良の先生」

人社1年目に重大なミスをし、大クレーム。落ち込む僕に上司は、お客様に真剣に向き合い、お客様から学ぶことを教えてくれた。時にいただく厳しい言葉も期待の証。今も、お客様から成長の場をいただき続けている。

工事担当

04voice

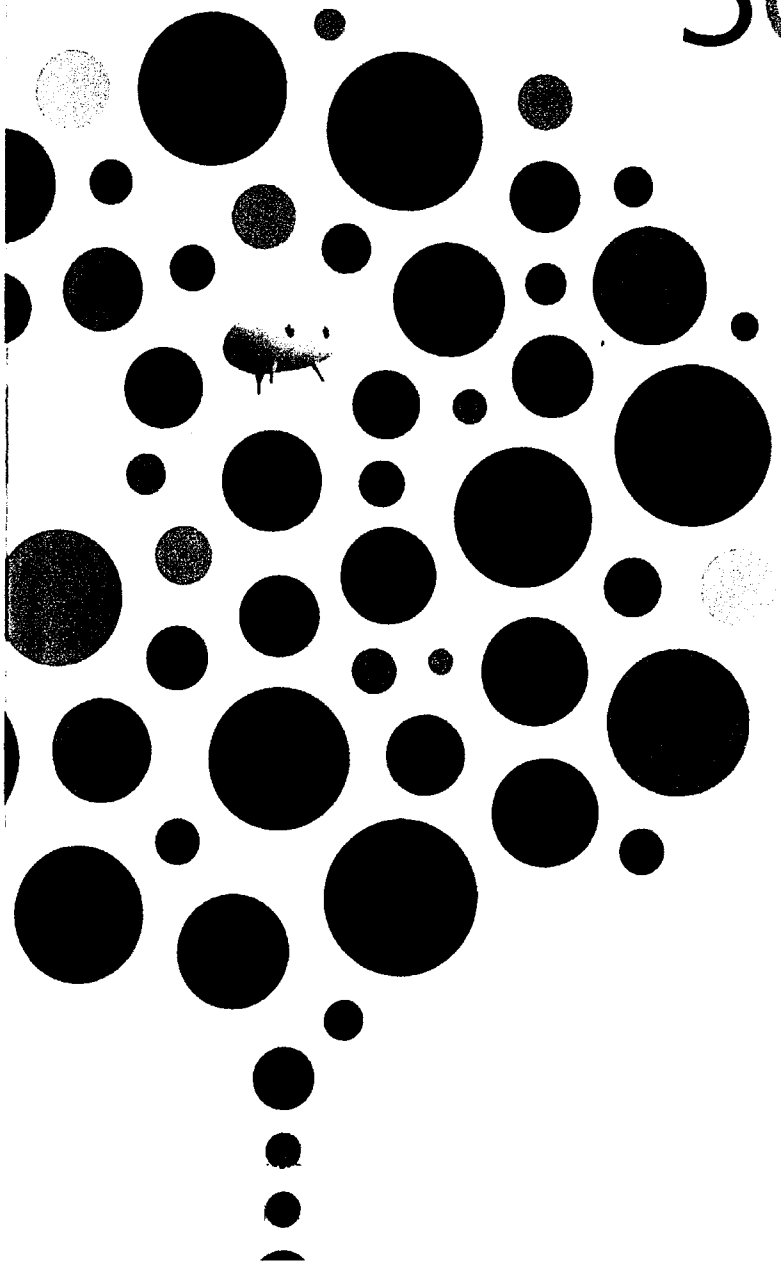
アフターサービス推進部　スタッフ

○住友林業（株）

木と生きる幸福

住友林業

Seeds for a Sustainable Society



統合報告書 2018 (2018年3月期)

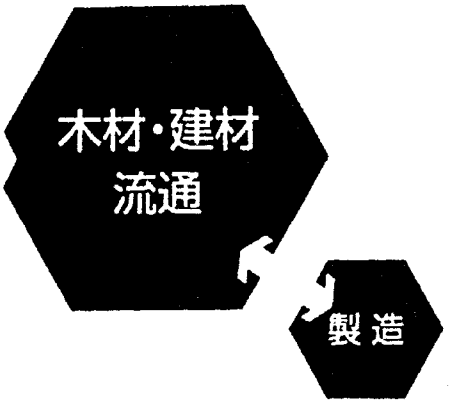
住友林業グループの事業展開

住友林業グループは木のプロフェッショナルとして、
人と地球環境にやさしい「木」を活かし、
国内外における山林経営・植林事業から
グローバルなネットワークによる調達、流通、製造・加工、
さらには住宅建築をはじめとする人々の生活に関する
あらゆるサービスの提供に至るまで
独自のバリューチェーンを構築しています。

川上（山林経営）　　川中（流通・加工）

木を育む

木を社会と繋ぐ



資源環境事業

国内社有林面積
（2018年4月1日現在）　47,977ha

海外植林管理・保有等面積
（2018年3月31日現在）　約230千ha

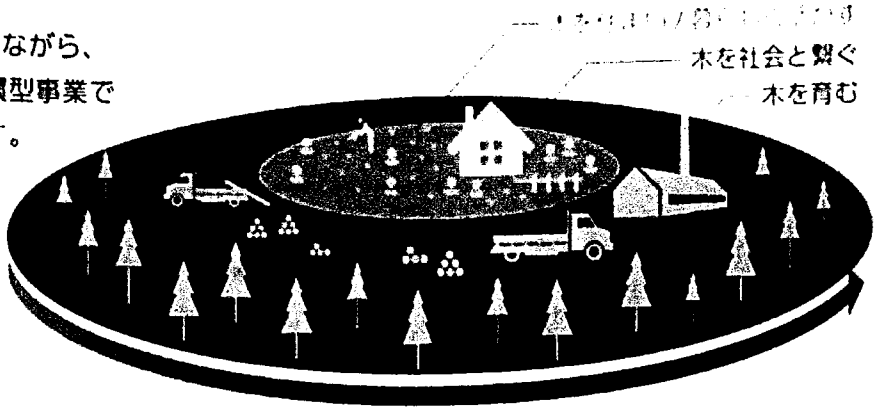
木材・建材流通事業

植林木・森林認証材・国産材（日本）の取扱量（海外流通拠点の取扱材）
（2017年度）　1,163千m³

製造事業

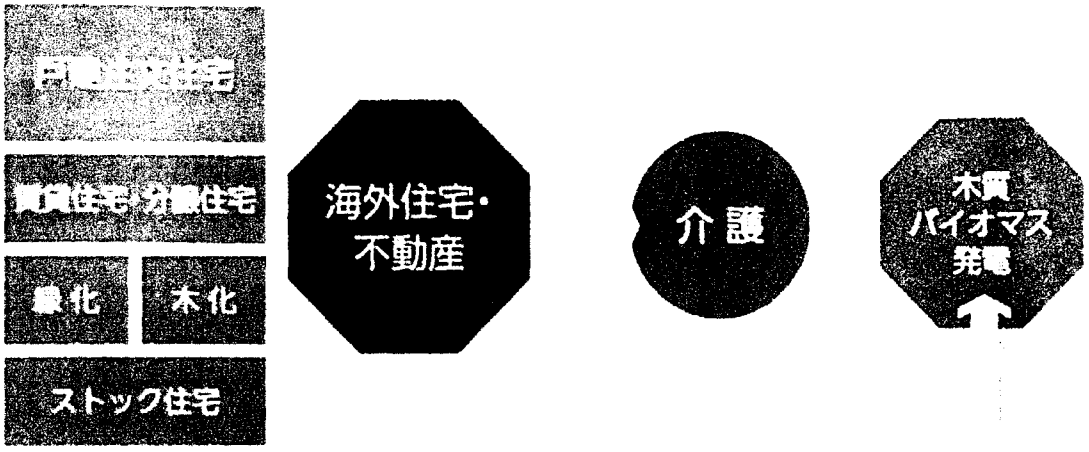
海外製造子会社での製品生産合計
（ボード及び建材製品の合計）（2017年度）　1,224千m³

木を植えて、森を育みながら、
木を活用し続ける循環型事業で
持続的成長を図ります。



川下(消費者向けサービス)

木を住まい / 暮らしに活かす



請負注文住宅事業

国内販売引渡棟数
(2017年度)
7,556棟

海外住宅・不動産事業

海外販売引渡戸数
(2017年度)
9,223戸

木質バイオマス発電事業

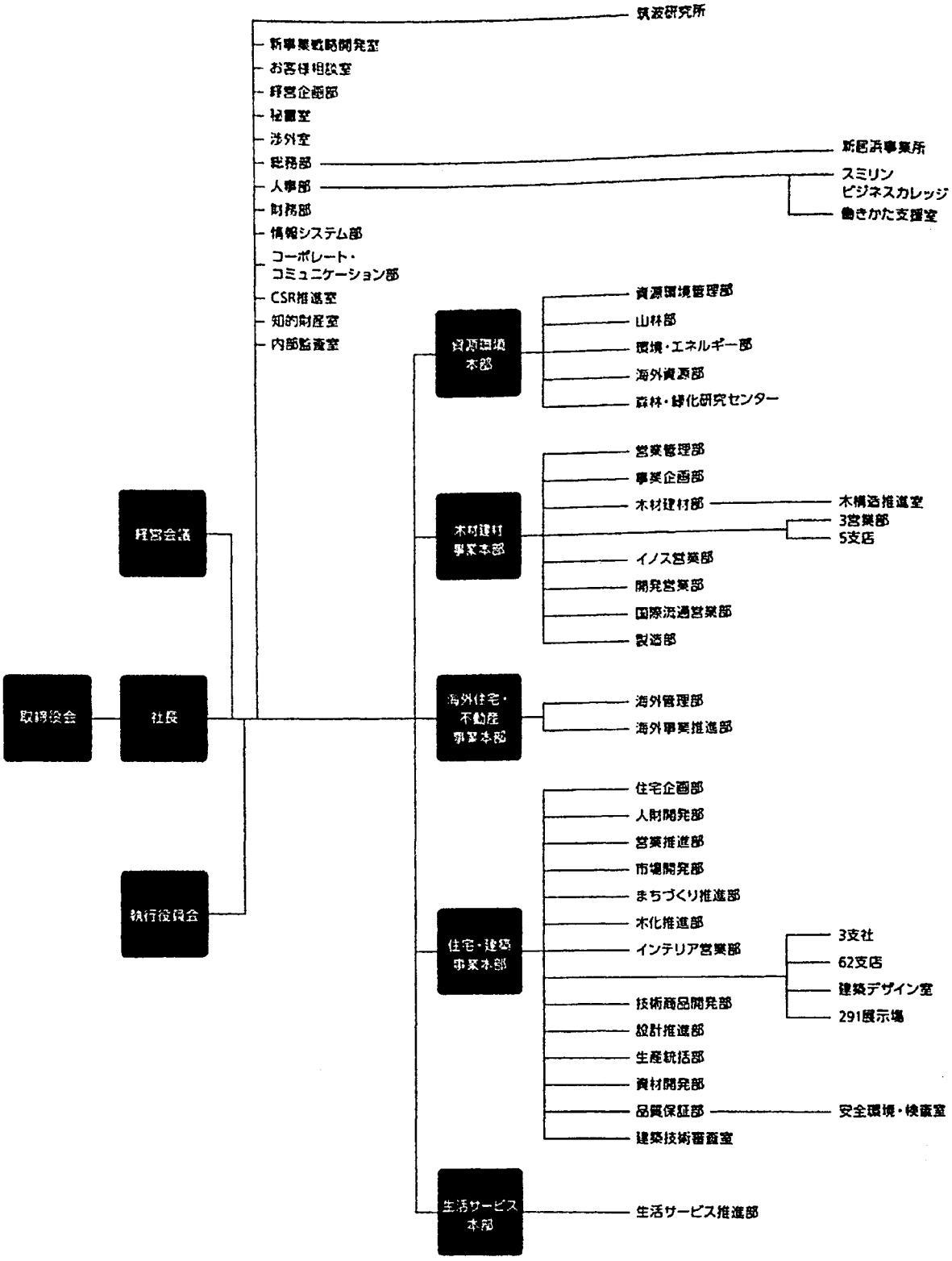
発電規模(稼働中+計画)
(2018年7月末現在)
約177MW

介護事業

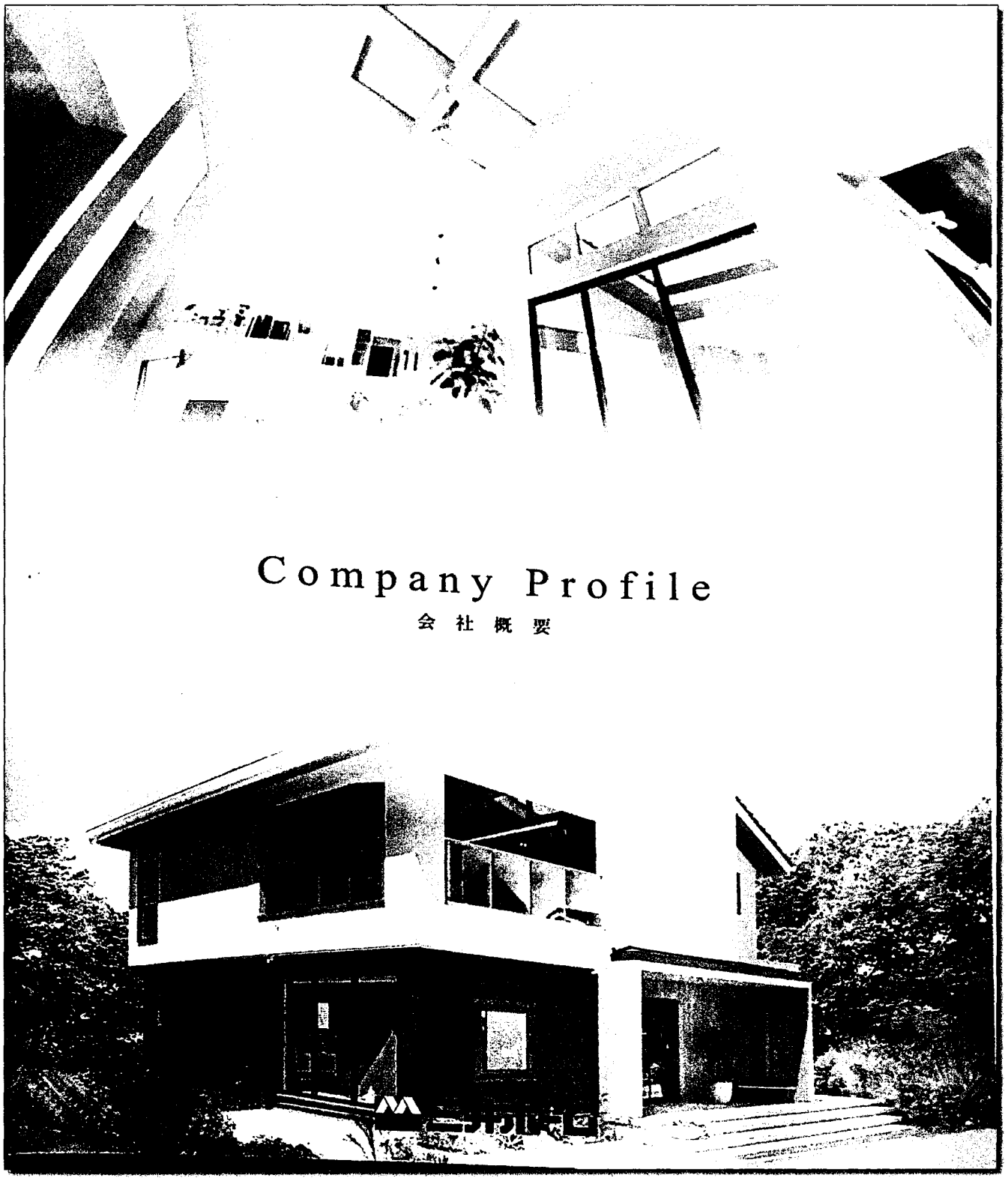
介護付有料老人ホーム運営施設数
(2018年7月末現在)
スミリンフィルケア **16施設** スミリンケアライフ **3施設**

組織図

(2016年4月1日現在)



○三井ホーム（株）

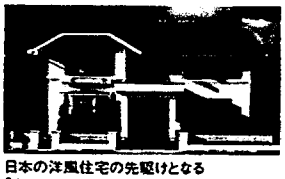


ツーバイフォー住宅のリーディングカンパニーとして進化を続ける三井ホーム

History of Mitsui Home

1974年の設立以来、三井ホームはさまざまな技術や生産システムを開発し、つねに日本の風土と日本人の暮らしにマッチしたツーバイフォー住宅を提案し続けてまいりました。人と環境にやさしい住まいづくりにこだわり、いつの時代も日本の住文化をリードしてきた三井ホーム。そして、これまで40年以上に渡り培ってきた技術を「プレミアム・モノコック構法」へと昇華させました。これからも三井ホームは進化し続けます。

1978



日本の洋風住宅の先駆けとなる
「ウィンザー」を発表
The Windsor houses were introduced in 1978.

1980

本格的洋風住宅
「コロニアル'80」を発表
The Colonial '80 houses were introduced in 1980.

1985

輸入部資材を採用した
「ハートレー」を発表
The Heurtley houses were introduced in 1985.

1987

「隣居」の思想で暮らす2世帯住宅
「ツインファミリー」を発表
The Twin Family houses were introduced in 1987.

1974 日本でツーバイフォー工法がオープン化
三井ホーム株式会社設立

1975 ホームコンポーネント㈱（現・三井ホームコンポーネント㈱）設立
モデルハウス第1号オープン

1980 カナダ・バンクーバー市に事務所開設
三井ホームサービス㈱・三井ホームインテリア㈱（現・三井デザインテック㈱）設立
インテリアコーディネーター制度を発足させ全国に組織化

1982 ハウジングパートナー（販売施工代理店）を設立し、FC展開を開始
木造初の小屋裏利用3階建認可
業界に先駆けて全商品「10年間保証」を導入

1986 サム・コーポレーション㈱（現・三井ホームエステート㈱）設立

1987 サムファイナンスサービス㈱（現・三井ホームリンケージ㈱）設立

1988 ㈱ユーアンドエー研究所（現・㈱三井ホームデザイン研究所）設立
三井ホームエンヂニアリング㈱（現・三井ホームエンジニアリング㈱）設立

1989 アメリカ・ポートランド市にMitsui Home America,Inc.設立
米国住宅展「ストリート オブ ドリームス」にモデルハウスを出展

1992 新百合ヶ丘研修センター竣工
カナダ・バンクーバー市にMitsui Home Canada Inc. 設立
大手メーカー初の「10年目有料メンテナンス条件付20年保証システム（構造躯体）」を導入

1993 2月4日、東京証券取引所市場第二部に上場

1994 9月1日、東京証券取引所市場第一部に指定

1995 「阪神・淡路大震災2×4住宅3,568棟の記録」発刊

1997 大手メーカーとして初の「賃貸住宅10年目有料メンテナンス条件付20年保証システム」を導入
免震システム「M-400」発売

1998 ホームテクノリサーチ㈱（現・三井ホームテクノス㈱）設立
業界で初めて準防火地域木造3階建共同住宅を商品化

Innovation in Housing Since 1974

Mitsui Home was established in 1974, the year that saw th[illegible] [illegible]thod introduced to Japan. To secure a dependable supply of structural m[illegible] [illegible]uver, Canada, in 1980 and established Mitsui Homes Canada Inc. in 199[illegible] [illegible] the Second Section of the Tokyo Stock Exchange in 1993 and only one ye[illegible] [illegible]tion of the Tokyo Stock Exchange. Since the very beginning, we have be[illegible] [illegible]gies with the aim of building two-by-four homes that are optimally suited [illegible] [illegible] lifestyles. To date, we have supported the expansion of this system of co[illegible] [illegible] inspired approach to operations, such as by developing diverse products offerin[illegible] [illegible]gns and comfort, and

1999 売却時10年再保証システム「リ・フライト」を導入

2000 「環境指針」「環境行動計画」を策定
環境共生住宅認定を取得
「住宅性能表示制度」に基づく性能を満たすことを示す住宅型式性能認定を取得

2004 ツーバイフォー工法による木造初の耐火構造認定を受け耐火建築仕様の採用を開始
60年点検システム「キープウェル」を導入

2005 「新潟県中越地震の被害調査報告書」発刊

2010 大手住宅メーカー初、木造耐火4階建住宅商品「MULTIS-4（マルティス フォー）」発売

2011 「東日本大震災2×4住宅12,696棟の記録」発刊

2012 高強度木造住宅システム「Gウォール構法」、高効率太陽熱ソーラーシステム「サンキュート」、
地域の診療所を支援する開業システム「開業まるごとクリニック」で
「2012年度グッドデザイン賞」を3点受賞
千葉県・柏の葉キャンパスエリアに実証実験住宅「次世代スマート2×4 MIDEAS（ミディアス）」完成

2013 都内初の「ツーバイフォー木造耐火建築（5階建て）」が「2013年グッドデザイン賞」を受賞

2014 工法名称を「ツーバイフォー工法」から「プレミアム・モノコック構法」に変更
進化した木造枠組壁工法「プレミアム・モノコック構法」、健康空調システム「スマートブリーズ」、
木造建築床遮音システム「Mute55（ミュート55）」で「2014年度グッドデザイン賞」を3点受賞
MHA Construction Inc.（現・MHAC株式会社）を米国カリフォルニア州に設立

2015 オリジナル制震装置「VAX（バックス）」が「2015年度グッドデザイン賞」を受賞
MITSUI HOME PREMIUM（三井ホームプレミアム）の提案を開始

2016 国立研究開発法人土木研究所において実大振動実験を実施。「震度7に60回耐えた家。」

2017 「熊本地震 枠組壁工法住宅1,263棟の記録」発刊
MHA Building Systems LLCを米国カリフォルニア州に設立

2018 カナダ林産業審議会主催の「COFI 中層木造建築デザインアワード」に4階建て、
5階建ての施設系建築が入賞
三井不動産㈱による株式等売渡請求を承認し、同社の完全子会社化

introducing home protection systems to ensure long-term use. Homes for Exceptional Living for Generations were unveiled in 2009 as a new brand concept to mark our thirty-fifth anniversary. In 2014, we implemented a new construction method that we refer to as the Premium Monocoque Construction Method by incorporating proprietary added value into the two-by-four method of constructing wooden homes. In 2014, we received three Good Design Awards: one for our Premium Monocoque Construction Method, a technologically improved wood framework wall construction method; another for Smart Breeze, a health-promoting climate-control system; and yet another for Mute 55, a system for reducing sound between wooden buildings. In October, we established MHA Construction, Inc. in California, USA.

2010

女性目線の"あったらいいな"を叶える家
「シュシュ」を発表
The chou chou houses were introduced in 2010.

2015

新しい平屋のライフスタイル
「ウエストウッド」を発表
The WESTWOOD houses were introduced in 2015.

2016

サロンのある暮らし
「ヴァンス」を発表
The VENCE houses were introduced in 2016.

2019

光あふれる2階リビングの暮らし
「ルーカス」を発表
The Lucas houses were introduced in 2019.

グループの総合力を活かした、力強いパートナーとして

Group of Mitsui Home

三井ホームは、この大グループ力をバックボーンとしてい
ます。グループ内の住宅部門を牽引する三井不動産
グループ。その中で、注文住宅を中心とした関連事
業を担う三井ホームグループ。この2つのグループ力
が、1+1を超えるシナジーを生み出します。

三井ホーム
Mitsui Home Co.,Ltd.

都市に豊かさと潤いを
三井不動産グループ

三井不動産グループの注文住宅関連事業を担う三井ホーム

日本におけるツーバイフォー工法のリーディングカンパニーとしての豊富な実績と確かな技術力を背景に、注文住宅事業で4事業本部、33都・支店の直販営業拠点と、8つのハウジングパートナー会社*で全国ネットワークを展開しています。さらには8社のスペシャリスト企業からなる三井ホームグループの総合力と三井不動産グループ各社とのシナジーを活かし、お客様一人ひとりに最適なソリューションを提案しています。

*ハウジングパートナー会社とは、三井ホームの直営型販売・施工会社3社と各地域の地元有力企業と三井ホームとの共同出資などで設立された販売施行代理店5社です。地域に密着した住まいづくりを目指し、質の高いサービスの提供に努めています。

暮らしのトータルソリューション 三井不動産グループ

「都市に豊かさと潤いをもたらす空間とサービスを提供すること」を社会的使命と考える三井不動産グループは、1941年創業の三井不動産株式会社をはじめ、現在約200社のグループ会社からなる企業グループです。オフィスビルや商業施設の開発・運営、新築住宅の分譲のほか、不動産の仲介、ホテルやリゾートの開発・運営など多様な事業を国内外で展開し、暮らしのさまざまなシーンに「価値ある豊かさと潤い」をお届けしています。

*「&」(アンド)マークの理念とは、これまでの社会の中で対立的に考えられ、とらえられてきた「都市と自然」「経済と文化」「働くことと学ぶこと」といった概念を「あれかこれか」という「or」の形ではなく、「あれもこれも」という形で共生・共存させ、価値観の相克を乗り越えて新たな価値観を創出していくもので、1991年4月に制定されました。

Providing worthwhile solutions using the collective strengths of our corporate group

Mitsui Home is a member of the 170-company strong Mitsui Fudosan Group, whose mission it is to bring enrichment and greater comfort to urban areas across the entire spectrum of housing needs and with a focus on real estate development and related businesses. The Mitsui Home Group is engaged in an array of housing-related operations formed around its custom-built housing division Mitsui Home leverages a national network of four business divisions, thirty-three direct sales locations consisting of departments and branch offices, and eight franchisees, as well as group synergies, to provide each of our customers with an optimal home-building solution.

○（株）ミサワホーム

MISAWA

THIS IS MISAWA

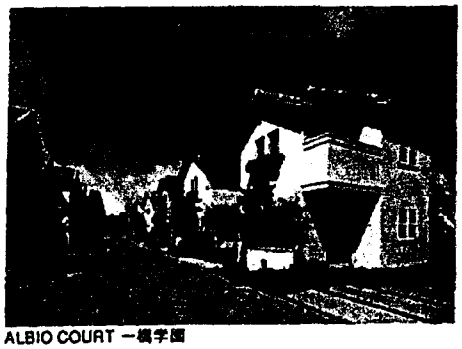
ミサワホーム総合カタログ

まちづくり

人と住まいと自然が調和した、資産価値の高いまちづくり

● 住まいの内と外、隣り合う敷地、敷地とみち、まちと自然などの「つながり」をデザイン。
● 微気候デザインによって地域の気候特性に対応し、四季を通じて心地よい住環境を創造。
● 歳月とともにまちの資産価値を高めながら、コミュニティを育てていく提案のあるまちづくり。

'19 M-SMART CITY熊谷


ALBIO COURT 一橋学園

'16 OWNERS' GARDEN 昭島

'01 宮崎台「桜坂」

ミサワホームのまちづくりのブランド

●HILLS GARDEN／緑豊かな自然環境のシンボルとしての「丘」と「庭園」の名を冠した、中規模までの一戸一建分譲ブランド。

●OWNERS'HILL／オーナーとしての誇りを満たす、テーマ性の強いまちづくりを実現。本物志向の高級戸建分譲ブランド。

●M-SMART CITY／環境共生型のまちづくりを追求。全棟に創エネ設備やHEMSなどを装備した、スマートハウスでつくるスマートシティのブランド。

●ALBIO COURT／耐震木造住宅「MJ Wood」でつくるまち。ALBIOは、すべて(ALL)の生命(BIO)を育む住環境を提供するとの意味を込めた造語。

M-SMART CITY 熊谷

●日本一暑い都市・埼玉県熊谷市で、「涼を呼ぶまち」をコンセプトに開発。街区・外構・住宅を一体で設計し、複合的にパッシブデザインを採用したまちづくりは、2019年、グッドデザイン賞を受賞。

●全73戸、全棟ゼロ・エネルギー住宅。外構には「涼」をつくるパッシブクーリングアイテムを設置し、数多くのクールスポットを形成。

●東端の公園で、緑地と井戸水の散水で冷やされた風が、まち全体に流れていくように街区を設計。

●既存樹の桜をいかした公園は、集いの場に。井戸水のミストや「足水」でクールシェア。

●広い集会所には太陽光パネル、蓄電池、備蓄庫も設け、非常時には地域の防災センターに。

●デジタル気象観測装置「まちの気象台」のデータを、Webの「まちの回覧板」でシェア。

ALBIO COURT 一橋学園

●耐震木造住宅「MJ Wood」のまちづくり。子育て世代のこだわりに応える、全13戸・全戸別プラン。

●住戸・外構は異なる形・色・素材をゆるやかに統一し、心地よい一体感が生まれるように工夫。

●親子のコミュニケーションをしぜんに育む空間「コモンズ」を、すべての住戸に提案。

●駐車場の境界フェンスをなくした「陽だまりスポット」は、ご近所とのふれあいスペースに。

高い評価を得ている、環境重視のまちづくり

●誕生後10年を経過した「オナーズヒル新百合ヶ丘」(神奈川)が、1999年、グッドデザイン賞を受賞。

●定期借地権方式の「宮崎台『桜坂』」(神奈川)が、2001年、グッドデザイン賞を受賞。

●2016年、農業作業体験が可能なコミュニティ型の市民農園を併設した分譲地「オナーズガーデン昭島」が、グッドデザイン賞を受賞。

●建設大臣表彰、京都市都市景観賞、建築文化賞街並賞、建築環境賞 優秀賞、新エネルギー大賞など、多くの賞を全国で受賞しています。

オーナーさまの住まいと暮らしをサポートし、
「住まいを通じて生涯のおつきあい」。

住まいを通じて生涯のおつきあい

ミサワホームは、住まいと暮らしを
資産活用や売却をお考えのとき

Smile-ring System

あなたの暮らしに、ずっと笑顔を。
住まいるりんぐシステム。

「住まいるりんぐシステム」は、
住まいを通じてご家族の暮らしを
ずっと見守り続けるロングサポートシステム。
その時どきのご要望は「住まいるりんぐDesk」が
承り、専門スタッフが適切に対応。
住まいの価値を長く保ちながら、
ご家族に笑顔の暮らしをお届けします。

Smile-ring Next

貸せる・売れる・返せる のすべて
安心を提供し、永い人生を応援しま

JTI*へ土地・建物の実質的な権利を移転すれば住宅ローン返済を
肩代わりしてもらえる業界初の「返せる所有」をはじめ、「貸せる・売れ
住み継ぐ」の多彩な選択肢でライフデザインをプロデュースします。

【ミサワライフデザインシステム プラス】
【スムストック】
【買取再生販売制度「ホームエバー」】
【マイホーム借上制度】
【不動産流通事業】

*一般社団法人 移住・住みかえ支援機構

MisawaLifeDesignSyste
SumStock
Homever

資産活用サポート

Smile-ring Asset

あなたの資産に大きな価値をデザイ
成功までしっかりサポートします

つねにオーナーさまを第一に考え、資産価値を最大限に発揮する
活用法をご提案。自社開発の豊富なノウハウと確かな実績で、
調査から建築、アフターサポートまでトータルにお手伝いします。

【賃貸住宅事業】
【医療・介護事業】
【子育て支援事業】
【商業・ロードサイド事業】
【再開発・分譲マンション事業】

子どもたちの未来のために

HEARTH
Heart & Earth Design

ミサワホームのCSR活動のテーマは、"HEARTH"です。
親子のふれあいやご家族のつながりを深め、末永く安心して暮らせる"Heart"。
そして、自然を感じながら心地よく暮らせて、地球環境に貢献できる"Earth"。
この2つを大切にして、Heart(心、思いやり)とEarth(地球)がひとつになった
"Heart & Earth=HEARTH"の住まいをお届けすることで、
子どもたちの未来を、より美しく、より豊かな世界にする。
私たちは住まいに人と地球への思いやりをデザインします。

ミサワホームの
「4つの育む
子どもの未来を真剣に考えてい

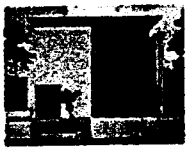
環境保全から歴史的価値のある
まちづくり、より安全・安心で
健康的な暮らし、
日本文化の継承など、広い視野で
素晴らしい住まいづくりを
考えた「4つの育む」を
お約束します。

見守る総合住宅メーカーです。建てるときはもちろん、暮らしている間も、リフォームや住み替え、タルに支える万全のロングサポートシステムをご用意しました。

価値が続く、安心が続く
万一のときも、見守っています

標準仕様で「長期優良住宅」に対応。「住宅性能表示制度」でも多くの項目で最高等級に対応可能。業界トップクラスの保証制度やアフターサービスなどで、建てたあとも永く安心です。

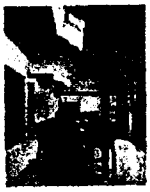
【長期優良住宅】
【住宅性能表示制度】
【住宅履歴情報システム「MECIA(メシア)」】
【保証制度】
【アフターサービス・メンテナンス】
【各種オーナーサポート】



大好きなわが家がもっと好きになる
リフォームをお届けします

ライフステージの変化に応じて、価値と快適をプラスするリフォームをご提案。戸建住宅、マンション、医療施設、介護・福祉施設、オフィス、工場など、さまざまな建物のリフォームニーズに対応します。

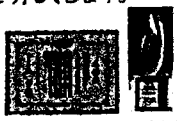
【メンテナンスリフォーム】
【デザインリフォーム】
【カラダとココロのウェルネスリフォーム】
【マンション&各種施設リフォーム】



1 環境を育む

「ECO・微気候デザイン」や新しい基準を超える高断熱性能の標準化、ECO素材や「新しい自然エネルギー」の活用で、ECO住宅の未来をもっと明るくします。

地球環境大賞 受賞


省エネ大賞「経済産業大臣賞」受賞

2 暮らしを育む

大地震に耐える住まいを設計し、被害を抑制する制震装置の全棟標準装備を目指します。歳月とともに価値を高めていく「住まい」と「まち」をデザインします。

グッドデザイン賞 受賞

消費者志向優良企業 表彰

3 家族を育む

安全を守る設計や「キッズデザイン」の普及を推進。「ライフサポートサービス」も充実させ、"休養・こころの健康づくり"ができる住まいを開発していきます。

4 日本の心を育む

家族の歴史を継承できる大収納空間「蔵」や「ECO・微気候デザイン」の普及を推進。「和の心」、日本の風土・地域に根ざした住まいの開発体制を整備します。

ECO 微気候デザイン

Index

戸建住宅:本質系
●CENTURY DESIGN OFFICE …… 4
●CENTURY …… 5
●CENTURY Stylepro …… 6
●CENTURY Primore …… 7
●CENTURY Primore3 …… 8
●CENTURY YouCourt …… 9
●CENTURY 蔵のある家 …… 10
●CENTURY SUKIYA …… 11
●INTEGRITY …… 12
●GENIUS 蔵のある家 回遊・廻廊デザイン …… 13
●GENIUS GATE …… 14
●GENIUS UD …… 15
●GENIUS UD 二世帯・三世代住宅 …… 16
●GENIUS Quake …… 17
●GENIUS 和の家 …… 18
●GENIUS YouFEMY …… 19
●GENIUS Yousai …… 20
●GENIUS Link-Age with kids …… 21
●GENIUS いろどりの郷 …… 22
●GENIUS MACHIYA …… 23
●SMART STYLE H …… 24
●SMART STYLE H スキップ「蔵」タイプ …… 25
●SMART STYLE S …… 26
●SMART STYLE B …… 27
●SMART STYLE E …… 28
●SMART STYLE O …… 29
●SMART STYLE G …… 30
●SMART STYLE K …… 31
●SMART STYLE A HIRAYA …… 32
●Grankink HIRAYA …… 33
●Famlink ZERO …… 34

戸建住宅:本造住宅
●Season j …… 36
●Season j 四季の彩 …… 37
●Season n …… 38
●MJ FRAME w …… 39
●MJ FRAME tc …… 40

賃貸集合・中層住宅
●URBANCENTURY …… 42

ミサワ資産活用
●ミサワ資産活用 …… 44
●賃貸住宅 …… 45・46・47・48
●賃貸マンション …… 49
●介護・福祉事業 …… 50
●医療・子育て支援事業 …… 51

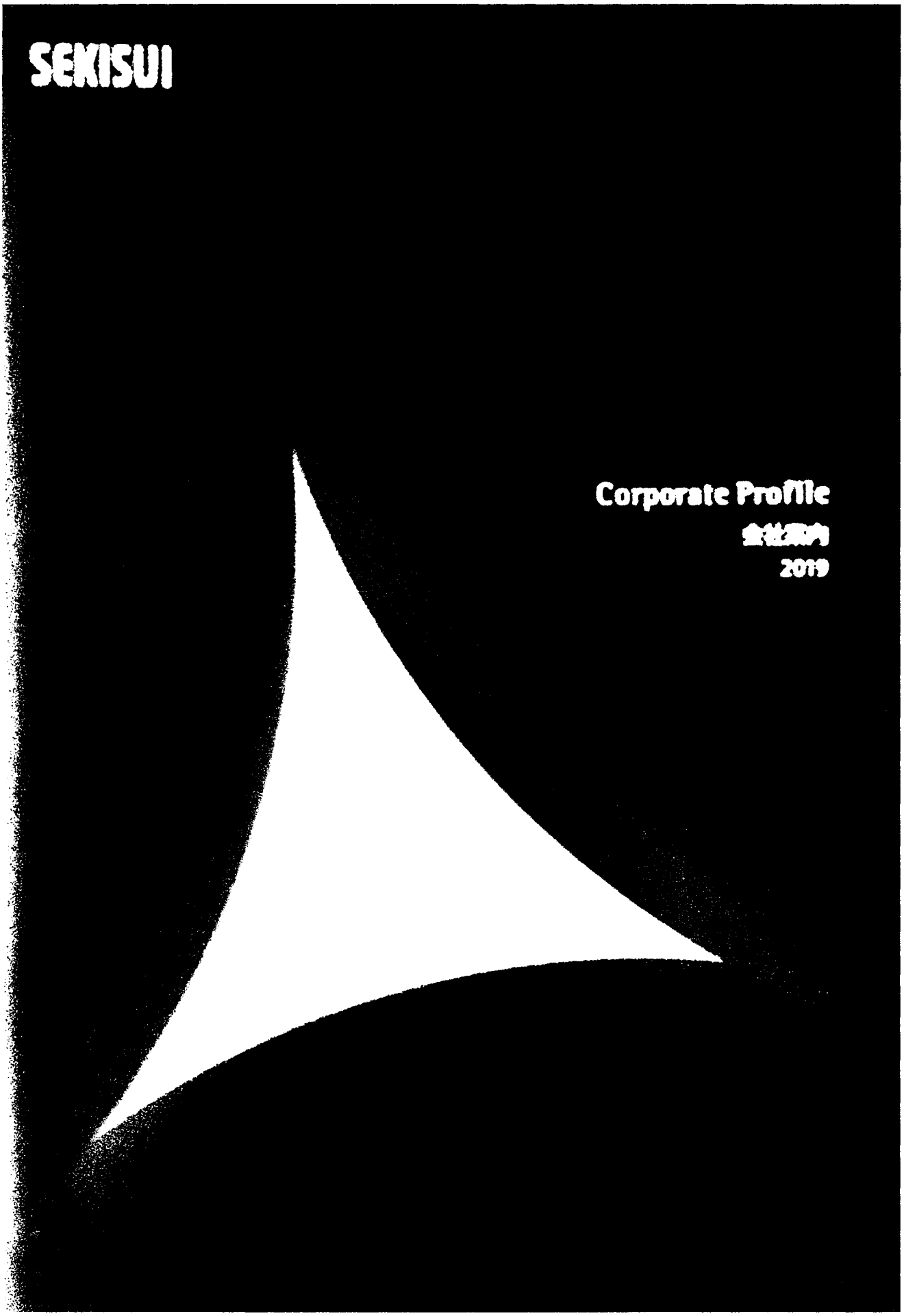
リフォーム
●ミサワリフォーム …… 53・54・55・56・57

ミサワソリューション
●CENTURY MONOCOQUE …… 59
●南極×ミサワホーム …… 60
●グッドデザイン …… 61
●大収納空間「蔵」 …… 62
●MISAWA-LCP …… 63
●「耐震」プラス「制震」の「MGEO」 …… 64
●国境保全活動 …… 65
●ECO・微気候デザイン …… 66
●ECO Flagship Model …… 67
●ゼロ・エネルギー住宅 …… 68
●まちづくり …… 69

オーナーサポート
●新オーナーサポートシステム …… 71
●ミサワライフデザインシステム プラス …… 72
●オーナーサービス …… 73
●ライフサポートサービス …… 74

資料請求
●カタログ一覧 …… 75・76

○積水化学工業（株）



History 積水化学グループのあゆみ

メーカーとして「際立ち」を磨き続けた70余年

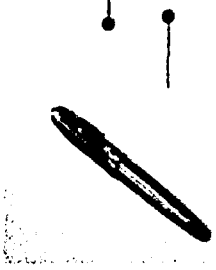
積水化学グループは、「プラスチック加工」、「住宅の工業化」にメーカーとしての矜持を持って取り組み、「住・社会のインフラ創造」と「ケミカルソリューション」のフロンティアを開拓し続け、世界のひとびとの暮らしと地球環境の向上に貢献してきました。

1947
プラスチックの総合的事業化を目指して創業

写真は1948年に開設した初の自社工場となる堺工場。

1948
日本初のプラスチック射出成形加工事業を立ち上げ

(株)セーラー万年筆藤田製作所様(現・セーラー万年筆株式会社様)からボールペンの軸を受注。日本で最初のプラスチック射出成形加工事業となりました。

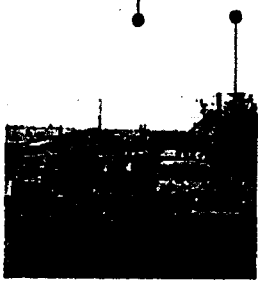


1950
セロハンテープ誕生

積水化学の最長寿製品のひとつである「セロハンテープ」。戦後、アメリカ進駐軍が持ち込んだ封筒に貼り付けてあるテープに注目した積水化学は、製造方法を研究し実用化。接着剤に関する技術、塗工技術を培っていきました。

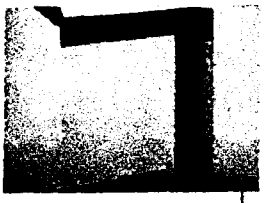
1952
塩化ビニル管「エスロンパイプ」の本格製造開始

軽くて、錆びない塩ビ製のエスロンパイプ。1955年に継手を開発したことで施工性が格段に向上し、エスロンパイプは飛躍的に普及。以後、給排水や上下水道をはじめ、電気・ガスプラントなどあらゆる分野で積水化学のプラスチック製パイプが使われていきます。



1960
合わせガラス用中間膜の製造開始

現在の積水化学の主力製品のひとつである中間膜。素材、加工技術を磨き上げ、1987年の日本での法制化を機に需要が急増していきました。

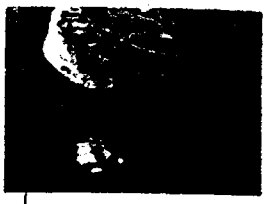


1956
日本初のプラスチック製雨とい「エスロン雨とい」を開発

錆びず、軽く、施工性に優れ、パイプ同様に、当時主流だった金属製品を代替する新製品として普及が進みました。

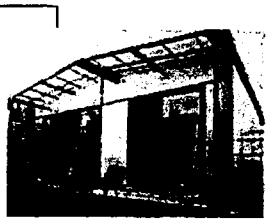
1961
プラスチック製ごみ容器「ポリペール」発売

東京オリンピックを控えた当時、東京都は、各家庭のゴミをポリペールに入れて戸外に出し、ゴミ収集車が回収してまわるという新しいゴミ処理システムの方式を採用。積水化学は、「町を清潔にする運動」をスタートし、ゴミ問題に関する消費者への啓蒙活動を展開。「事業活動を通じて、社会に貢献する」という現在のCSRの礎といえる取り組みです。



1960
戸建住宅事業に参入

"セキスイハウスA型"の試作に成功し、発足したハウス事業部を分社化、積水ハウス産業株式会社(現・積水ハウス株式会社様)を設立。



1968
発泡ポリオレフィン事業開始

[illegible]

1971
世界初のユニット住宅「セキスイハイム」を発売

工場生産と革新を備えるユニット工法による高品質・高性能、コストパフォーマンスの高さを実現したセキスイハイムは、良質な住宅の供給が望まれていた日本の住宅業界において頭角を現し、まもなく大手プレハブ住宅メーカーの仲間入りを果たしました。

1974
合成木材「エスロンネオランバーFFU」の本格製造開始

硬質ウレタンフォームをガラス繊維で包むFFUは、木材や樹脂の長所をもち、しかも軽くて強く、腐食しない特長をもつ。あらゆる分野で使用されています。特に、鉄道分野ではまくらぎとして、日本のみならず世界各地で採用されています。

1979
プラスチック機能微粒子「ミクロパール」商品化

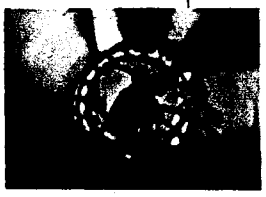
ミクロン単位でありながら、抜群にバランスがとれ、様々な機能をもちしたミクロパールは、液晶パネルなど表示デバイスの品質向上に貢献してきました。

1985
プラスチック製真空採血管「インセパック」の販売開始

1979年にメディカルプロジェクトを発足、1985年に世界初となるプラスチック製真空採血管を発売しました。割れにくく、廃棄できる製品は衛生面の向上に大きく貢献しました。

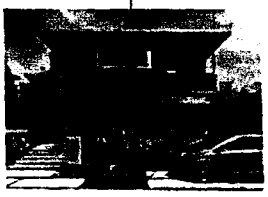
1986
管路更生工法「SPR工法」を開発

インフラを形成している古くなった管、下水道管を非開削で つ ぎ ま で 地 上 で き る 自 動 管 理 機 の 使 用 実 績 を 有 す る 管 路 に よ み が え る せる SPR工法は、国内の下水道管路更生工法のスタンダードになっています。



2016
エネルギー自給自足が可能な「スマートパワーステーション"100%Edition"」を発表

太陽光発電システム、ホームエネルギーマネジメントシステム(HEMS)、蓄電池を搭載し、電気自動車と連携させることで、エネルギー自給自足を可能にしました。



2017
創立70周年「新次元の成長」へ

70

コーポレート・全社

高機能プラスチックスカンパニー

環境・ライフラインカンパニー

住宅カンパニー

住宅カンパニー
Housing Company

住宅

設計性能通りの住まいを工場生産で実現する「ユニット工法」を駆使して、「快適」「安全・安心」「環境」に配慮した鉄骨系と木質系の住宅をご提供します。

リフォーム

当社のセキスイハイム、ツーユーホームにお住まいのお客様を中心に、長期サポートシステムによりライフステージにあわせたリフォームをご提案します。

不動産

売買の仲介やアパート・マンションなどの管理・保証など、不動産のあらゆるニーズにグループの総合力でお応えします。

住生活サービス

サービス付き高齢者向け住宅など、ライフステージ全体を通じた建物とサービスをご提供します。

○大東建託（株）

生きることは、託すこと。

大東建託は、限りある大地の最有効利用を広範囲に創造し、
実践して社会に貢献することを経営理念とし、「賃貸経営受託システム」を事業活動の核に、
賃貸建物[illegible]関連事業を、有機的に展開しています。

企画提案、設計・施工、入居者斡旋、管理運営まで「賃貸事業のすべて」を。

多くのみなさまに支えられて―

ご契約いただいている賃貸オーナー様の数

約9万人

2019年2月時点86,044人

全国の賃貸建物の管理戸数

約111万戸(※1)

22年連続業界1位(※2)

住宅供給の数

約6.3万戸/年(※3)

10年連続業界1位

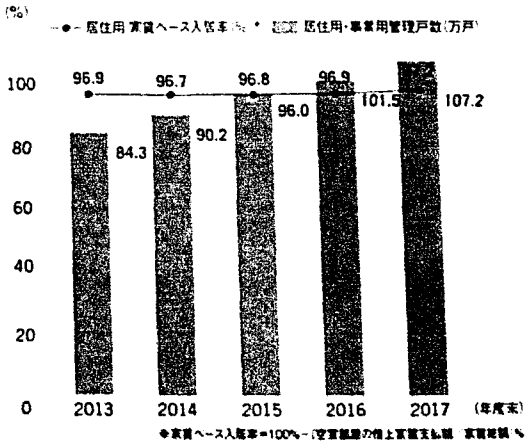
賃貸の仲介件数

約22万戸(※4)

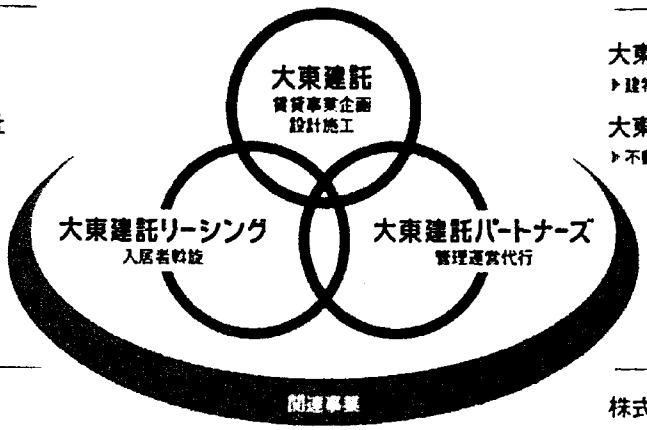
9年連続業界1位

(※1)2019年2月期 1,119,067戸
(※2)週間全国賃貸住宅新聞2018年7月30日号発表。
(※3)市場経済研究所・不動産経済研究所2018年7月発表「2017年度全国戸建供給ランキング」
(※4)週間全国賃貸住宅新聞2019年1月発表。2017年10月～2018年9月までの仲介件数(直営店舗のみ)292,554件をもとにランキング

賃貸建物管理戸数と入居率



賃貸経営受託システムを支える大東建託のグループ会社



大東建設株式会社
▶賃貸マンションの施工

大東スチール株式会社
▶鉄骨製造・施工・販売

大東ファイナンス株式会社
▶建物資金等の融資

大東みらい信託株式会社
▶不動産管理信託

ハウスコム株式会社
▶賃貸建物の仲介・斡旋

ジューシィ出版株式会社
▶賃貸情報サイト運営

ハウスリーブ株式会社
▶入居賃料等の機関保証

少額短期保険
ハウスガード株式会社
▶入居者様向け保険販売

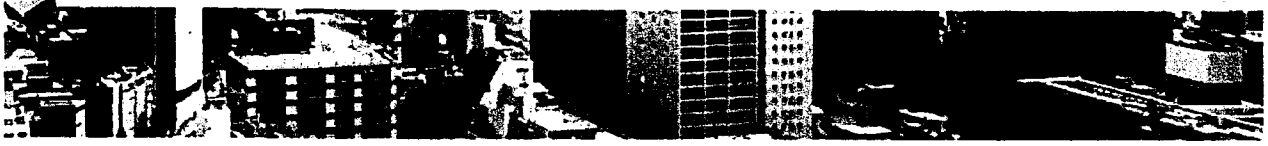
ハウスペイメント株式会社
▶クレジットカード決済サービス

株式会社ガスバル
▶LPガス工事・供給

ケアパートナー株式会社
▶介護事業・保育所事業

［ その他グループ会社 ］

大東コーポレートサービス株式会社、大東エナジー株式会社、大東アジアディベロップメント社（マレーシア）



会社概要

設立	1974年6月20日
株式	東京証券取引所及び名古屋証券取引所市場第一部上場（コード1878）
代表者	代表取締役 社長　小林 克満
業者登録	建設業：国土交通大臣許可（特-28）第7371号　国土交通大臣許可（特-29）第7371号 国土交通大臣許可（般-28）第7371号 宅建業：国土交通大臣免許（9）第3293号
資本金	29,060百万円
取引銀行	三井住友銀行、三菱UFJ銀行、みずほ銀行、その他

東証一部上場

より確かな事業サポートのために　2018年3月末現在

一級建築士	一級建築施工管理技士	宅地建物取引士	FP関連資格（1級・2級、AFP・CFP）
1,507名	2,188名	2,313名	566名

進化する賃貸住宅

DK SELECT

進化する住まい　　進化する暮らし

DK SELECTが提供するのは暮らしに合わせて形を変える「進化する住まい」。

アパートシリーズ

多彩なバリエーションで
敷地条件に合う
賃貸住宅を豊富にご用意しています。

主に木造（2×4工法、エコプレカット工法）や
鉄骨造（システムフレーム工法）等を
採用したアパートシリーズ
シングルからファミリーまで
様々な住戸プランをご用意しています。

1. ルクン
2. ルクン・パルト
3. コンテ
4. リフラ

ビジネスシリーズ

ビジネスシーンを優位に
演出する多様な物件。

大家様にはオフィス、店舗、倉庫、工場などの事業用賃貸建物や、店舗付住宅タイプのマンションなど、全国の土地情報とともに、さまざまなリクエストにお応えします。

1. ビルトイン店舗
2. 物販店舗
3. 外食店舗
4. 複合商業施設

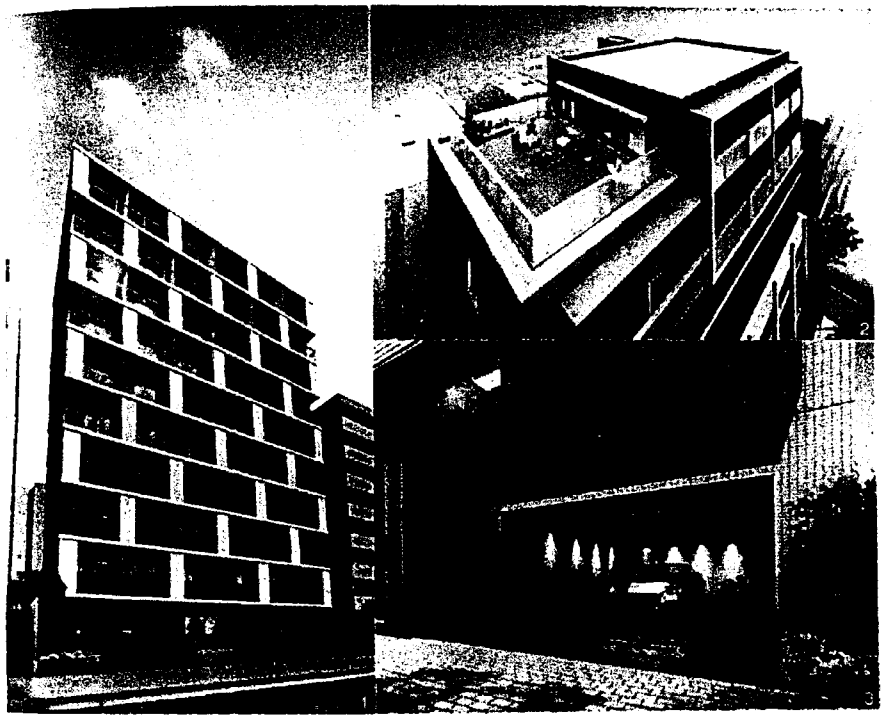
オーナー様の事業目的、
立地条件、入居者ニーズに応える建物をラインナップ

マンションシリーズ

**街並みに存在感を発揮する
スタイリッシュな賃貸住宅を
取り揃えました。**

主に鉄骨造・鉄筋コンクリート造の
マンションシリーズ。
都市部の狭小地にフィットする商品や
中高層商品など、さまざまな建物を
ご用意しています。また、特別注文による
中・大規模賃貸マンションまで、
さまざまなご要望にお応えしています。

1 リベルテ(シンプルモダンデザイン)
2 リグノ
3 リベルテ(モダンクラシックデザイン)



賃貸併用住宅

**オーナー様のお住まいに
賃貸住宅をプラス。**

自宅に賃貸住宅を併設すると、家賃収入や
税制優遇などの様々なメリットがあります。
眺望に優れた最上階プラン、
ご高齢の方でも安心な1階住戸プランなど、
オーナー様の生活スタイルに合わせた
ご提案が可能です。

1 リベルテ(コンテンポラリーデザイン)
2 リベルテ ルーフバルコニー
3 リベルテ ガレージ

○UR 都市機構

このまちの、
次の一歩を、
ご一緒に。

UR都市機構の都市再生

街に、ルネッサンス

UR都市機構

UR都市機構とは

UR都市機構は、国の政策実施機関として、地方公共団体や民間事業者との役割分担の下、大都市及び地方都市において、都市機能の高度化や居住環境の向上に資する都市の再生を実施することを目的として設立されました。

[概要]

UR　名称(愛称)　独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)
Urban Renaissance Agency

設立年月日　平成16年7月1日

根拠法　独立行政法人都市再生機構法(平成15年法律第100号)
独立行政法人通則法(平成11年法律第103号)

主務大臣　国土交通大臣

職員数　3,187人(平成30年4月1日現在)

資本金　10,747億円(平成30年3月末現在)

[沿革]

- 昭和30年(1955年)　日本住宅公団
- 昭和49年(1974年)　地域振興整備公団(地方都市開発整備部門)
- 昭和50年(1975年)　宅地開発公団
- 昭和56年(1981年)　住宅・都市整備公団
- 平成11年(1999年)　都市基盤整備公団
- 平成16年(2004年)　独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)

[業務内容]

都市再生

民間事業者や地方公共団体と協力し、政策的意義の高い事業の実施やコーディネートによる支援により、都市再生を推進します。
また、少子高齢化への対応、環境共生、安心・安全のまちづくりをテーマに地域の特性を活かし、魅力ある郊外や地方居住の実現を図ります。

賃貸住宅

約74万戸のUR賃貸住宅を適切に管理し、高齢者や子育て世代向けの住宅セーフティネットとしての役割を果たすとともに、ストックの再生・再編を推進します。

災害復興

東日本大震災等における被災地復興支援を継続するとともに、災害に強いまちづくりを推進します。

UR都市機構の都市再生

[URの目指すまちづくり]

“まちづくり”の3本柱

国際競争力強化の推進

日本の経済基盤を確立する国家的プロジェクトの推進

新たな都市拠点生活環境の整備

多種多様な都市の需要に対応したまちづくり

安全・安心まちづくりの推進

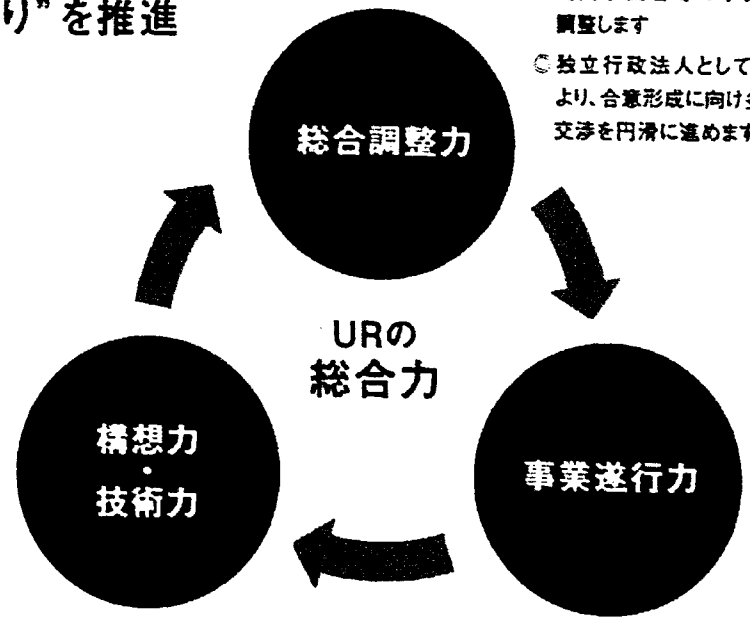
誰もが安心して暮らし、働くことができる生活拠点の形成

[URの特徴・強み]

URの総合力で“まちづくり”を推進

◎公平中立な立場で、地権者、地方公共団体、民間事業者等の事業関係者間を円滑に調整します

◎独立行政法人としての公益性・信用力により、合意形成に向け多様な地権者の方との交渉を円滑に進めます



◎まちづくりの課題を的確に把握し、地区の特性に応じた最適な事業手法、事業計画等を提案し、事業の立ち上がりをサポートします

◎基本構想の立案、事業計画の策定、工事の実施等において、都市再生に必要なソフト・ハードの確かな構想力・技術力をもって対応します

◎都市再開発法、土地区画整理法、都市再生機構法等に基づく事業施行権能が付与されており、UR施行による事業遂行が可能です

◎半世紀以上にわたる豊富な事業経験やノウハウの蓄積により、リスクをマネジメントしながら、確実に事業を遂行します

まちづくりをURの総合力でサポート

まちづくりを進めていく上での課題例

- ○権利者数が多く、合意形成に時間を要する。
- ○公有地・遊休地活用の方策がわからない。
- ○民間事業者の誘導の仕方がわからない。
- ○事業の経験がなく進め方がわからない。
- ○事業を進めるマンパワーが不足している。
- ○公平な立場で関係者との調整を円滑に進めたい。

まちづくりの段階

初動期

まちの課題、まちの将来像等の共有

- ◎上位計画、権利関係等の地区の現状を把握、開発コンセプトの策定等、各種計画の策定
- ◎まちづくり検討体制の構築
- ◎民間事業者等の需要の把握

合意形成期

事業化に向けた地権者等の合意形成など事業実現への計画・事前協議等を行う時期

- ◎土地利用計画の策定
- ◎必要な都市計画手続きに係る検討
- ◎事業手法、事業計画等の概略等の検討
- ◎事業の実現性の検証
- ◎事業スケジュール等の概略の検討
- ◎都市計画素案の策定
- ◎事業化に向けた地権者等の合意形成
- ◎民間事業者の誘導

事業実施時期

都市計画等の法手続き、地権者等の権利調整など、事業に向けて各種調整、協議を行う時期

- ◎都市計画等の法手続きの実施
- ◎行政、公共施設管理者等との協議
- ◎地権者等の権利調整
- ◎民間事業者との協議

まちづくりを進めていく各々の段階における様々な課題を解決し

これまで培ってきたURの総合力を活かし、まちづくりの段階に生じたさまざまなニーズに柔軟に対応
URがコーディネート支援から各種の事業実施に至るまで、まちづくりを総合的にサポート

URの役割

◎民間事業者が行う都市再生事業の支援
◎地方公共団体のまちづくりを支援・補完

※URは都市再生事業実施基準に基づき、国の政策実現効果、地方公共団体・地権者等の意向、民間事業者に対する支援内容等を検討するとともに、検討結果について外部有識者による委員会で評価を受けて、事業実施を判断

URが実施できること

コーディネート支援

構想段階

◎まちづくりの課題を抽出するための基礎調査の実施
◎まちづくりマスタープラン等の上位計画を踏まえ、地区の現状や課題等を把握し、まちづくりの区域や基本方針を検討
◎初動期からまちづくりに参画し、公平中立の立場から、地権者や関係者等のまちづくりに対する要望や意向を把握
◎まちづくりの支援体制として、まちづくり協議会等の設置及び運営を支援
◎事業後の保留床取得意向など、民間事業者へのヒアリング等による需要の把握

計画事業化段階

◎まちづくりに最適な土地利用計画を策定
◎実現可能なまちづくり計画や事業スケジュール等を提案
◎都市再開発法、土地区画整理法等に定められたURの事業施行権能の活用等を含めた、事業実現に向けた最適な事業制度・手法の提案
◎民間事業者の事業参画を誘導するための最適な事業スキームの構築、参画要件を企画・提案
◎事業経験・ノウハウ等を活用し多数の地権者等との交渉を円滑に推進
◎地方公共団体・民間事業者等多くの関係者間を、公平中立の立場で全体を調整

事業実施支援

事業段階

◎まちづくりに必要な場合、土地を先行取得
◎UR施行等の市街地開発事業や土地区画整理事業等の実施(面整備)
◎面整備にあわせて、直接施行制度等により地方公共団体に代わって関連公共施設を整備
◎複数の事業や公共施設整備等の多数の関係者間の工事スケジュールを調整し、事業全体を円滑に推進
◎整備敷地等を民間事業者等へ譲渡・賃貸
◎良好な環境の維持、地域の価値向上等のため、エリアマネジメントの取組みを推進

国際競争力強化 | 新たな都市拠点等の整備 | 安全・安心のまちづくり を実現

調査　2－4

事例調査

2－4―① 事例検索調査

2－4－①－ｉ 調査概要

（１）**名称**：「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する既存事例調査

（２）**日時**：令和元年 10 月 25 日：インターネット検索調査
令和元年 10 月 25 日～11 月 25 日：リスト化・分類・分析

（３）**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会において、どのような状況にあるかをこれまで行われた事例、まちづくりファシリテーターに関する論文、学校、行政、民間などの取り組みを中心にインターネットの検索機能を用いて調査、収集、分類、分析を行う。

（４）**方法**：インターネット検索サイト Google での検索機能を用いて、下記のキーワードでの検索を行う。（日本語サイトを中心とする。）
・キーワード：「まちづくりファシリテーター養成講座」
重なったものを除きプリントアウトしファイル化。
その後事例ごとにナンバーリングを行い、その内容、特徴をリスト化した。

（５）**母集団と標本サイズ**
検索結果によるヒット数：１０３件
同じ内容のもの感想などを除き、概要がわかるもの　　54 事例（講座）

（６）**分析**
分析項目：・実施年　　・行政の介入（共催、助成金含む）（あり／なし）
・回数　・資格の有無
・参加者（一般／学生／在住、在勤、在学／建築都市の専門家／その他）
・講座形式（講義／実践／疑似実践／講義＋疑似実践／講義＋実践）
・人材育成・講義の専門分野、目的
（地域づくり・まちづくり（社会学）／まちづくり（建築・都市）
／福祉／教育／芸術／不動産／ビジネス、インキュベーション／その他）
・講義内容　キーワード羅列

2－4－①－ii　結果

（1）事業一覧

	名称	主催
1	弘前市　まちづくりファシリテーター養成講座	弘前市市民協働政策課
2	認知症まちづくりファシリテーター養成講座	NPO法人認知症フレンドシップクラブ
3	市民ファシリテーター養成 ～官民協働から民主体のまちづくり実現にむけたひとづくり	（株）インソース（人材育成関連企業）
4	青森 「ファシリテーター養成講座&まちづくり市民ワークショップ」	青森商工会議所商工振興課
5	石垣市　「まちづくりファシリテーター養成講座」	会議ファシリテーター普及協会へ委託
6	金沢市　コミュニティ・コーディネーター育成事業	金沢市市民協働推進課
7	多摩地域 ルーテル学院大学主催「地域福祉ファシリテーターの養成 「福祉のまちづくりを協働して推進する人になろう」」	三鷹市武蔵野市小金井市社協・武蔵野市民社協・ルーテル学院大学共催
8	ひろしま「ファシリテーター養成講座（まちづくり市民交流プラザ）」	広島市まちづくり交流プラザ
9	三沢市　「まちづくり市民ファシリテーター養成講座」	三沢市市民協働推進部
10	さいたま市　平成３０年度マッチング事業 「高校生ファシリテーター」養成講座	特定非営利法人Arts&Helthさいたま、さいたま市市民協働推進課
11	ハッピー・ファシリテーター養成講座	暮らしデザイン研究所	暮らしデザイン研究所
12	滝沢市　みんなでつくる滝沢市のまちづくりファシリテーター養成講座　２０１５	特定非営利法人点空社、滝沢市企業振興課
13	石川県／ファシリテーター養成講座 - 石川県ホームページ	教育委員会生涯学習センター
14	倉敷市　まちづくり人材養成講座（平成25年度開催）	市民活動推進課/倉敷市
15	八戸市協働のまちづくり研修会「まちづくりファシリテーター養成講座」	八戸市市民連携推進課
16	西宮市　ファシリテーター養成講座 ~上手に話し合いを進めるために	西宮市市民交流センター
17	長浜市　ファシリテーション力養成講座	ながはま市民活動センター
18	いちのせき市民活動センター　　まちづくりコーディネーター養成講座	いちのせき市民活動センター
19	牧之原市	市政情報	対話による協働のまちづくり	牧之原市地域振興課
20	いわて　　NPO法人いわてNPOフォーラム21 「まちづくりを促進　ファシリテーター養成講座」	NPO法人いわてNPOフォーラム２１
21	長野　まちむら寄り添いファシリテーター養成講座(第Ⅱ期)「基礎編」第１回	長野県教育委員会
22	都市計画コンサルタント協会　　『ファシリテーター養成講座』	都市計画コンサルタント協会
23	網走　市民活動支援セミナー　　活動実績 - kitanowa	網走市、Kitanowa
24	岩国市　ファシリテーター養成講座心地よい会議をしませんか？	いわくに市市民活動支援センター
25	小松市　　ファシリテーター養成講座 参加者募集	こまつまちづくり交流センター	小松市ふるさと共創部市民協働課
26	神奈川　防災教育ファシリテーター養成講座（初級編）	神奈川コミュニティカレッジ事務局　かながわ３１１ネットワーク
27	奈良県防災士会　　災害図上訓練「DIG」ファシリテーター養成講座	奈良市防災センター
28	静岡　コミュニティファシリテーター養成講座	コミュニティファシリテーター要請講座
29	穂の国とよはし芸術劇場　　ワークショップファシリテーター養成講座2019 前期	穂の国とよはし芸術劇場　PLAT
30	新居浜市　　高校生ファシリテーター養成一日集中講座について	新居浜市地方創生推進課

	名称	主催
31	日本経営グループ　ファシリテーター養成講座	（株）日本経営コンサルタント
32	津山市　リーダー養成講座・ファシリテーター交流会	津山市
33	鎌ケ谷市　地域づくりコーディネーター要請講座２０１３	鎌ケ谷市
34	福岡　ファシリテーション研修～人と人、人と地域、人と街をつなぐデザイン～	民間主催　岩永
35	土木学会　記事　『ファシリテーターって何者？』	ファシリテーターの役割などについて書いている
36	川西町　川西町まちづくりマイスター養成講座	川西町役場まちづくり課
37	西宮市　まちづくり人養成講座	西宮市警官まちづくり課
38	大垣市　ファシリテーター養成講座	NPO法人大垣まちづくり市民活動支援会議
39	徳島県　「社会教育ファシリテーター（学びのファシリテーター）」	徳島県教育委員会、徳島県立総合大学、
40	三重県津市　ファシリテーター養成講座2017_2018 of 津あけぼの座	特定非営利法人パフォーミングアーツネットワークみえ
41	長野　えんげきワークショップ・ファシリテーター養成講座	長野市文化芸術振興財団
42	福岡ほか　ウェルビーイングの研修会　ファシリテーター養成講座	NPO法人ウェルビーイング
43	名古屋市　なおあや市民大学　人権啓発ファシリテーター養成講座　気づき　学びをまちづくりへ	名古屋市教育委員会生涯学習課
44	奈良県建築士会　まちづくりファシリテーター 養成講座	奈良県建築士会　　後援奈良県
45	指宿協働カレッジ　ファシリテーター養成講座	指宿市共同カレッジ事業
46	愛知県知多郡東浦町　ファシリテーター養成講座	東浦町企業政策課
47	長崎伝習所　まちづくりリーダー育成（2か年）事業	長野県伝習所
48	陸前高田市　ファシリテーター養成講座 - 陸前高田市まちづくりプラットフォーム	あしなが育英会陸前高田
49	東京都　ファシリテーター養成講座~環境イベントデータベース 環境らしんばん	NPOエココミュニケーションセンター
50	大阪府／豊中市　親学習ファシリテーター養成講座 訪問記録	豊中市教育委員会主催
51	倉敷市　倉敷市地域ファシリテーター養成のためのまちづくり人材育成講座 ファシリテーター になって、 地域サロンを 開催しよう！	倉敷市市民活動推進課
52	東京都大森 防災ファシリテーター養成講座全5回修了	総裁なし
53	徳島県　「フューチャーデザイン ファシリテーター養成講座」	徳島大学地域創生センター
54	広島市子ども参加の ファシリテーター 養成講座	広島市

※上記表の順番はインターネット検索による検索順位を表す。

（2）代表的事例（インターネット検索調査より）

福祉系代表事例１事例、建築系代表事例１事例について検索されたHPを掲載する。

（福祉系代表事例）

表番号７　多摩地域 ルーテル学院大学主催「地域福祉ファシリテーターの養成「福祉のまちづくりを協働して推進する人になろう」」

安全ではありません — luther.ac.jp

ルーテル学院大学

大学概要　入試・入学案内　学部・大学院　キャンパスライフ　キャリア・資格

トップ > 大学概要 > 附属機関・施設 > コミュニティ人材養成センター > ファシリテーター養成講座

ファシリテーター養成講座

福祉のまちづくりを協働して推進する人になろう!

地域福祉ファシリテーターとは?

住民の立場から、地域の福祉課題や地域の中で支援を必要としている人を発見し、自らが持つ能力や人脈、社会資源を生かしながら、具体的な「新たな支え合い」活動を企画・実施する中核となる人々のことを指します。この講座では、講義だけでなく、体験的な演習やフィールドワークを盛り込み、講座修了後には、具体的な「新たな支え合い活動」が実際に展開されることを目標としています。

受講要件

三鷹市、武蔵野市、小金井市のいずれかに在住の方。
自らが住む地域を大切に思い、その福祉になんらかの形で貢献したいという思いがある方。これからボランティア活動・地域活動を始めたい方、すでに行っているけれどより活動を充実させたいという方。
上記以外に、各市で受講要件を定めている場合がありますので、詳細はお住まいの各市社会福祉協議会にお問い合わせください。

年間スケジュール

	プログラム	日程
1日目	講義「これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割」 講義と演習「地域で役立つ社会資源を発見する」	7月7日(土)
2日目	演習「地域の福祉課題を考えよう」	7月21日(土)
3日目	講義と演習「地域でサポートするときの人との関わり方」	8月4日(土)
4日目	実践交流「地域の活動実践交流～講座修了生の活動を知ろう～」	8月25日(土)
夏のグループ学習	「地域の福祉課題を調査する」全4回	9月1日(土) 9月29日(土) 10月13日(土) +ヒアリング1日
5日目	福祉課題レポート発表	10月27日(土)
6日目	講義と演習「活動の計画をたてる手法を学ぶ」	11月10日(土)
冬のグループ学習	「福祉課題解決に向けた『新たな支え合い』活動を企画する」	11月17日(土) 12月1日(土) 12月15日(土) 2019年1月12日(土)
7日目	プレゼンテーション「私たちが企画する『新たな支えあい』活動」修了式	2019年1月19日(土)

大学概要
- 大学概要
- 建学の精神とその使命
- ルーテルのキリスト教教育
- マルティン・ルター
- 学長メッセージ
- 学院のあゆみ
- ルーテルのネットワーク
- 法人概要
- 情報公開
- 大学の取り組み
- 附属機関・施設
  - 附属機関・施設
  - 臨床心理相談センター
  - コミュニティ人材養成センター
    - コミュニティ人材養成センター
  - 包括的臨床コンサルテーション・センター
- 寄附のお願い
- キャンパス紹介
- 公開講座

※全て土曜日、時間は13:10～16:20を予定しています。
※会場はすべて「ルーテル学院大学の教室」を予定しています。

主催

三鷹市・小金井市・武蔵野市の3市行政および3市社会福祉協議会
ルーテル学院大学

担当教員

和田敏明、椎島喜代子(3日目のみ)、山口麻衣、秋貞由美子、長島明子

本講座の申込先

お住まいの社会福祉協議会にお申し込みください。社会福祉協議会によって申込期限が異なりますので、ご注意ください。
・三鷹市民の方：三鷹市社会福祉協議会 地域福祉係
・武蔵野市民の方：武蔵野市民社会福祉協議会
・小金井市民の方：小金井市社会福祉協議会

ルーテル学院大学
〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20 TEL.0422-31-4611(代)

日本ルーテル神学校　ルーテル学院大学図書館

プライバシーポリシー　|　サイトマップ
Copyright© JAPAN LUTHERAN COLLEGE.
Page Top

（建築系代表事例）

表番号４４　奈良県建築士会　まちづくりファシリテーター 養成講座

まちづくりファシリテーター養成講座

住民参加型まちづくり（例；景観まちづくり、まちづくり構想、街路・公園・広場・公民館・学校などの公共施設づくり、まちづくり型イベントなど）や地域・市民活動団体・大学・行政等が協働する場でのワークショップで、進行役として活躍する「まちづくりファシリテーター」の技術を学ぶ、２日間集中型の講座です。

あなたもワークショップのファシリテーターになれる

日　時　平成２２年２月６日（土）午後２：００～午後６：００
　　７日（日）午前９：３０～午後４：３０の全２回

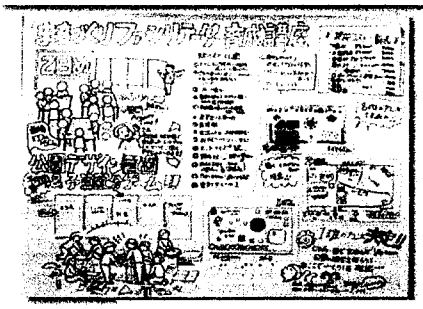
会　場　エルト桜井まほろばセンター（桜井駅南口すぐ）２階研修室３，４
　　両日とも

講　師：講師と全体サポート
　　山本　一雅さん（財団法人まちづくり市民財団理事）、他
　　（同）まちづくりファシリテーター養成委員会メンバー
　　講師
　　伊藤　雅春さん（愛知学泉大学コミュニティ政策学部教授）

定　員：５６名　※申込締切日 2010 年 2 月 1 日まで（先着順）

参加費：無料（昼食は各自負担、交流会は希望者のみ有料）

対　象：まちづくり、ワークショップ、ファシリテーターに興味のある行政または、大学生または、建築士ならどなたでも。ただし、２日間受講可能な方。



主催；（社）奈良県建築士会　　後援；奈良県

まちづくりファシリテーター養成講座申込書　申込先　FAX　0742－33－4333（建築士会事務局）

氏　名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

連絡先　TEL＿＿＿＿＿＿＿＿　FAX＿＿＿＿＿＿＿＿　メール＿＿＿＿＿＿＿＿

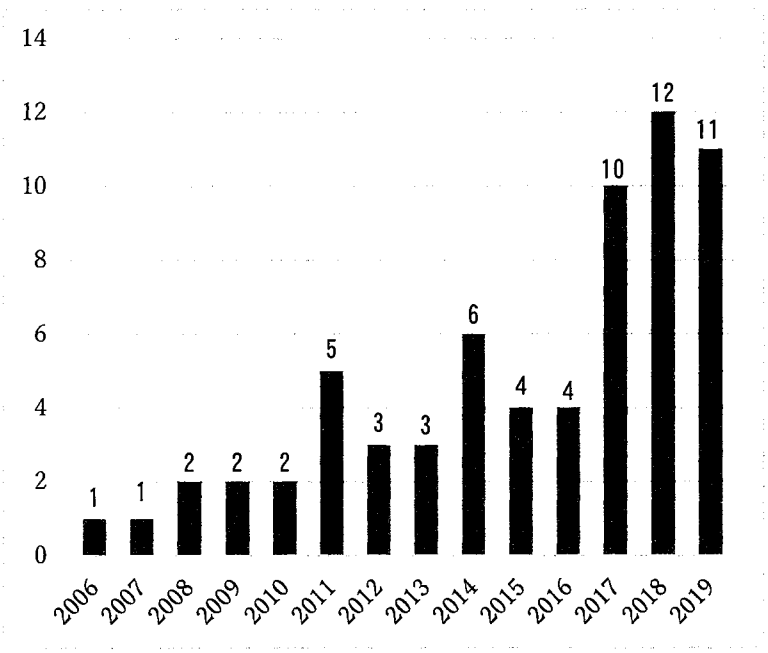
種　別　行政関係者・大学関係者・建築士会員・建築士・その他（　　）←複数可

職場・団体名など＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

交流会（6 日 18：00～　鳳凰屋桜井店　会費制）に　参　加　・　不参加

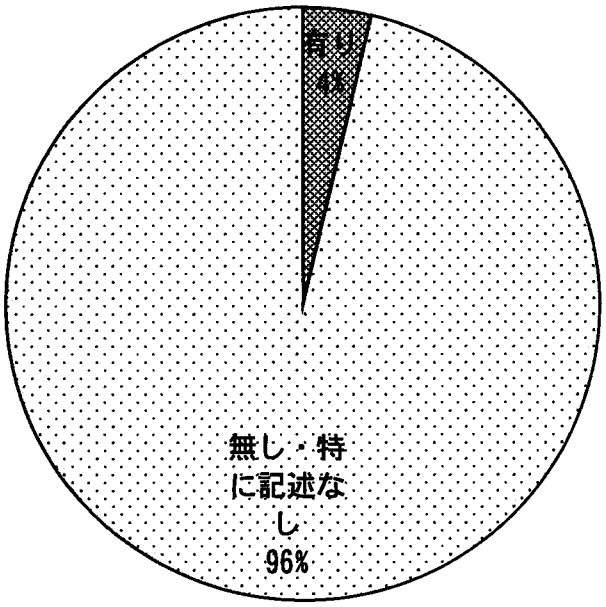
（３）分析結果

① 開催年



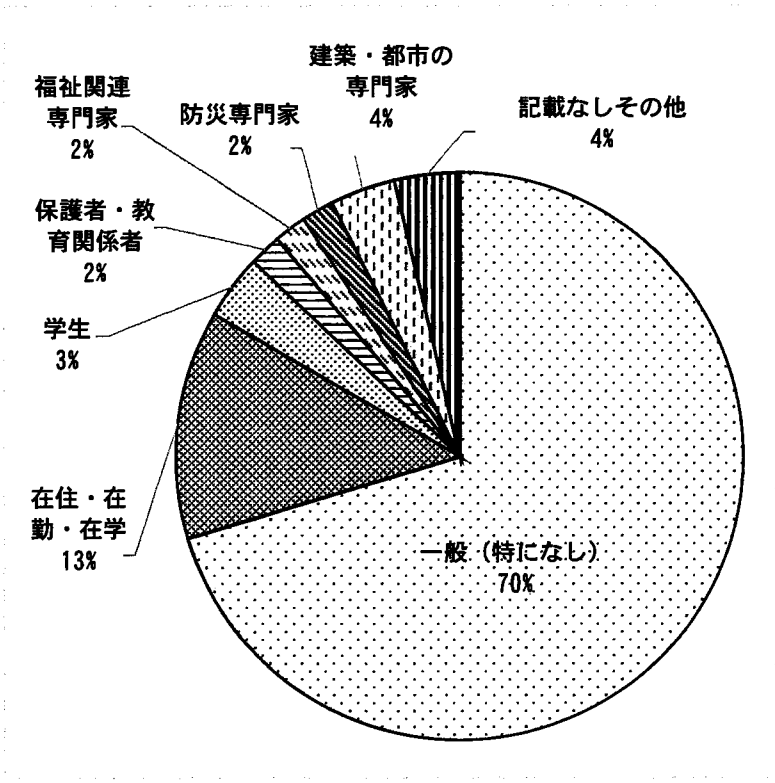
インターネットで検索されたまちづくりファシリテーター養成講座の開催年についてまとめたものが左記のグラフ「①開催年」である。
まちづくりファシリテーター養成講座は2006年から年間１、２件のペースで開催が始まっている。2011年からは年間５件の開催に数が増加した。さらに2017年以降に開催数は増え、毎年10件を超える講座が行われている。

② 行政の関わりの有無



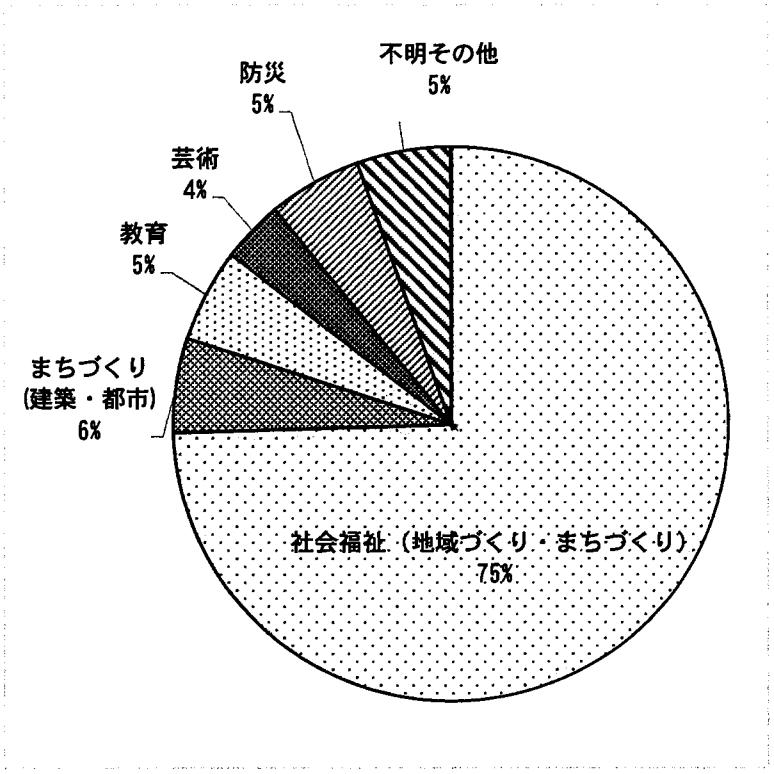
インターネットで検索されたまちづくりファシリテーター養成講座について、行政との関わりの有無についてまとめたものが左記のグラフ「②行政関わりの有無」である。
まちづくりファシリテーター養成講座の開催については主催、共催、問い合わせ先など、何らかの形で行政が関わって開催されるケースが多く、72%の講座においてなんらかの形での行政の関わりが認められた。
その行政は県、市、町の地方行政団体に限られていた。
（事業一覧参照）

③　講座対象者



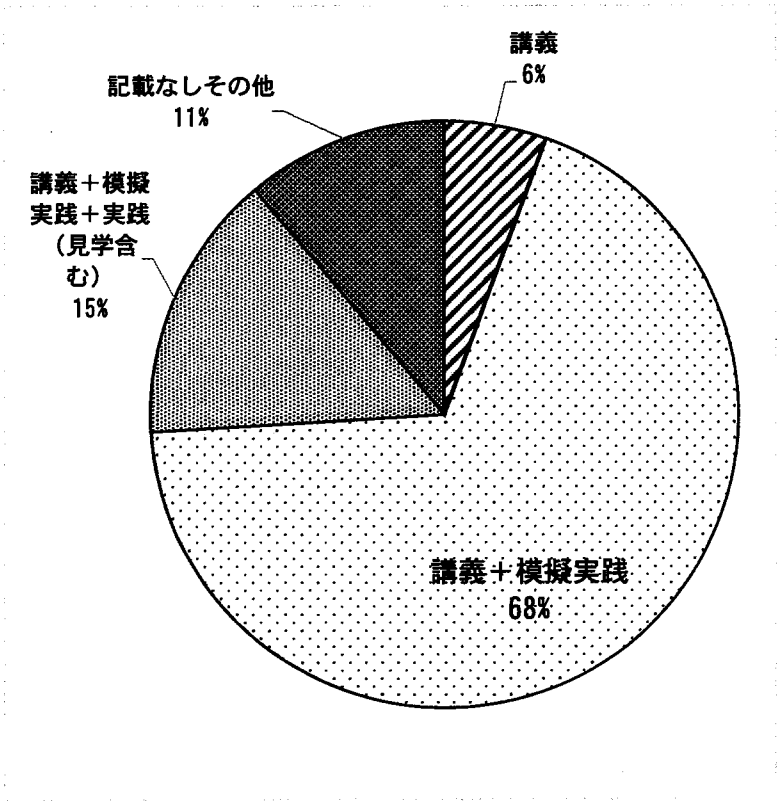
講座に参加する対象者についてまとめたものが左記のグラフ「③講座対象者」である。特に参加資格がなく、どなたでも参加できる「一般（特になし）」が７０%と最も多く、続いて開催地域在住・在勤・在学が１３%と２番目に多くなっている。この二つで８割を超えており、これまで行われてきたまちづくりファシリテーター養成講座の対象が開催地域に関わっている一般の方々を対象にしていることがわかる。一方、専門家もしくは専門家を目指す学生を対象としている講座は合計しても１５%程度にとどまっている。特に建築・都市の専門家を対象にした講座に着目すると4%、過去１０年間で２件のみの開催となっている。

④　目的・人材育成の分野



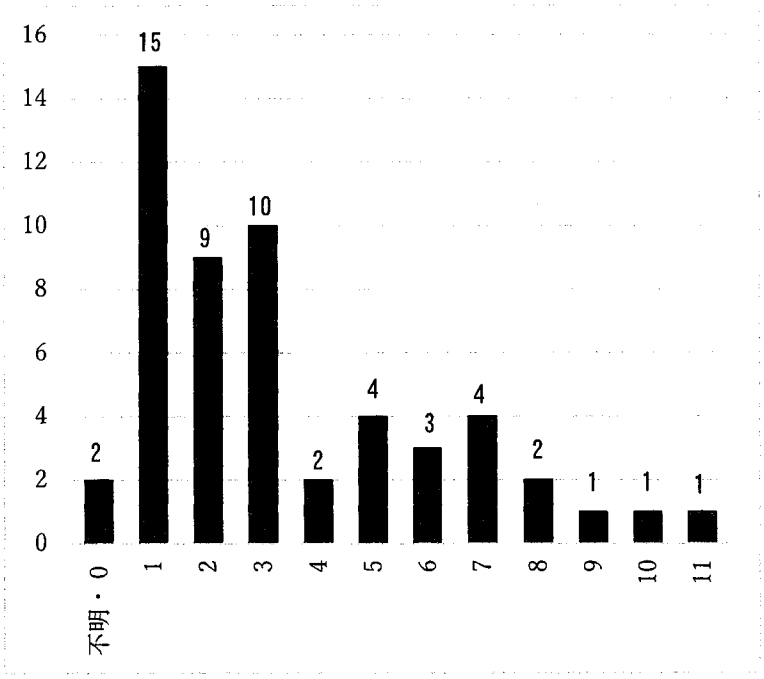
講座の目的についてその分野をまとめたグラフが左記の「④目的・人材育成の分野」である。社会福祉分野での地域づくり・まちづくりが７５%と一番多く、これまでに開催されてきたまちづくりファシリテーター養成講座の大半を占めている。

⑤　資格・認定証の有無



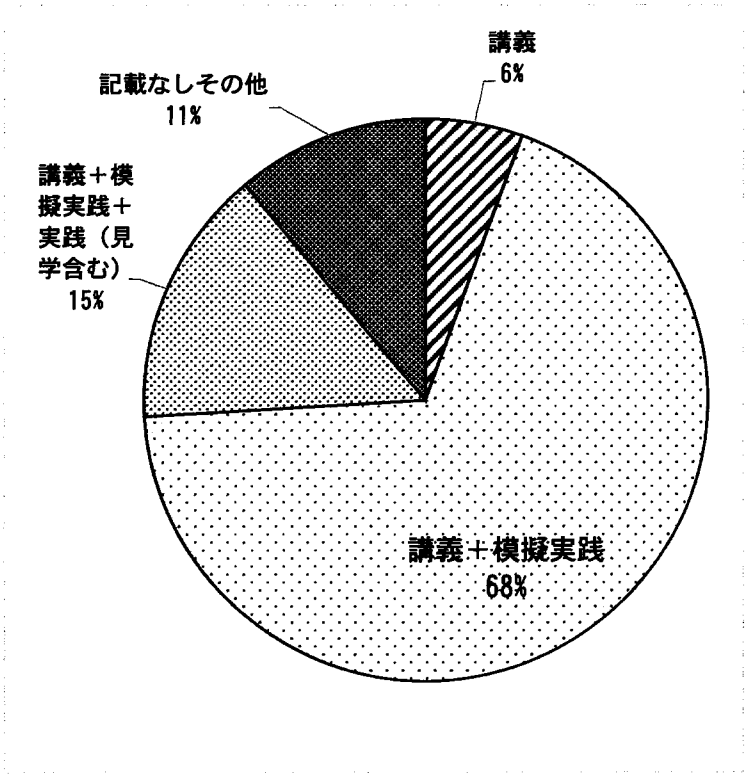
まちづくりファシリテーター養成講座について、講座の修了者に対して、資格・認定証があった、もしくは渡されているかを示したものが左記のグラフ「⑤資格・認定証の有無」である。９６%とほとんどの講座において「なし・特に記載無し」となっている。中にはインターネットでの募集要項などには記載してないだけでモチベーションアップを目的で記載していたケースなどもあるがあまり重要視されてはいない。

⑥　講義回数



講座で実施された講義回数についてまとめたものが左記のグラフ「⑥講義回数」である。最も多いのは１回で１５講座、ついで３回の１０講座、２回の９講座となっている。講座の開催回数が３回以内の講座を合計すると３４講座となっており、全体の６割を超える講座が３回以内の短期講座である。５～７回は一定数あるが、９回以上は少ない。

⑦　講義形式



これまで開催されてきたまちづくりファシリテーター養成講座の講義形式について示したものがグラフ「⑦講義形式」である。講義＋模擬実践が６８％と最も多く、ついで講義＋模擬実践＋実践（見学など）が１５％となっている。この二つを合わせると８３％となっており、実践が行われている講座が８割を超える結果となっている。一方で講義のみで行なっている講座は６％と少ないことがわかる。

⑧　講義内容キーワード羅列（順不同）

過去に行われたまちづくりファシリテーター養成講座において行われてきた講座内容について、登場するキーワードを順不同で羅列したのを下記に示す。ここから、その講座内容の多くが合意形成のための手法について行われたものが多いことがうかがえる。

- ワークショップ
- アイスブレイク
- ファシリテーショングラフィックス
- KJ法
- ブレインストーミング
- ロールプレイング
- ワールドカフェ
- 順位決定
- ファシリテーションロケーション
- フィールド調査
- フレーミング
- チームビルディング

2－4－①－iii　考察・まとめ

まちづくりファシリテーター養成講座に関するインターネットによる既存事例調査からの結果と社会的な情勢などを鑑みて考察・まとめを行ったものを以下に示す。

○まちづくりファシリテーター養成講座は２００６年から社会福祉分野が先行して徐々に講座が開始されており、年々増加している。特に近年の３年間では１０件を超える講座が行われるようになっており、その必要性は高まっている。

○既存で行われてきた講座の目的はまちづくり＝地域づくりと捉えており、地域づくりのための住民のリーダーを養成することが目指されている。

○開始された時期や講座数が急激に増加した時期について着目すると国が打ち出した政策や社会的な出来事などとの関係性が考えられる。開始された２００６年の直前には市町村の平成大合併が行われ、まちづくりや地域づくりを各自治体主導で行うことがスタートした頃である。また５件を超えた２０１１年は東日本大震災が発生した年であり、地域コミュニティとそれを基盤にした住民主体のまちづくりの必要性が高まった年である。１０件を超えた２０１７年には地方創生の必要性が高まり、その結果、地域活性化伝道師などの制度も国主導でスタートした頃と符合する。そういった観点からもまちづくりファシリテーター養成の必要性は高く、それに応える形で社会福祉系の分野を中心に地域づくりの住民側のリーダーといえるファシリテーターが誕生しつつあると考えられる。

○一方で建築・都市に関する専門家を対象にした講座はほとんど実施されていない。

○これらを合わせて考えるとまちづくりの為の住民側の人材育成は進んでいるものの、そこに応える形で協働してまちづくりを行う為の専門家養成は遅れており、その育成が求められる。

○既存の講座では、資格や認定証について募集時に記載されていない講座が多く、あまり重要視してはいない。それでも一定の参加者がいることにその必要性がうかがえる。

○まちづくりファシリテーター養成講座の講義形式の多くにおいて模擬実践、もしくは実戦と講義を組み合わせた形で行われてきており、コミュニケーション能力など教育目的から考えても、実践の重要性がうかがえる。

○実践とはいえ、見学や合意形成ワークショップなど様々なものがあり、地域において実践をどのように行うか？工夫が必要であると考える。

○既存事例の多くが行政との関わりを持って実施されている。これはまちづくりという内容とその実践。模擬実践を行うことを考えると行政との関わりは必要なことであり、今後、この講座においてどのように行政を巻き込んでいくかが課題となる。

○既存の講座は短期的な講習がその多くを占めている。また、職業教育の一環として学校で行われたものは殆どなく、体験的な講座をどのように実施するかなどの検討が必要である。

（以上）

2－4－② 事例代表者ヒアリング調査

2－4－②－ｉ　調査概要

（１）**名称**：「まちづくりファシリテーター養成講座」に関する代表事例ヒアリング調査

（２）**日時**：令和元年 12 月 6 日（金）　午前

（３）**目的**：まちづくりファシリテーター養成講座について、現状、社会において、どのような状況にあるかをこれまで行われた事例の中から代表的と思われる１事例について、実施状況、目的、講座の概要、講座の実施方法、人材育成上の留意点などについて調査を行う。

（４）**方法**：本調査に先立って行われたインターネットを使った事例調査の中で代表的と思われる１事例の代表者について半構造化インタビューを実施。その議事録を作成し、内容の把握と記録を行う。

（５）**対象**：多摩地域 ルーテル学院大学主催「地域福祉ファシリテーターの養成
「福祉のまちづくりを協働して推進する人になろう」

選定の理由

先立って行われたインターネットを使った調査において、その大半を占めていた一般の地域住民を対象とした講座であり、その目的・分野も最も多かった社会福祉を目的とした講座であった。また、本年で１１回目（11 年目）を迎え、現在でも継続して行われていること、同時に一期の開催において１１回の講座と行うなど、単発の講演会形式ではなく、体系的に行われていることが予想されたことが選定の理由である。

2－4―②― ii　結果（調査報告書）

□調査記録 20191206

調査４　事例調査　事例代表者ヒアリング調査

記録：松村哲志

■**項目**：調査４　事例調査　事例代表者（主催者）ヒアリング調査

■**日時**：令和元年 12 月６日（金）

■**目的**：先に行われた事例調査中の代表事例主催者としてヒアリングを行い、経緯、目的、方法、課題、現在の社会ニーズなどを調査

■**場所**：ルーテル学院大学　学長室

■**参加者**

（調査先）	ルーテル学院大学	学長	市川　一宏
（調査委員）	日本建築まちづくり適正支援機構		連　健夫
	日本工学院専門学校		松村　哲志

■**内容**（連氏より本事業の目的と経緯、事業内容について説明した後に、ルーテル学院大学における地域福祉ファシリテーター養成講座についてヒアリングを行った。）

①経緯

・社会福祉を教育目的としたこれまでの地域、行政（社会福祉協議会など）とのつながりの議論から孤立などの地域の問題解決を行う地域活動をバックアップする必要性から地域で活躍する、そして地域住民をまとめ活動する人材養成の議論が自然と高まり、三鷹市武蔵野市小金井市の３市の住民を対象に講座がスタートした。（本年度から調布市が加わる）

②募集・体制

・受講者は社会福祉協議会を通じて募集
・参加費は無料（行政による募集ホームページより）
・講師はルーテル学院大学の先生が行なっている。
・大学、行政、社協が契約を結び行なっており、この行政を巻き込む体制が大変に重要。
・学生の参加があり、選択科目で学生たちは同じ講座を受講することができる。

③講座内容

・受講内容は様々な活動をおこなうための講義から始まり、その後実際に地域に調査を行い、最終的に自分がそこで行う地域活動のプランの策定、発表を行う。
・この実践が大切でこれを行わなければ絵に描いた餅では学べない
・卒業時には認定証を発行。それを持って実際に地域活動を多くの方が行なっている。
・その後のバックアップは大学ではなく、地域の社協が行なっている。

④素養

・素養が大切。全ての人がその目線・態度で行えない。必要性のある人が受けることが重要。
・素養とはプロセスを大切にできるか。様々な意見があり、それは地域によって課題も違

えば内容も違う。その多様なものに耳を傾けあい、お互いに聞くというそのプロセスこそが大切であると考えられるか。そういった態度や目線を持てるか？が素養であり、それを身に付けるのは実践である。

・建築士などの士業の人たちの参加はあまり記憶にない。目的は住民ということもあるが士業の人は知識を持つプライドなど、自分の意見を題してしまう傾向があり地域では浮いてしまう傾向にある。

・人々をつなぐ素養を持つことが大切で、それは現場に行き、住民と直にふれあい、テーマを見つけ考え、そこから出てきたものからプランし、現実的にできるかまで考えないと難しい。

⑤課題・留意点

・リサーチも大切である。地域をよく見て、その課題を発見し、実際にどうしたら事業となるかを考える。

・今後の課題としては現在的なテーマにどのように対応して行くか？その体制づくり、テーマ設定などが求められる

・今後への課題としては参加者層のひろがり含め、他の地域、横への広がりをテーマを模索する意味でも必要性を感じている。

・「まちづくりファシリテーター養成講座」は素晴らしい試みなので是非、頑張ってもらいたい。

■入手資料

・「ルーテル学院大学コミュニティ人材養成センター」／ルーテル学院大学

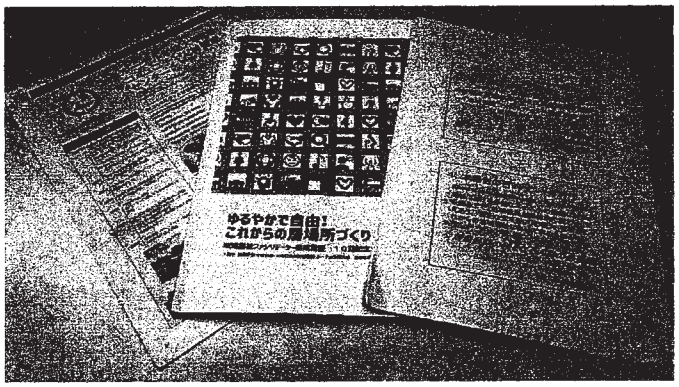
・「大学・行政・社協の協働による地域福祉活動の核となる住民養成の可能性～「地域福祉ファシリテーター養成講座」の取り組みから」／2011 年 6 月 5 日　日本地域福祉学会第 25 回大会分科会報告／ルーテル学院大学　秋貞由美子

・「ゆるやかで自由！これからの居場所づくり」地域福祉ファシリテーター養成講座 10 期記念／三鷹市・武蔵野市・小金井市・三市社会福祉協議会・ルーテル学院大学　協働事業／地域福祉ファシリテーター養成講座 10 期記念事業実行委員会／2018 年 8 月

ルーテル学院大学キャンパス（正門より）

ルーテル学院大学校舎（講座会場）

学長室にてヒアリング



資料：ルーテル学院大学コミュニティ人材養成センター資料、地域福祉ファシリテーター
養成講座 10 期記念資料ほか

2－4―②―iii　考察・まとめ

先行事例であるルーテル学院大学における地域づくりファシリテーター養成講座の主催者ヒアリング結果から、以下に考察・まとめとしてあげた。

○本事業のまちづくりファシリテーター養成講座に関して大変に意義のあることだと思うのでぜひ頑張って欲しい、と賛同意見をいただき、当事業実施の必要性を感じた。
○ルーテル学院大学で行われている講座ではすでに地域でのまちづくり活動、地域づくり活動を行っている方、もしくはこれから行おうとしている地域住民のリーダーを対象に行っている。講座を実施するにあたり対象者を明確にすることは大切である。
○そのこともあり、講座では受講生が受講後に地域に戻って行うまちづくり、地域づくり活動のプランニングをする実践とその基礎となる講座、指導を行っている。実践的講座の重要性が理解できる。
○卒業生の多くが卒業後に地域においてまちづくり活動、地域づくり活動を行っている。
○その意味で実践を大変に重視しており、今回、開発をおこなうまちづくりファシリテーター養成講座においても実践を重視する必要があると考える。
○その理由としてはまちづくりファイシリテーターとしての素養を作ることが大切である。このため、募集時にまちづくりファシリテーターとは何かを分かりやすくすることが大切である。
○素養とはプロセスを大切にできるか？様々な意見に耳を傾ける態度（Attitude）をどのように育成するかである。その為に実践は重要な役割を担っている。
○その意味からいうと実践のやり方やその質も重要である。これまでの講座での経験からいうと、リサーチが大切であること、現場に行くことが大切であること、実際の住民と触れ合うことが大切であること、そこで何を見つけ何を考えるかが大切であること、人と人をつなぐ素養を持つことが大切であることなどがあげられる。
○地域との繋がりが大切であり、ルーテル学院大学での講座の場合、地域の社会福祉協議会と契約を締結して募集や予算など様々な面で連携をしている。行政を含め連携は大切である。
○そういった意味で本事業においてどのように行政との関係を築くか？また、実施される場所ごとでの関係性の築き方を上記のような目的を達成できるような形で構築していかなければならないと考える。

（以上）

資　料：ルーテル学院大学主催「地域福祉ファシリテーターの養成
「福祉のまちづくりを協働して推進する人になろう」

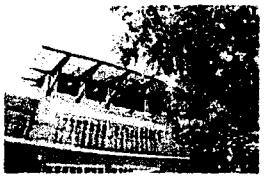
ルーテル学院大学 コミュニティ人材養成センター

創立：1909年
学生数412人（大学院 神学校を含む・2017年5月現在）

東京都三鷹市大沢3-10-20　TEL.0422-31-7920
fukushi@luther.ac.jp
http://www.luther.ac.jp/college/included/community/

設立のあゆみ

2009	大学創立100周年を記念し、大学の社会貢献・地域連携活動の拠点となる附属機関としてコミュニティ人材養成センターを設立 「地域福祉ファシリテーター養成講座」第1期スタート 「人に関わる専門職に対する研修」を4講座スタート 三鷹市「地域ケアネットワーク」設立支援
2011	東日本大震災被災地での学生のボランティア活動開始（2013年度まで）
2012	学生向けメールマガジン「こみゅせん通信」配信スタート
2014	総合人間学部人間福祉心理学科1学科5コース制に改組、「食DE絆」スタート
2015	「認サポの会」結成、 「ボランティア実習」を大学の科目として開講
2016	「インターンシップ」を大学の科目として開講 「対人援助の職場におけるリーダーのスキルアップ講座」スタート 学生たちによる熊本地震被災地支援募金活動をサポート
2017	地域福祉ファシリテーター養成講座を大学の科目として開講



■コミュニティ人材養成センターのミッション

社会貢献・地域連携活動の拠点として、コミュニティにおける「人に関わる人材」における養成活動を展開することを目的としています。

［事業内容］

人に関わる専門職に関する研修

地域づくりに関わる活動者の養成

地域の行政、関係機関・団体との連携事業

近隣の関係機関・施設等における学生の実習・体験活動等の調整

学生のインターンシップやボランティア活動への参加支援

コミュニティ人材養成センター

地域福祉ファシリテーター養成講座

■年間活動状況

2017.06	「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム−
07	ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム−
08	ファシリテーター養成講座修了生の活動「情報の交差点」に学生が参加
09	ファシリテーター養成講座
10	ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム− 対人援助の職場におけるリーダーのスキルアップ講座
11	ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム− 対人援助の職場におけるリーダーのスキルアップ講座 学園祭でのインターンシップ・ボランティア実習報告 ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム−
12	ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム− 三鷹市「地域ケアネットワーク合同事業」への学生の参加
2018.01	ファシリテーター養成講座、「食DE絆」−学生と一緒にランチタイム−

■ルーテル学院大学コミュニティ人材養成センターとは

地域と地域をつなぎ、人と人をつないで
地域を組み立てる人材を養成

コミュニティ人材養成センター長
名誉教授
和田 敏明氏

STEP1
設立のねらい

学院創設100周年を契機に地域社会と関係を深める関係づくり

「コミュニティ人材養成センター」の設立は、ルーテル学院創設100周年が大きな契機となっています。単なる記念行事を行うのではなく、周辺地域の人材を養成し資質向上に役立つような役割を大学が果たしたいという目的によるものです。

現在、コミュニティ人材養成センター長を務める和田敏明氏は、全国ボランティア活動振興センター所長、全国社会福祉協議会事務局長の経歴を持ち、地域における福祉サービスの推進に強い関心を抱いていました。「和田氏が着任したことで、大学の社会使命とは、地域貢献とは、という100周年記念事業における議論の中で、学内だけでなく学外の人材を育てる仕組みをつくろうという結論に至りました」と、当時学長を務めていた学事顧問の市川一宏氏は話します。

STEP2
学生への総合的支援

教員と学生をつなぐプラットフォームに

ルーテル学院大学では、実践力を身に付けるために、社会福祉現場などでの実習教育を重視してきました。コミュニティ人材養成センターの設立とともに、地域福祉開発コースや子ども支援コースを含む学部での1学科5コース制の導入を契機に、実習教育に加え、インターンシップやボランティア活動への参加支援の体制も整備しました。コミュニティ人材養成センターでは、実習やインターンシップ先等の紹介にとどまらず、学生の可能性を探りながら相談に乗り、実習中で自信をなくしているときには学生を支えながら、あとあとまで学生をサポートします。こうした学生の実習の支援もコミュニティ人材養成センターの大きな役割となっています。また、コミュニティ人材養成センターでは実習等の担当教員とも学生の情報を密に共有し、実習やインターンシップ、ボランティアなどの活動にとどまらない、学生の進路までを総合的に支援する窓口となっています。「そのためコミュニティ人材養成センターは、学内において学生の状況や課題を最もよく知る部署だといわれています」とセンター長の和田氏は話します。「それぞれの業務ごとに新しい部署をつくって、縦割りにして任せてしまえばいい、というようなことはありません」と市川氏も言います。「こうした複数の業務を兼務にこなす取組ができるのも、大学の規模が小さいから」と和田氏。「実際に形にするのは簡単ではないですが、学生の顔と名前を教員は把握し、一緒に話し合いながら学生を育てる環境ができています」と市川氏は話します。

STEP3
地域への貢献

自分が住む町を大切に思い地域に貢献するファシリテーターを養成

コミュニティ人材養成センターでは、地域からのボランティアの依頼に応え、学生にボランティア情報の提供・サポートも行いますが、より重点を置いているのは、地域づくりに参加して一緒に人材を養成し、活動組織づくりや運営の手伝いをするという点よりは面としての活動です。地域貢献というのは大学にとって大きな課題であり、そのためにルーテル学院大学が開設したのが「地域福祉ファシリテーター養成講座」です。「今は文部科学省も大学の果たす社会貢献の一つとして地域貢献を取り上げているように、地域貢献ということが大学の大きな流れになっています。当時としてはその先駆けの試みでした」と和田氏は話します。

学長を務めていた時にコミュニティ人材養成センターを設立した学事顧問の市川一宏氏（左）と、全国ボランティア活動振興センター所長、全国社会福祉協議会事務局長などを歴任し、社会福祉ボランティアに関する第一人者の和田敏明氏（右）。

地域福祉ファシリテーター養成講座の特徴は、三鷹市・武蔵野市・小金井市の3市とそれぞれの市の社会福祉協議会、そこにルーテル学院大学が加わった7者による協働で活動していることです。「それぞれの組織の責任者にプログラムを提案して相談し、組織の中でも議論していただきました。必要性を理解いただけたことで組織の垣根を越えて協力いただけることになり、この養成講座は、コミュニティ人材養成センター設立後の早い段階から大きな柱となる活動になりました。」と和田氏は話します。地域福祉ファシリテーター養成講座の参加定員は、1市につき15名。毎年7月に開講し、1月で修了となります。講座は地域福祉ファシリテーターの役割に関する講義のほかに、小グループによるディスカッション、ロールプレイ、実際の現場に出かけて地域の先駆的な取組についてヒアリングを行う調査など、参加型の内容が中心となっています。

講座開講後8年で、3市あわせて284名の地域福祉ファシリテーターが誕生。講座修了生たちによって、現在23件の新たな「地域の支え合い活動」が生まれています。

地域福祉ファシリテーター養成講座の内容

		プログラム
地域の活動と課題を知る	1日目	講義「これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割」 講義と演習「地域で役立つ社会資源を発見する」
	2日目	演習「地域の福祉課題を考えよう」
	3日目	講義と演習「地域でサポートするときの人との関わり方」
	4日目	実践交流 「地域の活動実践交流ー地域で展開されている先駆的な取組と、講座修了生の活動を知ろうー」
	グループ学習	「地域の福祉課題を調査する」
活動を企画する	5日目	福祉課題レポート発表
	6日目	講義と演習「活動の計画をたてる手法を学ぶ」
	7日目	「福祉課題解決に向けた『新たな支え合い』活動を企画する」
	グループ学習	プレゼンテーション「私たちが企画する『新たな支え合い』活動」 修了式

立場の違う人たちが出会うことで新しいつながりが生まれる

地域福祉ファシリテーター養成講座をスタートしたことで、コミュニティ人材養成センターが目標とする地域との関係性は非常に強くなっています。2017年8月には、8期修了生の活動「情報の交差点」が企画した「みんなでやろう、遊びとスポーツ」をルーテル学院大学で行いました。地域の小学生が集まり、学生も企画運営に関わりながら参加し、おにごっこやフットサルを楽しみました。ファシリテーター養成講座から生まれた様々な「地域の支え合い活動」に学生が見学に行くなど、支え合い活動から学生が学び、学生が支え合いに関わる場となっています。

ファシリテーター養成講座には、自治会の役員やボランティア活動を行っている人、これからボランティア活動を行ってみようという人など、様々な立場の方が参加していますが、同じ地域に住んでいてもお互い会ったことがない人がほとんど。「そうした人たちがここで出会うことで、考えや立場が違う人たちと一緒にやっていくということを学びます」と和田氏は養成講座によるファシリテーター養成について話します。さらに和田氏は、そうした人たちの本来の活動にも影響すると言い「例えば自治会活動を行っていた人が地域ボランティア活動を行っていた人に出会うことで地域ボランティアに関心を持ち、つながりを生み出していくようなことが起こります」と話します。

地域福祉ファシリテーター養成講座は、7月から翌1月にかけ、隔週で毎回180分行われますが「カリキュラムのグループ学習は、ほかではできない内容です」と和田氏。グループ学習はそれぞれ3～4回行い、関心のあるテーマに沿って地域に実際に行って調査し、まとめて発表するというものになっています。さらに養成講座の後半に行われるグループ学習では、関心の合う者同士がグループを作り、これからどんな活動を行いたいかという、実際の企画を創り出します。和田氏は「他の地域からも、同様な講座を開設してもらえないかという話をいただくのですが、このグループ学習の部分が非常に手がかかるため、お断りをしています」と言います。全く立場も背景も違うと思っていた相手と、同じ机を囲み出会うことで変わっていく、そんな場所をルーテル学院大学では提供しています。

これまでは社会人対象の講座でしたが、2017年からは学生でも4年生であれば参加でき、単位として認められるようになりました。今後は学生にとっても有効な講座となり、学生と地域住民とが共に学ぶ良い機会となることが期待されています。

ファシリテーター養成講座から生まれた「地域の支え合い活動」例

ぬくぬくカフェ鷹野（三鷹市6期）	都営住宅に住む高齢者を対象に、孤立を防ぐ目的で、集会室を利用した交流カフェを実施
ハッピーグランパ倶楽部（三鷹市4期）	シニア男性の地域デビューのサポートを目的に、シニア向け「グランパ養成講座」と、子どもと交流する活動を実施
ケアラーズカフェよりそい（武蔵野市5期）	介護者同士が介護体験を分かち合ったり、介護の知識を学ぶ講座を実施する交流の場を実施
独歩の森を楽しむ会（武蔵野市7期）	緑地を活用して、自然に触れながら世代を超えた交流の場を実施
小金井の縁がわ（森のこみち）（小金井市3期）	自宅を開放して住民同士の交流の場を実施するとともに、市内の居場所マップを作成して配布
みんなdeごはん（小金井市6期）	一緒に食事を作って食べることを通じて、子どもと地域の大人が交流する場を実施

取材者の目

学院創設100周年を機にセンターを設立

- 個々の学生の状況や課題を最もよく知る組織
- 地域の人材養成とともに、学生の学外活動から進路まで総合支援

REPORT

■被災地支援活動

味の素スタジアムで炊き出し支援

福島第一原子力発電所の事故による避難者と東日本大震災による被災者約700名が、調布市の味の素スタジアムに避難されていました。ルーテル学院大学復興支援特別チームでは、調布市社会福祉協議会と連絡をとりつつ、炊き出しボランティアを行うことを決め、日本福音ルーテル教会東教区からの呼びかけもあり、学生と教会員が共に参加しました（2011年4月）。

炊き出しの準備は、学生と教会からの4人のボランティアと、学内で行いました。味の素スタジアムでの炊き出しは、チャプレン、本学教員、寮母、本学学生、教会より5人のボランティアが参加し行われました。この炊き出しの提供を通じ、被災者の方々とも話ができ、しばし和んだ時間を共にすることができました。

炊飯が進に詰まった器や盛る用意

東松島・石巻でのボランティア活動

活動拠点としてルーテル支援センター「となりびと」に受け入れていただき、仙台でのボランティア活動を実施しました（2011年6月～8月）。

活動は主にグループホームでの砂利ならしのお手伝いや瓦礫の片付けが中心となり、被災された方たちから話を伺う機会もありました。被災の惨状を目の当たりにしたことで、自分たちにできることの小ささを痛感し、一日も早い復興を祈りつつ汗を流しました。

学院生の住み込み風景

NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパンとも協力して、被災した方たちの心のケアとも関わっていきました。

被災地でのスタディツアー

ルーテル学院大学とルーテル支援センター「となりびと」とが共同で、春休み、夏休みを利用して、計4回にわたり被災地でのスタディツアーを行いました（2012年3月～2013年）。このスタディツアーでは、学生が被災地の視察や被災者訪問、仮設住宅での夏祭りの運営にボランティアとして関わることなどを通じて被災地の状況を目に焼き付けることで、そこから震災の教訓を学び、いま自分たちに何ができるのかを見出しながら、被災地を学び考えました。

熊本地震の支援活動

学生有志による支援団体を立ち上げ、被災された現地の方々への支援を目的とした募金活動を、大学及び街頭（武蔵境駅・吉祥寺駅）で実施しました（2016年4月）。また、神学生たちは現地でのボランティア活動をしてきました。

REPORT

■活動紹介

ファシリテーター養成講座から生まれた「食DE絆」

地域福祉ファシリテーター養成講座の2013年度修了生と学生が協働で開催する「食DE絆」は、地域の方と学生が学食で昼食をとりながら交流する、孤立を防ぎ支え合う地域作りを目指した地域交流サロンです。

参加者の多くは高齢者なので、学生は可愛い孫のようなもの。この他、多くの世代の方が楽しみに足を運んでくれます。2014年から毎月第3水曜日に開催され、食事はワインコイン（500円以内）。2時間の交流はいつも賑やかな雰囲気です。

学生スタッフは16名で活動し、2016年度にはのべ260名が参加しました。

食堂で学生と一緒にランチタイム

学生グループ「認サポの会」

認知症サポーター養成講座・キッズサポーター養成講座を開催

小学生を対象としたキッズサポーター講座。

社会福祉実習を終えたルーテル学院大学の学生が中心となり、学生が何を学び何を思っているのか、地域住民の方々が日々どんなことを感じ何を思っているのかを知る交流の場や勉強会として学生グループ「認サポの会」が結成され、2015年から地域住民と学生を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しています。

「認サポの会」では、2015年10月に地域住民を対象に、2016年6月には学内の学生向けに「認知症サポーター養成講座」を実施、「食DE絆」に参加する地域の高齢者の方も参加しました。さらに8月には近隣の学童保育の子供たちを対象に「キッズサポーター養成講座」を実施するなど積極的に活動を行っており、10月の三鷹市主催のシンポジウムにおいて、学生代表がシンポジストとして登壇しました。

学生の地域活動のサポート

社会福祉施設や医療機関での聖歌隊・ハンドベルの派遣奉仕演奏活動など、学生は多くのボランティアや奉仕活動を行っています。コミュニティ人材養成センターの教員やスタッフは、紹介だけでなく、困ったときの相談にのったり、助言をしたりしています。

地域ケアネット合同事業に参加

2017年11月に三鷹市での「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる支え合いのしくみ」の事業の一つである地域ケアネットワーク合同事業「語り合おう、つながろう！大学・学生との情報交換会」に近隣他大学の学生とともに参加しました。会議では学生も積極的に話し合いに参加し、有意義なものとなりました。

こみゅせん通信

ボランティア募集情報、福祉分野求人情報等を掲載した学生向けメールマガジン「こみゅせん通信」を発行しています。2016年度は65回発行しました。

この他、授業では2年生を対象に「ボランティア実習」、3年生を対象に「インターンシップ」が開講されています。

VOLUNTEER & SCHOOL LIFE

■学生ボランティアの意義

ファシリテーター養成講座で多様な考えを学ぶ

普段の大学生活では同世代の人間としか関わる機会がないですが、この講座では年代や立場の異なる住民の方々と関わることができ、多様な考え方を学ぶことができました。さらに、立場や考えの異なる方とのコミュニケーションの取り方やプロジェクトのまとめ方など「協働」の方法を学ぶこともできました。

人間福祉心理学科
地域福祉開発コース 4年
針谷 広己さん

「食 DE 絆」で学生だからできる関わり方を学ぶ

この場所は自分が暮らすまちにどのような人達がいるのか知ることができ、高齢者だけでなく、若い世代の参加者の方々と会話をする中でコミュニケーション方法を学ぶことができる場だと感じています。サロンを必要として求められる参加者でも専門職でもない、学生だからこそできる関わり方があると感じる事できたことも学びの一つです。

人間福祉心理学科
地域福祉開発コース 3年
小林 聖子さん

地域に育まれて成長した学生が地域に貢献する人材となっていく

ルーテル学院大学　教授
地域福祉開発コース 主任
山口 麻衣氏

コミュニティ人材養成センター開設による実践教育と大学内の地域実践拠点の一体化と、新カリキュラムによる地域実践教育の強化により、シナジー効果が生じています。実習教育、インターンシップ、ボランティア活動、就職支援、卒後教育までワンストップで対応できるのが強みです。

ルーテル学院大学 コミュニティ人材養成センター 取材後記

地域貢献が大学の重要なテーマのひとつとなっている今、ルーテル学院大学は福祉学系という特徴はあるものの、小規模な大学ながらにその専門性と資源を十二分に活かして地域に貢献しています。また、小規模であることが学生と教員の距離を近くし、学生の成長を促すボランティア活動をきめ細かく支援しています。

本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費よる委託事業として、《一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構》が実施した２０１９年度「専修学校による地域中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。

2019 年度 文部科学省
「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」
まちづくりファシリテーター養成講座
調査報告書

令和２（2020）年３月
一般社団法人日本建築まちづくり適正支援機構
https://jcaabe.org